千里山花壇

花壇前驛

（千里山花壇（すぐ前）桃林（附近一帶）梅林（附近一帶）
千里山花壇は電車の直營で、大阪から僅か十五分で行ける）

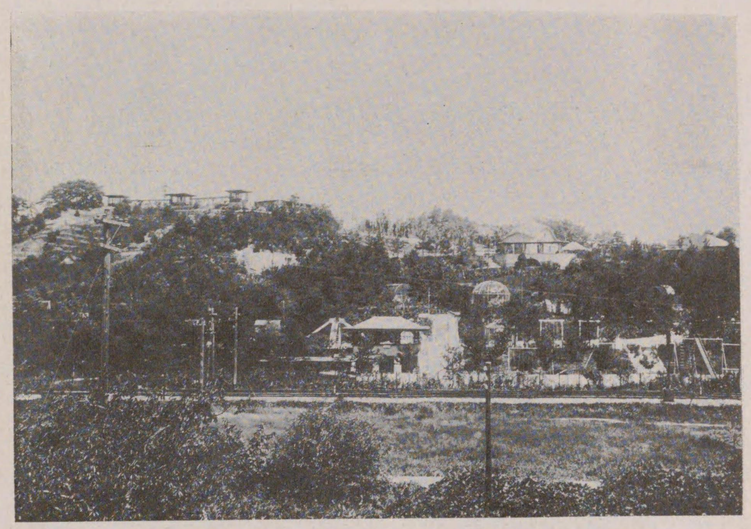
遊園は廣袤壹萬四千坪あるが、中にも子供遊戲場は遊戲具の多い事と、その設備の完備せることに於て、なる程大阪一とうなづかれる。それに所々に配した動物園は又なく子供に喜ばれて居る。中腹に設けられた餘興場、頂上の展望臺、所々に設へられた休憩所は共に清洒な氣の利いた建物で、展望臺からは大大阪を一眸に收めることが出來る。更に數丈の瀑布と碧潭之を點綴する奇岩奔流皆これ盡きぬ趣を見せて居る。若し夫れ園内の和洋料亭では絃歌湧く大宴會でも、おつな淺酌低唱にでもふさはしくおいしい庖丁を喰べさせると云ふ。人若し遊園に杖を曳くならば。

▲春、三月寒梅笑み初むる頃からは、附近一帶の山に谷に、見渡すかぎり燃ゆる様な桃色に染め出されて香に醉はしむる。

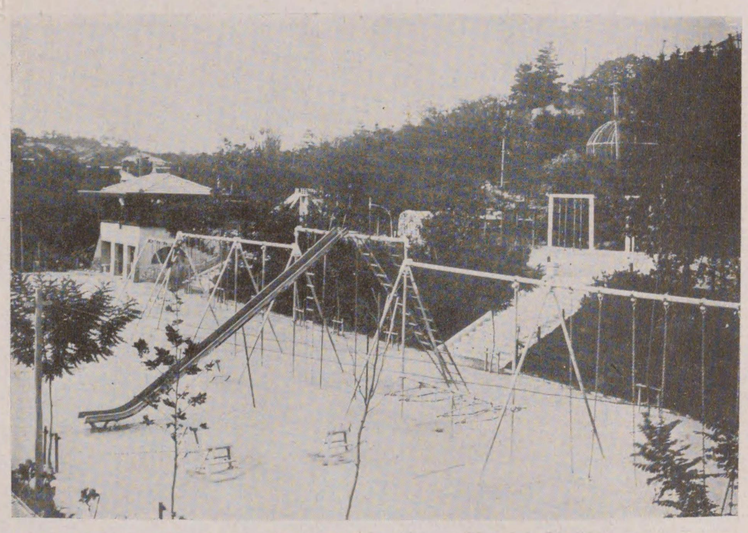
春四月花の魁桃の頃となれば、附近一帶の梅林は文字通り花のトンネルを描いて人を馥郁たる眞に『關西一』の名にそむかぬ桃源と化し、更に櫻が笑み出せば園内到る所絃歌の叫びに滿山遍く が如き賑はいを呈する。

▲夏、青葉若葉に風薫る初夏の頃からは、霧島、さつき、花菖蒲、和洋草花は一時に妍を競ふて滿山を蔽ひ、人を恍惚の境に入らしむ。燒き付く様な眞夏の頃でも飛瀑碎けて玉と散る水境に遊び、更に清潭に棹さゝむか眞に肌に粟を生ずるの思がする。

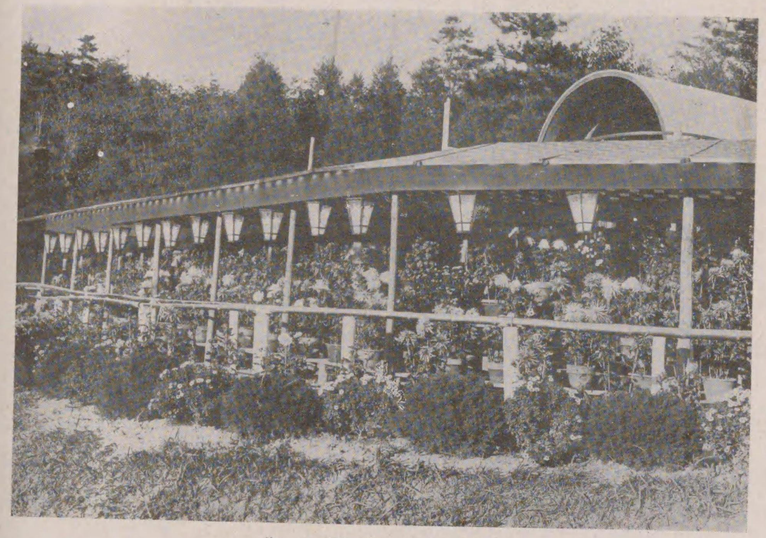
▲秋、秋風立つ九月からは、郊外の散策に亦最も適はしい。殊に大阪郊外唯一と謂はれる大菊花壇に咲き匂ふ無數の菊花、それに桔梗、苅萱、おみなへしなど秋草が咲き亂れてその強い香と、その優しい趣、啼く虫の音に相和して秋の郊外氣分を味ふ事が出來る。九月末から十月にかけて、園内運動場は市内の學校や會社、工場、商店などの運動會で連日賑つて居る。



千里山花壇の全景



同上兒童遊戲場

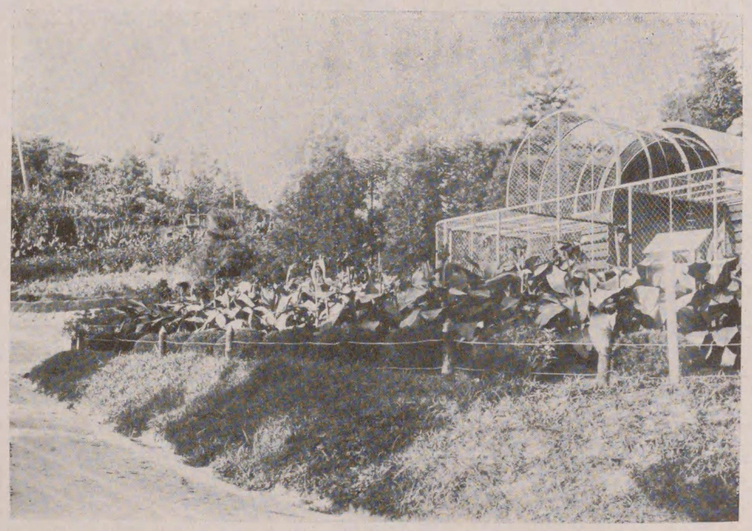


千里山花壇の菊

千里山の桃

新京吹電車沿線中第一の風光を誇る千里山ル壇の瀧（上）

仝　上　孔　雀　舎　（下）



瑞光寺

天然山瑞光寺と號し聖徳太子の開基である。太子四十二才の御時香木を選み一刀三禮して親彫し給ひし厄除觀世音を本尊とす。境域幽邃殊に弘濟池に架せられた雪舟橋の高欄は、鎌倉で造られ、人目を引く。永く有栖川宮家の祈願所で、近くは明治四十四年近畿大演習の御大正天皇茲に御休憩を給ひ、書院は當時のまゝに保存されてある。

諸人の賴みをこゝにくじらはしすぐなる
心まもりたまはん　（番外御詠歌）

歌の名所泪池は瑞光寺の北小杉田圃の中に在る。

（夫木）よしさらば泪の池に身をなして心のまゝ
に月やどるらん　（西行法師）

江口の君堂は驛の東十丁にある。江口の里は往淀川の河口にあたり、當時西海より京に上る旅人はみなこの江口に入津して川船に乘かえたものである。されば當年青樓臺をならべ、さんざめく絃歌の音は難波津の海を壓したもので、所謂江口の遊君とて、神崎のそれと共に世にその名が高い。殊に遊女妙は歌の名人で新古吟集に

世の中をいとふまでこそ難からめ假のや
どりを惜む君かな　（西行法師）
返し世をいとふ人とし聞けば假の宿に心とむ
なと思ふばかりぞ　（遊女妙）

と撰ばれて居る。君堂は寶林山普賢院寂光寺と號し妙女が永えに眠つて居るのである。

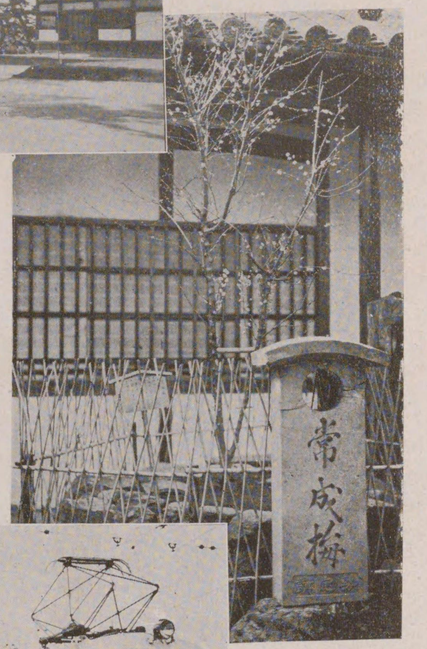
總持寺

三島村總持寺に在り補陀洛山と號し眞言宗高野派寶成院末にして、十一面千手觀音を本尊とする西國二十二番の札所である。仁和二年五月大織冠鎌足の墓山陰中納言政朝の開基にして寛平二年の創建である。一條・後一條・白河・鳥羽歷世の御願寺として叡信深く當時七堂伽藍巍然たる巨刹なりしが、元龜二年織田氏の兵燹に罹りて焦土と化せしも、本尊は一日一夜の猛火の中に燒け給はざりしとて一名火防觀音の名がある。其後衰頽せしが慶長八年豊臣秀賴之を再建したのが今の堂宇である。今寺域二千三百坪伽藍巍然として多くの寺寶を藏し千古の巨刹と肯かれる。

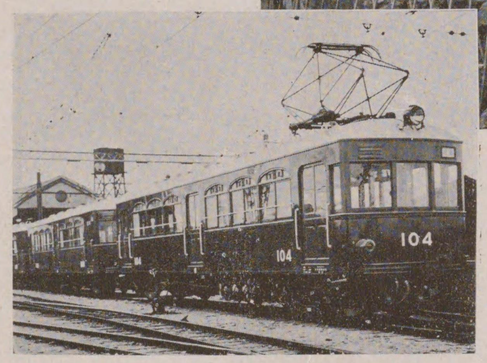
瑞光寺

總持寺

上ノ太子
叡福寺



道明寺天滿宮
常成梅



大鐵使用最新電車式
（米國ウエスチングハウス製造　川崎造船所組立）

大阪鐵道株式會社

沿線遊覽案内

大鐵電車は大阪と河南の地の運輸交通を司り、行樂に探勝に、或は登山に種々の御便宜を計つてゐます、駛馳する電車は、輕快な乘心地の良い最新式の大型で窓外に展開する風光は實に山水明媚であります。

中野疳鍼。鍼中野下車東一丁、小兒の胃腸病其他小兒病に特効あり、中野疳鍼として人口に膾炙して居ます

吾孫子觀音。矢田下車、西南十三丁、聖德太子開基にかゝり節分、初午に詣ずる者多くあります。

大阪教材園。藤井寺下車、南堅大阪市内各學校生徒に自然科學の智識を涵養せしむる目的を以て生物教材を提供し動物園研究室運動場を設く面積約二萬五千坪我國最初の企てなり。

羽曳野、高鷲、藤井寺、古市下車、此附近を埴生と稱し桃園を以て陽春の候淡紅の霞たなびく頃は實に天下の絶景であります。

野中寺、藤井寺下車南へ六丁、世俗中ノ太子と稱され、眞言宗高野山金剛峰寺に屬す、國寶の地藏菩薩其他園史研究資料多くあります。

葛井寺觀音、藤井寺下車、南一丁、聖武帝の勅願に基き創建せしものにして剛琳寺と號し、本尊は千手觀世音菩薩の坐像にして西國五番の札所として有名であります、古來皇室の御信仰厚く、多くの古き建造物其他國史研究資料に富んで居ます。

道明寺天滿宮、道明寺下車、西一丁、菅公及祖先天穗日命御伯母覺尼を合祀し、毎二十五日を例祭とし、殊に三月二十五日は紫種御供の神事として有名であります。菅公御自作御神像を奉祀し且菅家發祥の地にして而も舊御地であります、八稜神鏡を始め多數の寶物があり境内に野見宿禰の初めて土偶を作りて殉死に代へしと云ひ傳ふる土師の窯跡があります。梅の名所として知られ殊に常成梅、成就梅は人口に膾炙して居ります。

道明寺、土師の里又は道明寺に下車、松壽院とも稱え、眞言宗の尼寺にして、本尊は菅公作十面觀音で菅公試作の觀世音像と共に國寶にして其他厨子入觀音與正菩薩座像、阿彌陀像涅槃堂數多の寶物があります。

玉手山遊園、道明寺下車、東六丁、脚下に石川の清流を控へ、河擔の平野を一眸におさめ、遠く淡路島を望む、景勝の地にして、春は躑躅秋は松茸の名所であります、種々の設備があり、一日の行樂地として理想的であります、園内に淨土宗の安福寺あり、僧行基の開基にかゝる。

譽田八幡宮、譽田下車北一丁、應神天皇、仲哀天皇、神功皇后を合祀す、國寶の土佐光信筆、源頼朝公寄附の鳳輦、三條小鍛治宗近作長刀始め朝鮮王より寄進したる石燈籠等數多の寶物があり、例年祭の四月八日には、三韓征伐の古事を模倣したる藤地車を出すを恒例とします。

蓮田隼人の墓、譽田下車北四丁、岩見重太郎として名高

い薄田隼人の大阪夏の陣に戰死せし所であります。

佛眼寺　太子口喜志下車、東三十町、眞言宗西國順禮の靈場で自動車の便があります。

叡福寺　太子口喜志下車、東廿五丁、聖徳太子廟の西南にある、眞言宗高野山金剛寺に屬し、弘法、見眞、承、諸大師日蓮上人其他一宗の高僧碩徳の參籠勤行せし所にして後深草帝後嵯峨帝の寫經塔五宇ケ峰、寶篋院塔其他靈蹟什寶數多くあります、毎十一日を太子祭とし自動車の便があります。

小野妹子墓　天子口喜志下車、東五十五丁、遣隋使として國史に有名なる且未生流生花の開祖たる小野妹子の墓があります。

慈眼寺　富田林、東廿五丁、宇治黄檗山萬福寺所轄の禪寺にして正成手記の軍檀目鏡と稱する楠流の兵書があります。

注華寺　富田林下車東一里、河内唯一の日蓮宗の寺院にして日隆上人柳の枝にて岩を穿ちて得しと云ふ靈泉あり、諸病に功驗ありとして遠近より參詣する信者甚だ多くあります。

高貴寺　富田林下車東一里半、役行者開基にかゝる二十八ケ所靈場の一にして、眞言律宗の本山土地高燥幽邃にして天の岩船と云ふ巨巖、聖徳太子の堀られしと傳ふる櫻井戸、弘法大師の堀られし、獨鈷水と稱する靈泉等あり、四季の眺め甚だ良く、殊に時鳥の名所として雅客の詣ずる者多い。

赤坂城址　富田林下車、東南六十丁自動車の便あり元弘の昔楠正成の構築せしものにして今は其址のみ殘つてゐる。

楠公誕生地　富田林下車、東南五十五丁、境内には休泊所其他園體に對する設備あり北遠く河内を一眸に集め景勝の地であります。

千早城　富田林下車、東南三里半、自動車の便あり、長野下車三里、楠公奮闘の跡にして千早川の溪谷を前にして斜面削るが如き絶壁の上に聳つ立てゐる、毎五月二十五日盛大る祭典を擧げ附近老若男女の參拜する者多く向目下境内には楠公神社建設中。

金剛山　海拔一一二二米二。（葛城山と共に一名河内アルプス）攝河泉の平野を初め遠く茅渟の海を距てゝ淡路島も一眸の中にあり、實に河内名山の名に叛きません、千早城址と共に、楠公遺蹟として世に知らる、山頂、葛城神社には團體宿泊の便あり、赤坂城址を經てする富田林口（四里）と、觀心寺を經てする長野口（三里半）とあり、大阪より一日の行程として恰合である、往長野よりし復富田林に出づるは普通であります。

葛城山　（海拔九五九米七）富田林下車、三里、趣味の上より又歴史上としての葛城山を禮讃して杖を引く者多く治道平石城址高貴寺其地名所舊蹟多くあるのみならず、纖植物の理化學の參考資料豊富にして登興味の深きを覺えます、殊に春秋二期の御花畑の美觀にありては遥し天下の絶景と推奨するに足ります、一日の御行樂に恰合であります。

瀧谷不動山明王寺　瀧谷不動下車、東八丁、僧の空海の開基にかゝる古趾にして楠正成の守護神として歸依深く眼病に靈驗ありとし毎二十八日を御緣日として講社其他信仰者の參詣する者多くあります。

汐の宮温泉　汐の宮下車、東二丁半、石川の清流に臨み巨巖の間より湧出する無色透明の靈泉にして分析の結果、疝人病、胃病、リュウマチス其他諸病に卓効あり、鮎、螯、河鹿の名所としても知らる。

龍泉寺　汐の宮下車、東十八丁、ぴらど及みかんの名所、蘇我馬子の創建にかゝる眞言宗古義派の名刹にして中頭山醫王院龍泉寺と云ふ、聖德太子作藥師如來其他種々の寶物があります境内にある歡喜天と共に信ずる者多くあります。

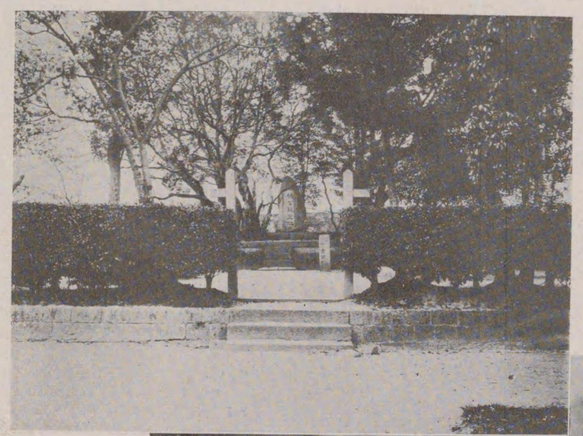
延命寺　長野下車、東三十丁、川上村鬼住にあり僧空海の創建にかゝる眞言宗山城仁和寺の末に屬す、國寶の聖德太子絹本、著色興福天曼荼羅圖を始め種々の寶物あり、**ほととぎす**、紅葉の名所にして雅客の詣ずる者多い。

楠批庵　長野下車、東北二十五丁、大楠公夫人、小楠公四條畷に於て戰死後觀音堂を建て敎鏡尼と號し楠家累代の菩提を弔はれ正平十九年示寂せられし地である。

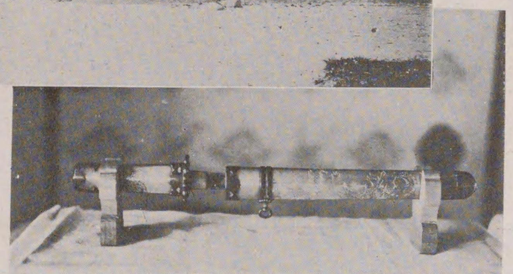
觀心寺　長野下車、東二十五丁、自動車の便あり役小角の創建にかゝり雲心寺と稱せしも弘法大師木尊七星是如意輪觀音菩薩を自ら彫り本堂に安置し寺號を觀心寺と改む、種々の國寶及吉野朝廷及楠家に關する古文書等或國史上貴重なる參考資料多く、梅櫻、ほとゝぎす、河鹿紅葉の名所として名高くあります。

天野山金剛寺　長野下車、西南五十丁自動車の便あり聖武天皇勅願僧行基の創建せし眞言宗御室派準別本山で、正平間の後村上天皇行在所趾があります、境内壯麗樓門には後白河天皇御宸翰金剛寺の勅額を掲げ左右に運慶作毘沙門持國の二天像があり、金堂と共に特別保護建造物にして其後吉野朝廷及び楠家に關する古文書多く、櫻、松茸紅葉の名所として知られて居ます。

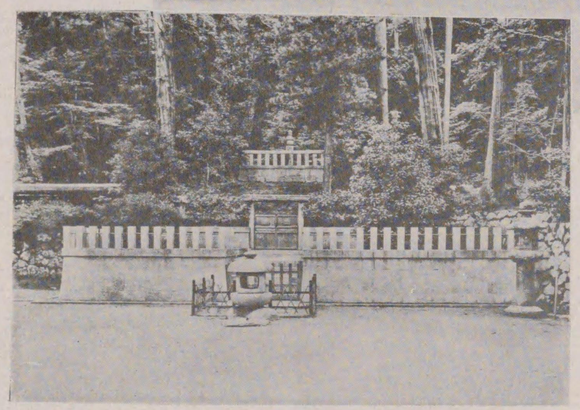
槇尾山　長野下車、西南四里十丁、自動車の便あり、西國四番札所として名高い、本尊は丈六の彌勒菩薩にして國寶の紙本墨書槇尾山大緣起始め美術工藝上の研究資料に富むであります。



楠公誕生地



金剛寺寶物國寶
楠公子別れの小刀



觀心寺境内楠公首墓

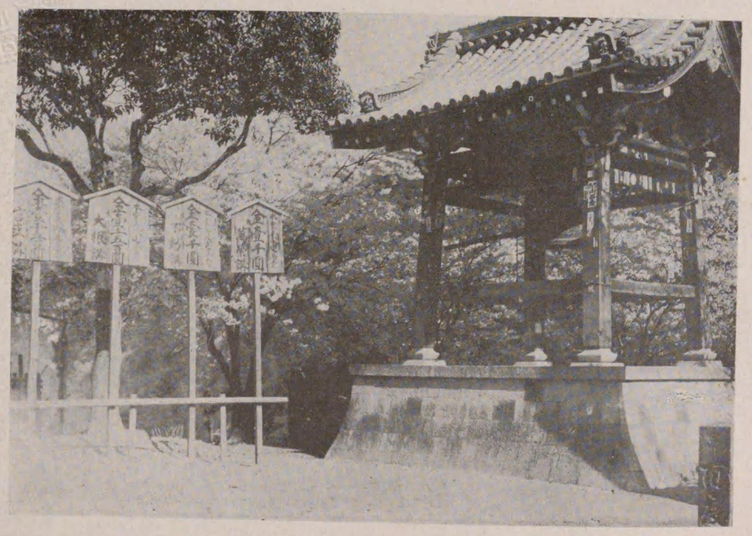
林桃近附寺明道

辻林氏菊花園
（金剛寺ヨリ八丁）

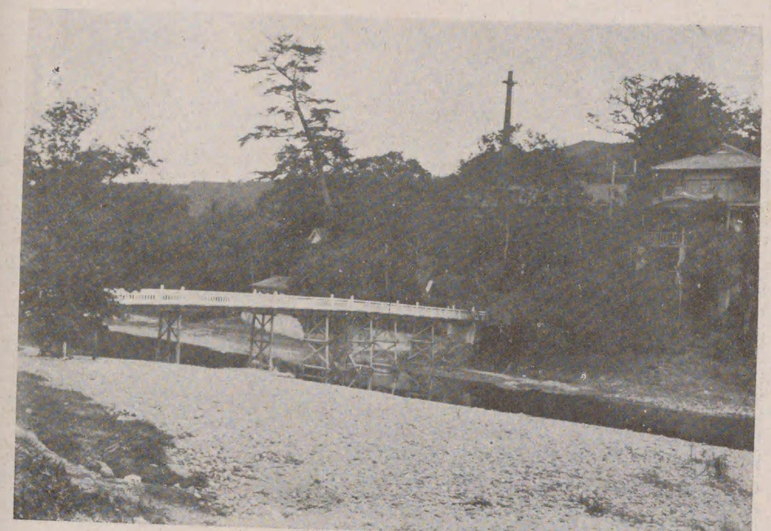
應神天皇御陵

天野山金剛寺天野行宮
（南北両朝行宮）

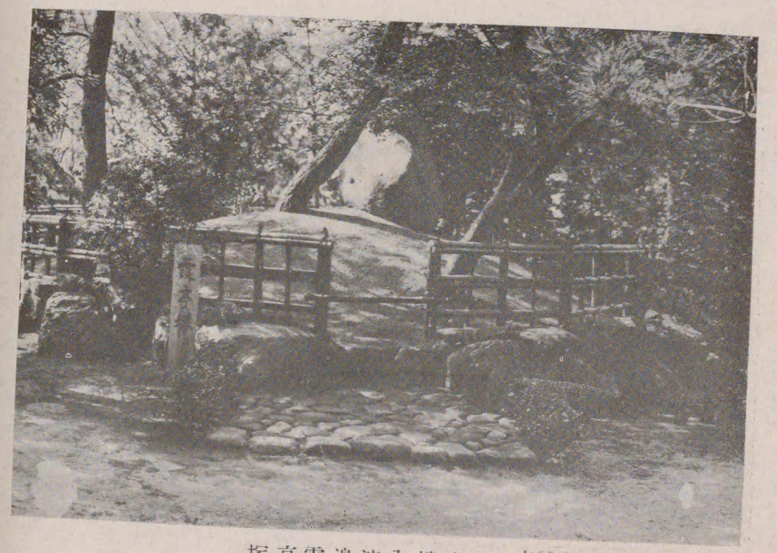
天野山金剛寺



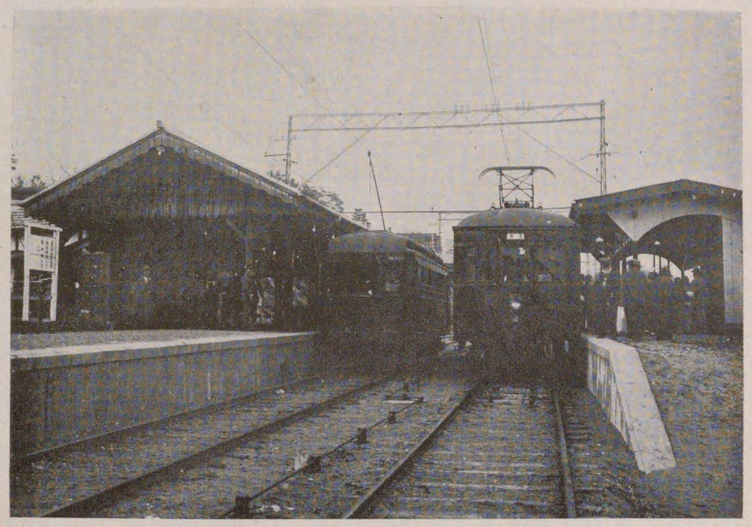
日本三大不動ノ一瀧谷不動



泉温宮の汐



極樂寺境内波邊霞亭塚
(長野驛北四丁)



信貴生駒電鐵生駒驛
（其　一）

上　　同
（二　其）

信貴生駒電鐵株式會社

沿線案内

王寺驛　大阪天王寺驛まで一三哩七分奈良驛まで九哩五分和歌山驛まで五四哩三分
關西本線王寺と共同驛でこゝから分岐し信貴、生駒の兩靈場を連絡する本電鐵線の起點

◆孝靈天皇御陵　人皇第七代孝靈天皇御陵名は「片岡馬阪陵」と稱し王寺町片岡山の中腹にあり（南六丁）

◆達磨寺　聖德太子が達磨大師と邂逅しその跡に建立せられたと傳へらる由緒ある古刹（南六丁）

◆久度神社　竈の祭神として名高い（西三丁）

◆久度の里　花山法皇行幸の地（驛前一帶）

◆法隆寺　本邦古美術の粹を集めその舊態を存せる歷朝勅願寺中第一の古刹（省線法隆寺驛から北十三丁）

◆久土寺　聖德太子建立の廢滅伽藍（すぐまへ）

下山驛　王寺驛より〇哩五分
信貴山ケーブルカー分岐點

◆龍田神社　大氣を司る神を祀れる官幣大社（西南五丁）

◆大和川　背の龍田川である（すぐまへ）

◆坂上毛無岡　萬葉の古歌に名高く大納言大伴家持居住の地（西南二丁）

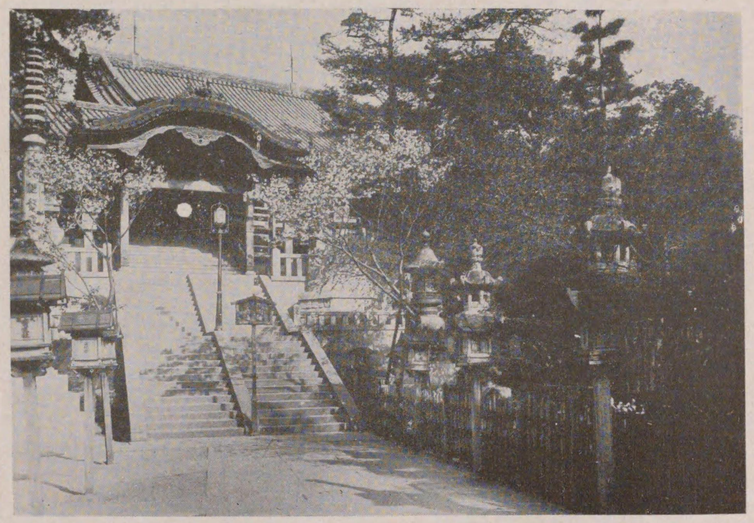
◆龍田川　紅葉の勝地として古來その名天下に冠絕す（東北十丁）

◆總持寺　聖德太子建立の廢滅伽藍（東北六丁）

◆北岡　聖德太子の御子の陵墓と傳ふる大塚山がある（東五丁）

◆平隆寺　聖德太子が鹿のために創建せられた伽藍（東七丁）

◆椿井　往昔椿井寺の大伽藍があり奈良椿井戸、添上郡椿尾井戸の根元地である（北十丁）



信貴山本堂

勝奇の近附淵がんま

信貴山驛

山下驛よりケーブル線一哩一分

◆朝護孫子寺本堂　聖徳太子により創立せられた毘沙門天王を祀れる宏荘なる靈廟で古より皇室を始め貴顯紳士其他一般の歸依篤く境内は一大庭園をなし壯麗なる十數の堂宇と共に「關西の日光」の名を辱かしめぬに足るものがある(西五丁)

◆信貴山城址　松永彈正久秀の居城で今は山嶺に空鉢護法堂あり四方の眺望眞に佳絶である(西十三丁)

◆奥の院　米尾山多聞院と號し境内から燒米か出る(北十五丁)

龍田川驛

王寺驛より一哩九分、龍田川探勝者の便を計り春秋の二期臨時停留場を設く、椋井を經て龍田川、法隆寺を巡遊するに便なり(龍田川まで東南七丁)

平群驛

王寺驛より二哩八分

◆松尾寺　厄除觀音の靈刹(東廿丁)

◆長屋王墓　(東北半丁)

◆吉備内親王墓　(東北一丁)

◆越本塚の灸　古來胃腸、肺、肋膜、婦人病等の諸症に特効ありとて名あり(西南五丁)

◆平群山　山には古墳夥しく平群氏研究の史料に富む、附近一帯は松茸の産地である(西約七丁)

◆石床神社　古來婦人病(殊にしやうかち)に靈驗あり遠近よりの參拜者が多い(西南七丁)

◆椿井城址　筒井三老の一人島左近の居城たりし所である(南五丁)

◆叶堂　(安明寺)聖徳太子が守屋討伐の祈願を叶へられたところ(西三丁)

◆福貴寺　道詮法師が求開持の法を修めたところ(西三丁)

◆平群神社　平群氏の祖廟で延喜式には「平群神社五座名神大神に列す」とあり(西五丁)

◆長樂寺　疱瘡とお産に利益の多い古刹である(西一丁)

元山上口驛

王寺驛より三哩六分

◆千光寺　役行者の開基で元山上の名があり淨域には行場靈石がある俗に「女人山上」と稱へ婦女子の登攀に容易にして清冽な溪谷の流に沿ふて散在する詩のやうな山里を縫ふて盛夏なほ八十度を出ぬ山上に達す（西北廿五丁）

◆金剛山寺　地藏菩薩の靈驗あらたかかで矢田山官林は松茸の産出が多い（東卅丁）

◆生駒山口神社　大和に於ける山口神社十社の一（西南五丁）

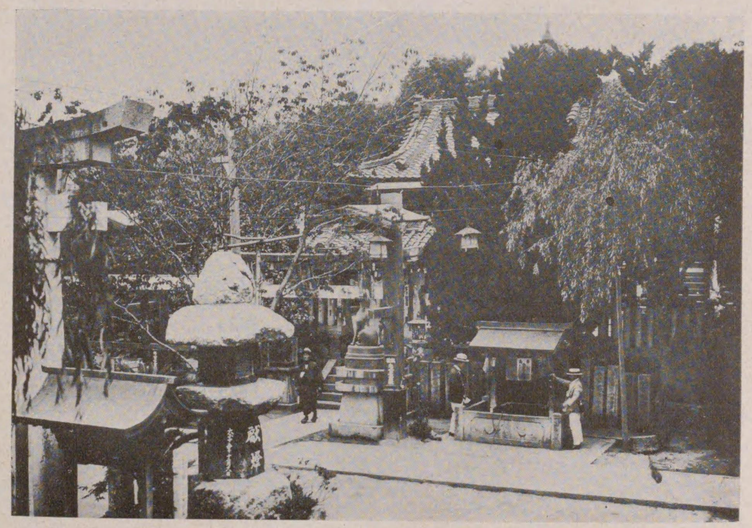
◆金勝寺　行基菩薩開基の本山附近には松茸を産す（北一丁）

◆生駒川　生駒川の清流は平群生駒の兩盆地をつなぐ唯一の地狹の翠巒の間を奇巖に碎け奔流し山水の景趣は附近に幾多の古跡、傳說をとゞめて更にその興をそへ四季一日の清遊に好適の地にして殊に附近の松茸は「まんぐわ淵の螢」と共に遠近に響いておる（北數丁の間）

桎の木大師本堂全景

觀泉寺（南生駒驛前）

龍田神社



河内瓢箪山稻荷神社本殿

南生駒驛

王寺驛より五哩七分

◆椏の木大師　諸病に御利益あらたかで遠近より讀する善男、善女が多い參詣道の兩側は松茸を産す。（東十六丁）

◆寶嶺寺　行基菩薩の開基　圓超上人弘道の地として名あり（西五丁）

◆矢田山官林　松茸の産地（東卅丁）

◆東明寺　舍人親王の開基、本尊藥師佛は日本三藥師の一と稱せらる（東南廿五丁）

◆觀泉寺　有名な十三層塔がある（すぐさきへ）

◆行基の墓　行基菩薩が生前自ら定めた基地（西北七丁）

◆竹林寺　行基菩薩開山の古刹（西七丁）

◆小倉山　（西北卅丁）　鬼垣　（鬼取）

◆鶴林寺　鬼取山と號す役小角の開基で小角が儀學儀賢の二鬼を呪縛した古跡である（西十丁）

◆往馬坐伊古麻都比古神社　太古の面影をしのばせる夢のやうな盆地のなかにくつきりと黒い老樹の森となつてゐる（北十丁）

生駒驛

王寺驛より七哩八分　大軌電車との分岐驛こゝから大軌電車で大阪まで三十分（賃金二十二錢）奈良まで十五分（賃金二十四錢）で行くことができる

◆寶山寺　生駒聖天と稱へ往昔より靈驗著しく寮者日に増し月に加はり燈火香煙の絶へたことがない（大軌ケーブルカーで登り西十丁）

◆生駒山　昔百濟から献上された馬を帝が哀れに思召され放たせ給ふたといふ

信貴山年中行事

一　月　一、二、三、日修正會（本尊開扉）　十四日　佐義長（御札焼とんど）　十五日　大會式

二　月　節分　星供養　十五日　常樂會

三　月　廿一日　正御影供

四　月　八日　誕生會

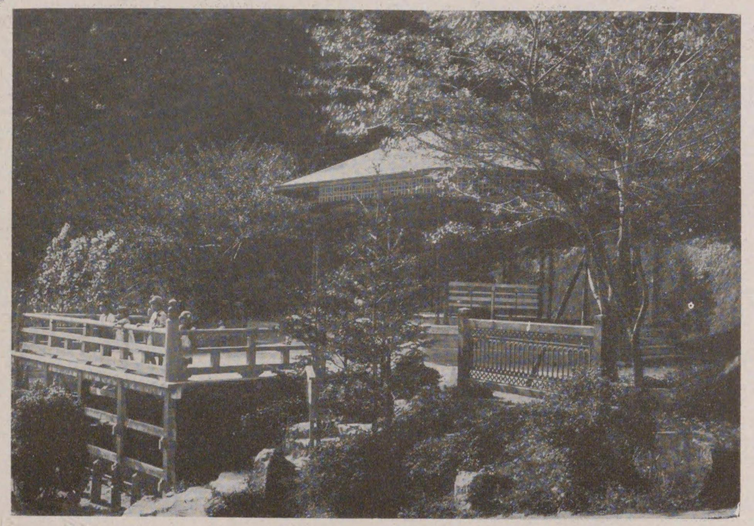
七　月　三　日　大緣日（本尊開扉）　十二日　施餓鬼會

十一月　廿二日　大々法會（本尊開扉）　廿三日　新嘗會式

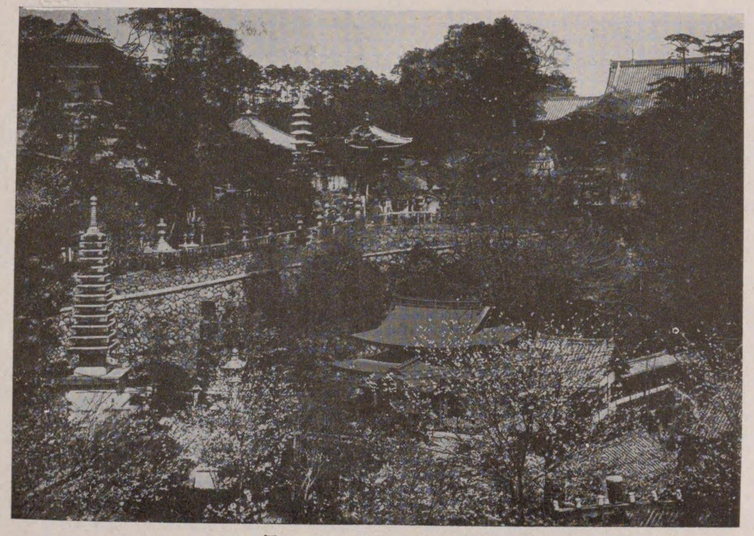
十二月　卅一日　御法樂

春秋二期　期日未定　法勝會法樂

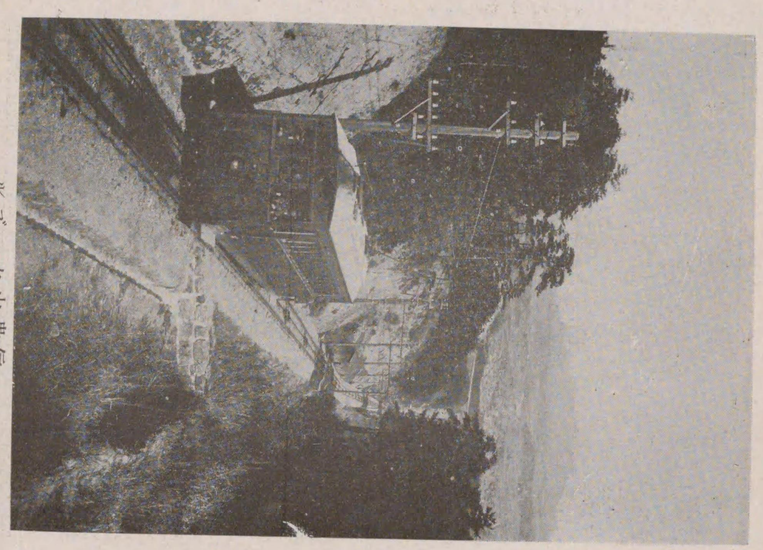
毎　月　一日　三日　十五日　毎寅の日　御緣日



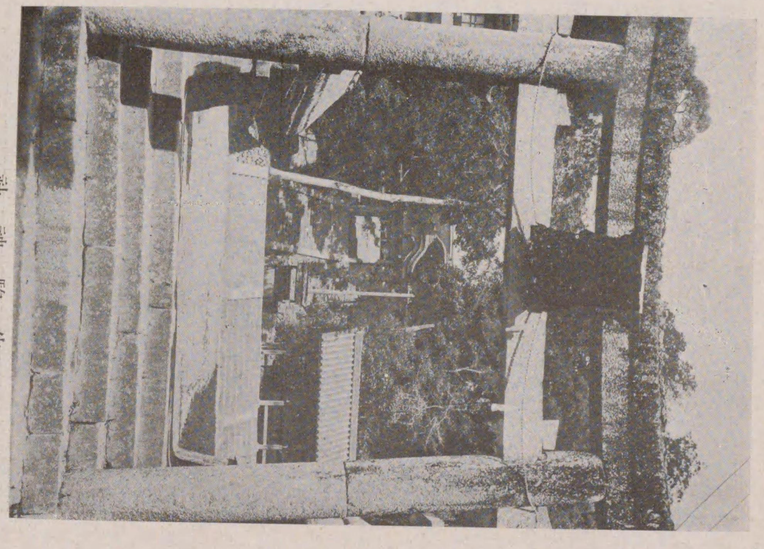
信貴公園



信貴山全景



ルブーケ山貴信



祉神駒生

櫻の山貴信

櫻の山貴信

櫻の趾城山郡

株式會社

大阪ホテル

株式會社 **大阪ホテル**

大阪市東區今橋一丁目

電話本局 八八一〇 二一

取締役支配人 **間部詮信氏**

關西に於て永き歴史を有し旅客本位のホテルとして内外に著名なり、上流社會の宴會、會合等殆んど此のホテルに於て行はる接客の感じ、諸般の設備、最高級の料理等万全をつくして遺憾なし、即ち大大阪一流のホテルとして茲に紹介す。

鮮滿案內

朝鮮を未だ見ぬ國として想像して居る人々は、山も川も、野も、凡てが今でも荒廢そのものゝ樣な狀態に放棄されてゐる未開の地と考へてゐる樣であるが、之等の人が一度朝鮮の土地を踏んだならば、よくもこんなに内地化されたかと驚きの眼を放つ位で、朝鮮を未開の地文明人の住むべからざる土地と考へられたのは、既に過去の夢である。

朝鮮は乾ける國である　そこは、環境なり傳統なり國民性を別にして今日に及んでゐる丈に、濕れる國の者には驚異に値する幾多のものをもつてゐる。「住みかへて住むべき土地は乾ける國とぞ思ふ」誰でも云ふ事だが、朝鮮に三年住んだら内地なぞに住めないと言ふ。

朝鮮の風景と言へば、寂寞そのものゝ樣に思はれてゐるが、世界に其の奇と雄大とを誇るに足る。

金剛山　を初めとして、嘗つては咲き誇つた新羅、高麗百濟の文化の跡、其他至る所名所舊跡に乏しくない。朝鮮滿洲と云へば、一般に寒い國を聯想する樣であるが、南部地方は内地の福井地方に同じく、中部は信濃地方に、また北部は函館地方と殆ど變らない。殊に

三寒四温　と言つて、三四日毎に寒暖交替する爲に、甚だ凌ぎ易い。

朝鮮全土の面積　は一萬四千三百十二方里、略内地本州に異ならない、其處には朝鮮人約千八百萬人に對し、内地人僅に四十萬人である。それでどうして新同胞を導き教へ、彼等の間に伍して

内鮮同化共昌共學　の理想を實現することが出來やうか、この廣い土地　は農業と言ひ、水産と言ひ、林業と言ひ相當天惠に富んでゐるのだが唯資本と勞力の足らない爲に未だ開發せられないものが多い。されば内地資本家諸君は朝鮮開發に向つて一考されんことを希望する。

滿洲　といへば一般交通機關の發達した今日、既に滿蒙の實際を知つた人も、近頃は大分殖えて來た樣であるからいま時

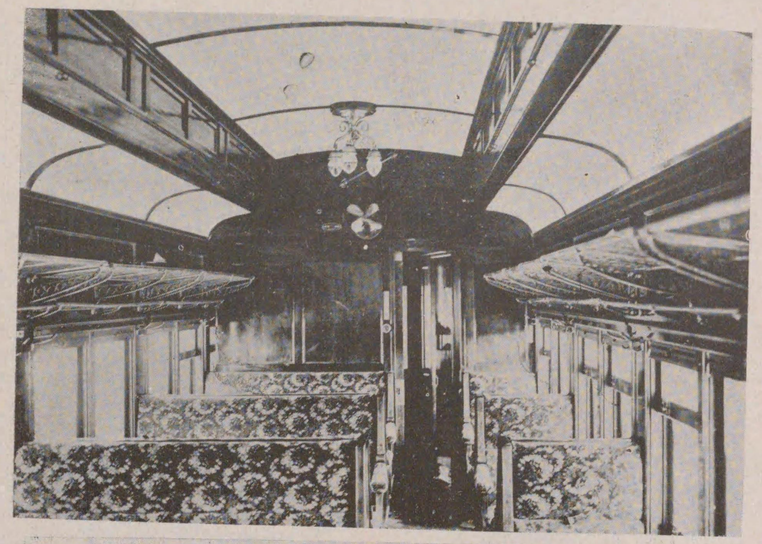
馬賊の話　でもあるまいと思ふが、まだ〳〵多くの人は滿洲といへば、スグ馬賊を聯想し、從て一概に滿洲はこわい所無味荒寥な所、大變寒い所位に想像してゐる樣であるが。

現在の滿洲　は交通機關も整ひ、隨所に日本内地以上の文化都市が出來、警備に必要な日本の軍隊も駐屯し、いろ〳〵の産業が發達しつゝある事情であるから、從てそんな方面に馬賊など居樣筈がない、尤も普通の泥棒强盜の類なら

東京や大阪　のまん中にもある樣に、之はドコも同じだが、ホントウの馬賊などいふのは、まづ滿洲でも餘程の邊鄙か、山奥へでも行かねば見られないのである、それから滿洲はヒドク寒い所だと、ひと頃よくさぞや滿洲は冷めたかろ　と唄はれたものであるが、なる程滿洲は日本より寒いには寒い、けれども大陸は空氣が乾燥してゐるから、寒暖計の零下何度といふ割合には、からだにコタへない、そして滿洲には

滿洲の防寒法　がチヤンと出來てゐて、家の中など極寒でも七十度位に暖められるやうになつてゐる。現に滿洲にゐる二萬人からの日本人の子供が、みんな寒中でも平氣で休みなしに學校へ通つてゐる位で、寒さは少しも恐れることはない。

滿蒙の廣さ　滿洲が六萬四千方里、東部滿蒙古が一萬方里、一寸日本内地の三倍、ソレニ人口が僅に二千四百萬日本の三分の一もない、マダ耕せる土地が一千萬町歩から殘つてゐる



大陸旅行者に快感を與へる其美しき南滿洲鐵道株式會社二等客車の内部（上）と大阪市に於ける鮮滿案内所（下）

鮮滿案内所
東京　東京丸ノ内ビルデング
大阪　大阪東區堺筋瓦町
下關　下關驛前
案内所の業○
朝鮮滿洲に關する各種の質問應答、旅行、通關貨物に關する説明、出張講演、聯絡切符の發賣

建築請負業 **清水組**

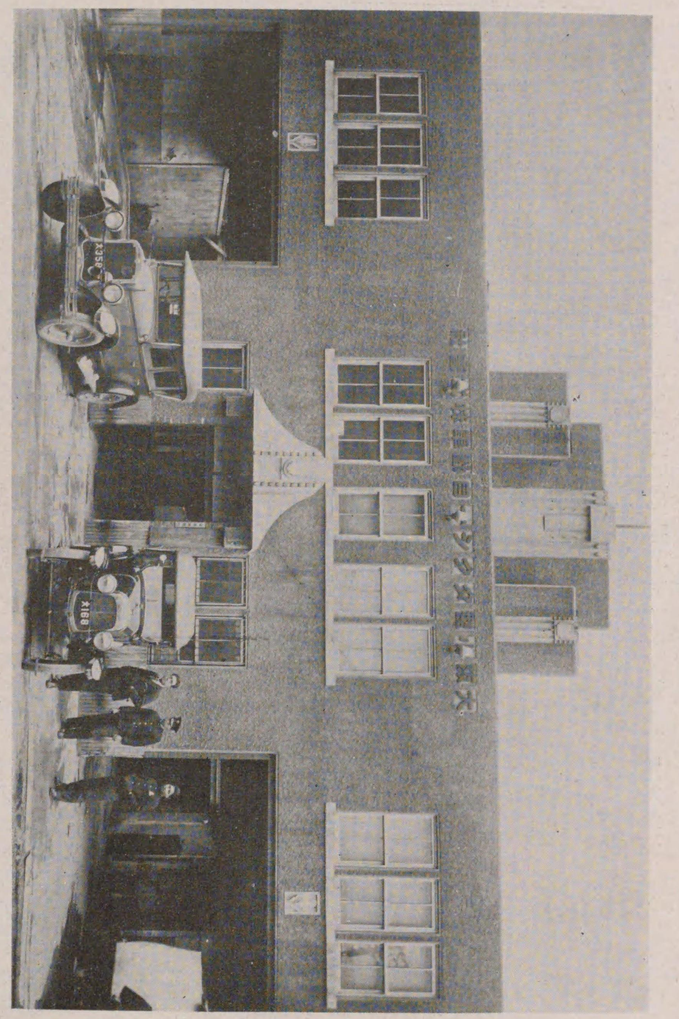
創業 文化十九年十月

本店 東京市京橋區南鞘町十四番地
大正四年合資會社に組織變更

有限責任社員 清水滿之助
有限責任社員 清水揚之助
社長 清水釘吉
副社長 田中忠義
大阪支店長 内山熊八郎

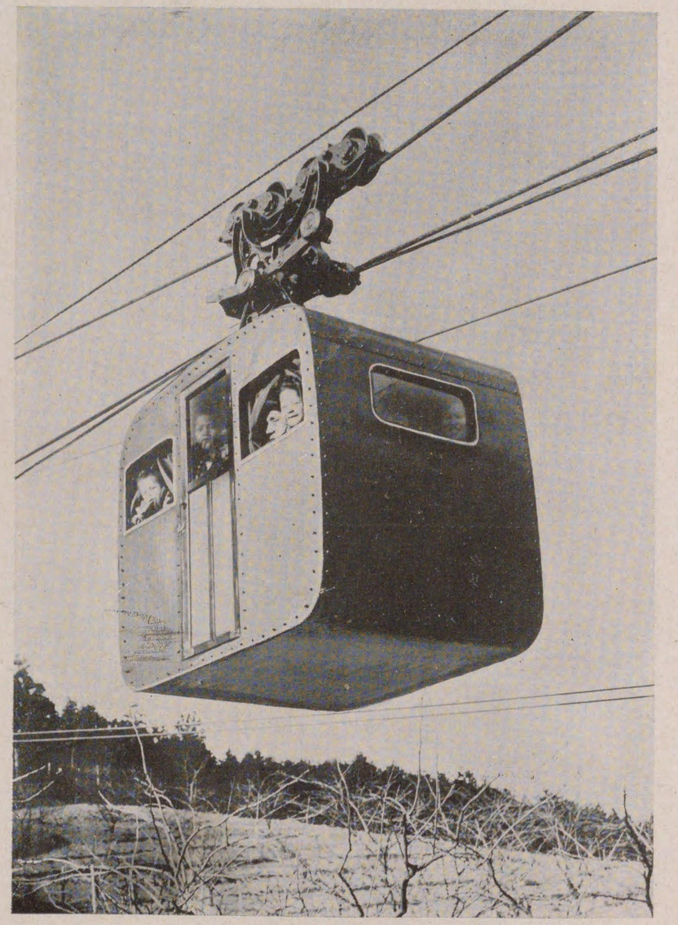
梗概

土木建築の明星として當代に覇を唱へるのは何と云つても清水組であらう。その清水組の初代喜助氏は越中の人で、江戸に出でゝ大工業から今日の礎を固めたのである。當主滿之助氏は四代目の才幹であるが、氏は年齒僅かに十二歳で慈父(先代)の逝去に遇ひ、澁澤榮一男の指導と、賢母の後見によつて家督を相續したのであつた。素より才識豐かな天質は父祖を凌ぎ、今や義兄弟の諸才を率いて清水組全体の盟主となり、益業務の擴張發展を期して將來の覇を握らんとしつゝあるものである。



大阪市内交通機關として最も便利重寶がられて居る大阪小型タクシー株式會社の小形自動車は乘客の軒先から軒先まで至極低廉の料金にて送迎する事に特長を有する勿論使用車は全部優秀高級車ばかりである

本社所在地 電話北六參貳參番



三線式旅客索道車八人乘客車

株式會社

安全索道商會

大阪・北濱

現今の旅客索道

空中に客車が多數の乘客を載せて早い速度で走行すると聞けば見た事のない人は「飛行機の樣で痛快には違いないが落ちはしまいか」と怖ろしがるであらうが實際外國でも旅客索道の客車が墜落した例はなく（尤も在來の貨物索道に比して隔世的に進歩して居る）旅客索道程安全な交通機關は他に比類がないとされて居る。

考えて見ても判るが自動車や汽車等と違つて空中を行くのだから地上の他の交通機關と衝突する事はなく通行人を轢く處もない。又飛行機と異なり索道の客車は丈夫な綱索に依つて支持せられ曳かれる。その方式には種々あるが、假令ば三線式の場合には一客車は三本の强力な綱索で支えられその三本の索條の一本丈にでも客車を支持するに充分なる强度がある、そして是等の索條は適度の間隔において丈夫な鐵塔で支えられて居る。

客車がかゝつて走る軌索（レールロープ）は丁度鐵道のレールの樣なもので表面平たい滑らかな組合せ索（ロックドコイル）でその强さは百噸内外（滿員壹車の總量の四、五拾倍）もある。客車を動かす曳索は數拾噸の强さのものが二本あり、一本は常用索、一本は豫備索である。僅か二噸足らずの重量の客車がこれ位な丈夫な索で支えられて曳かれるのだから索が切れようなどとは想像も出來ない事である。從來のレコードによれば軌索は延人員三千萬人の乘客を運べるだけの壽命を持つて居る。

樣式

旅客索道には種々の樣式がある。前述のもの即ち軌索一本と曳索二本のものを三線式と云ひ、現今最も普通である。軌索二本と曳索二本のものは四線式、其他一本のものは單線式、二本のものは二線式（複線式にあらず）と稱する。右は索の數によつて名稱を定めたものだが、客車の進行方式によると釣瓶式（ツーエンドフロー）と循環式（エンドレス）との二種がある。

釣瓶式（ツーエンドフロー）

釣瓶式と云ふはケーブルカーの樣に曳索の兩端に一つづゝの客車を括りつけ交互に上下するものである。この式は兩停車場の距離が長くなるにつれて到着時間が長くかゝり、ケーブルカー同樣に輸送量が小さく限定せられ延長も短く限定される不便がある。

循環式（エンドレス）

循環式は曳索が無端に循環して廻り客車の握索機はその絶え

ず循環廻行しつゝある曳索を把握して進行するのである、この式だと乗客の繁閑に應じて發車數を調節する事が出來る、忙しい時には二分間又は一分間毎に發車出來るから輸造量は非常に大きなものになる。二十人乗客車一輛を二分間毎に發車すると片道一時間三十回發車し實に六百人を運べる。而して客車が到着驛に來れば自動的に客車はロープを離れて停車場内のレールに乗る。

お客は客車が停車場内に靜止してゐる時に乗降するのだから混雜も危險もなく頻繁に發着する故待つ事が要らぬ。

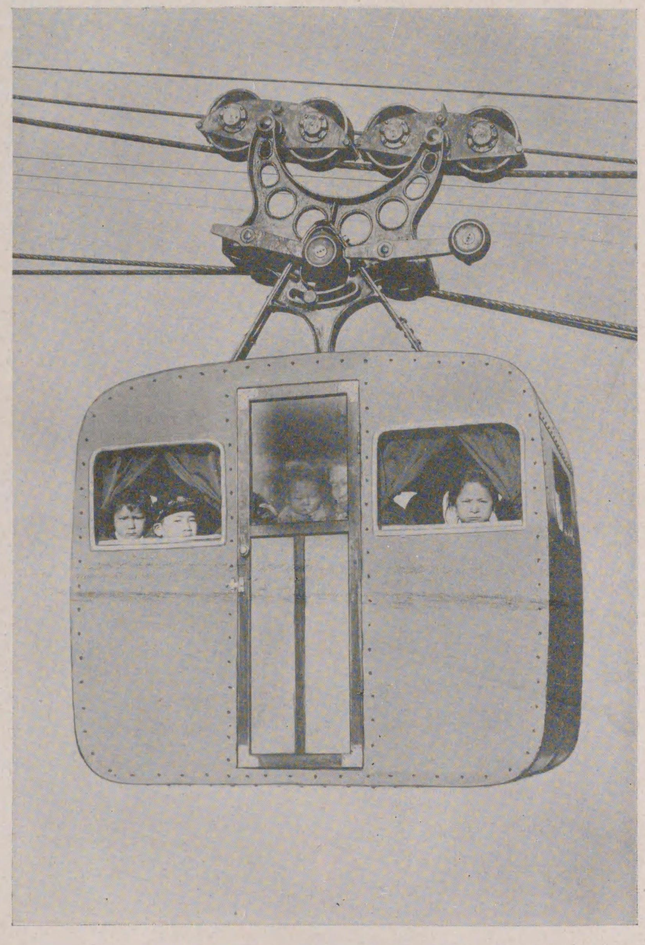
停車場内で客車がレール上を走るのはすべて電氣的に操縱せられる。故に今後の旅客索道は循環式が多くの場合採用せらるゝだらう。

軌索（レール ロープ）（ロックドコイル）

鐵道で言へば軌條の位置にあるレールロープ（軌索）は最良の鋼片を組み合せ外面平滑にして丁度一見ボールト狀をなし客車の車輪との接觸面を多からしめ表皮の鋼片は中心の力になる鋼線を鎧の樣に取り巻いて保護す、故に客車の車輪と接觸して摩耗するのは表皮の鋼片だけであつて中核の肝心力になる心線は摩れぬ、而して表皮鋼片は其上を走る車輪よりは硬度が高く出來て居るから車輪が耗つても表皮はナカ〳〵耗らぬ、其上に此軌索には常に自動的に表面及内部共給油せられ摩擦を極度迄減ずる仕掛になつてゐる、且つ此の軌索は時々廻わして車輪の當たる位置を換えるから鐵道のレールの樣に常に同じ點に車輪が當つて居るのではない、而してその材質は堅靱なる最良プラスチールである、斯かる譯で鐵道スチールに比して其の壽命は幾倍も永く、從來の經驗によればネツトロード（搬器の風袋を除いた純荷）一百五十萬噸以上を輸送し得る、即ち前述の通り人間二十人を一噸とせば實に三千萬人を運び得るのである。

軌索の區劃

軌索は各二千呎に區劃し地勢の高い方に於て索端を基礎コンクリートに碇繋し低い方に於て索端に適度の重錘を置いて索の張度を調節する、而して甲區劃と乙區劃とはレールで連絡するたとへば索道全長六千呎とせば右側線にて三本、左側線にも三本都合六本の區劃がレールで連絡されて居るのである。故に萬一軌索一箇所に故障があつたとしても他の五區劃は何等之れが影響を受けないのである。

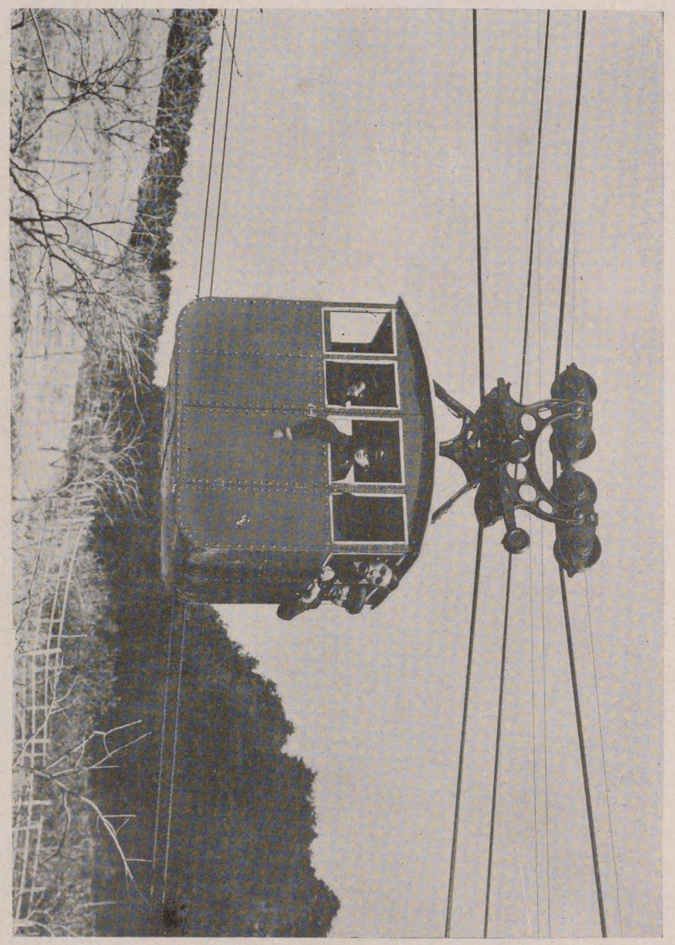


三線式客索道八人乗客車

曳索は同一の太さ及強さのロープ二本並列し此二本の緊張程度が機械的及自然的に調節均整せられ其一本宛でも既に十分なる安全率を保つて居る。此兩索條はラング式撚りで七本の鋼線を一束とし六束を集め其中央に麻の芯を入れ撚つて綱としたもので、索道兩終點の元車に卷絡して無端狀に廻進する、材料は最良瑞典材を用ゐ甚大なる強度及撓度を有する、ラング撚ロープは普通のクレーンやウインチに使つてゐるロープと撚方が異なり、鋼線も束綱も同一方向に撚つてあるかさ鋼線と受索輪、元車及握索機等との接觸面を多くし摩耗を極度に少なからしめるのみならず索は徐々に自轉して進行する其結果はグルリがまんべん一樣に耗る、尙ほ中央の索芯は常に油をニジミ出してロープ各線條間及其表面に給油する簡單にして巧妙なる仕掛になつて居るから、其摩耗は頗る遲緩にして上圖の如く表面滑狀をなして耗る。之れより更に耗ると針金が一本切れるか、それは直ちに修繕して元の通りにする事が出來る。

ロープ自動檢査機

曳索は前記の如く永く保つけれどもロツクドコイルの樣に何十年も保たぬ、從來の經驗によれば每日使用して壽命は五六ケ年乃至十二三ケ年である。之れにはロープ自動檢査機を取付けて日々其命數を檢査し絕えずその健康を診定して居る、ロープの張力は五十二本の針金が集合した力だから鑄物がポンと破れ、鎖が切れる樣に突然切斷するものでなく、一本一本の針金が折れその折れた針金が多數出來ると始めて危險點に達するのである。されば最初の一本折れた時に特許ロープ自動檢査機は之れを自動的に告知する、その時之を修繕する、故に針金全線が常に健康狀態にあるから、ロープも隨がつて健康にして切斷や故障の起る憂は決してない。



三線式旅客索道八人乘客車

ロープ複動緊張裝置

前記曳索の項に述べた通り二本の並行に掛つた曳索は其張度を自動的に調節する必要がある、特許複動緊張裝置は其目的を達成するに極めて有效敏感なる新規發明である。

起動裝置

曳索を回轉し以て客車を進行せしむる起動裝置はロープに對して十分なる車輪直徑を有する四重滑の元車を主軸とし二重滑の遊動車を附屬し極々岩丈なるもので滑車及齒車の各車軸にはボールベアリングを取付け以て輕快なる運轉をなさしめる。

動力及停電に對する設備

動力は何種でも宜いが、大抵は電動機となつて居る。索道の客車は低空を旅行するものだから、もし停電になれば車體は空中にブラ下つて、乘客は降りる事も出來ず困るだらうと杞憂する人もあらうが、その心配は御無用、それに對しては豫備エンヂンの設備をするか又は豫備電動機を設備する（此豫備電動機は常用電動機と異なりたる電源より送電を受ける）故に若し停電になれば豫備機關は直ちに運轉して客車を動かすから客車は停電でも同じ樣に動き乘客は停電に氣付かない位である。我政府制定の旅客索道規則にも豫備原動機の事は高調してある。

速度

索道客車は曳索に曳かれて進むのだから曳索の速度は即ち客車の速度である。而して其速度は一時間通例四哩乃至六哩である、十數哩の速度も可能だが經濟的でなく、私共は四—六哩が適度と確信する。

勿論索道は起點から終點まで勾配には構いなく一直線に行くのだから彼の勾配に制限せられてウネ〳〵と廻わりて羊腸たる山坂を上下する鐵道又は道路に比して距離は非常に短縮し得るから四—六哩の速力も結局到着點に達する時間は山路では電車や自動車に比して餘り變らないのである。

客車

客車は索道裝置に於て一大主要部であつて、絶對安全で體裁恰好共に申分なく、美的裝飾を施し內外共快感を與ふる樣出來て居る、客車は搬送部、懸吊部（ハンガー）及車室部（ケージ）の三大部より成立する

鐵道省高知索道

懸吊部（ハンガー）

ハンガーは岩丈なる釣金具にして搬器の主軸に掛かり搬器と車室とを連繫するもので、搖り止め即ち安定裝置を付けてある釣金具は搬器の主軸一點に掛かつて居るから索道の上り勾配の時でも下り勾配の時でも車室は常に水平の位置を保つて居る。上り勾配にも下り勾配にも索道の車室は常に水平である

搬送部（キヤリアー）

搬送部即ち搬器は軌部上（レールループ）を走行する四枚の走車（ランナー）その二枚宛の一對を支持し自動相對的に平衡運動をする衡梁（バランスビーム）車軸及敏活堅固にして强力なる握索機（グリツプ）及豫備握索機を有する、而して走車は特種鑄物にしてレールロープの硬度に適應する硬度に造られ自動給油裝置を具備し輕快なる運轉をなさしむべく車軸にはボールベアリングを取付けてある、衡梁は各車輪の負荷を均等ならしめレール索の撓度を調節し支柱上の受索臺を圓滑に通過せしめる働をなすものである。

車室（ケージ）

車室は二人乘、四人乘、八人乘、十人乘、二十人乘等々大小いろ〳〵ある、之れを二分間毎又は一定の間隔に隨意に發車し乘客の繁閑に應じて車數を調節する。但し交走式だと二臺きりである。

車體は全鋼式（オールスチール）で優美高尙なる事口繪の通りで夜分は明るい電燈（イルミネーション）が出來る。又は二三分間毎に發車する事故御客を待たす事なく、而して輸送量も隨分大にして、假りに二十人乘客車二分毎に發車するとせば一時間三十回片道實に六百人、往復一千二百人を運べる。

山間地方の交通

現今我國では機械的交通機關の發達著しく國有及私設の鐵道軌道を合して約一萬哩に達せんとする盛況でありますが是等交通機關は都市と其郊外及富裕なる平地に偏在して山間部には寥々たるもので有ります。

本來我國は面積の八割まで山であつて、その山地の中でも鐵道に達すべく十哩以上も歩かねばならぬ地方の面積が五割以上ありこれに住める人々は約一千二百萬人と稱せられて居ります。詰り本邦全面積の五割の土地と全人口の二割強の人々は文明的交通機關の恩惠に浴する事薄倖で、文化と富は交通機關に伴ない招來さるゝものですから、山間部は環境と言ひながら氣の毒であつて、此儘に推移せば山郷は益々荒廢するに到るでせう。

最適の山間交通機關

さりとて鐵道やケーブルカーを山間地方に普及せしめる事は莫大なる建設費を要し、國家の經濟も之れに堪える事に困難でせう

備考　山間部の鐵道は一哩數拾萬圓乃至時としては壹百萬圓の建設費を要するは公知の事實にして近頃流行のケーブルカーにしても左記の通り巨額の建設費を投じてゐる。

ケーブルカー名		全長	建設費
信貴山		一哩	一、一一三、九一六円
靡耶山		四四鎖	六七六、七二六
妙見山		八二鎖	六〇六、二九五
熊登山		五二鎖	一、二四三、一〇九
朝筑波山		一哩三鎖	五四二、四五四
男山	一	六六鎖	一、〇四九、七八一
男山	二	〇鎖	三五〇、〇〇〇

茲に於て絶對安全にして輸送能力が相當にあり、建設費が低廉で手つ取り早い山間交通機關の必要が起ります、地理的環境と經濟的力量を顧みず、徒らに高遠の理想を夢みた所で結局無駄であつて、夫れよりは土地相應の便利な、安全な交通機關を考へねばなりません。此目的に對しては安全旅客索道は最適唯一の山間交通機關であると確信致します。實際日本の樣に、地形が島國的で山は嶮にして河は急、峰岳溪谷犬牙凸凹相錯綜し、ゴタ〳〵した山間部では、立派な車道を造るのも容易でなく、之れが維持もナミ大抵でないから、人間と貨物とを安全且つ低廉に輸送する旅客索道が最も順應せるものと再言致します。

なせ我が林產物は高いか

誰でも一口に亞米利加の材木は安くて日本のは高いと言ふが能く考へて見るとそれは市場に於ける値段の比較で、原產地に於ては甚だ然らざるを見ます、專門家の調査によると横濱より正西一百哩の信駿國境山林の原木はシアトルより正東一百哩のドクラス山地の原木よりは却つて遙かに安いけれども、横濱まで太平洋を越えて來て來材の方がズツト安いのは彼我運輸機關の完否に因由するのです。

凡て山地より產出する物は木材、鑛石、工業原料、薪炭等目方の重いものであるから運賃がその値段の大部分を占めて居ます。

從來の貨物專用索道

ソコで運搬方法を改善すべく貨物專用索道は廿年來我國諸地方に架設せられ政府も相當なる保護と援助を與へて來ました、鑛山や土木工事用のものを合して累計約二千哩も架設せられましたが併し是等は悉く貨物專用の索道で有りました。

私共が二十年來斯極に專心就事した經驗に依りますれば交通機關として機能を十分に發揮せぬ、即ち貨物だけ運んだ所で人間も共に運搬しなければ交通機關として機能を十ないと原產地及沿道に人間の交通が便利になり資本家も勞働者もドシ〳〵出入せとその地方の人々は「コレで人間も安全に運べると宜いがナー」と異口同音に望みました、而して今やその地方の輿望が實現する時代となりました。

旅客索道の起り

さて大切なる人間を運搬するとなると從來の貨物索道では不安心である（その理由は後に擧げる）から之れを完全無缺のものとする必要が生じます。

私共は先年帝國陸軍の御用命により西比利亞征軍に貨物擠道裝置を多數納入しました、其節陸軍當局の話では「索道は糧秣彈藥等を運搬して非常に效を擧げ重要なる一軍器であつたが、若し之れで安全に軍隊も共に運べると一層便利であらう。西歐戰地では架空索道で軍隊をも輸送したと聞く。君は專門家として之れを研究せば如何」との勸告により私は大正九年西歐伊墺の國境アルプス山中の戰跡へ軍隊運搬索道の視察に參りました。

ナルボド谷から山へ峰から峰へと諸所にいろ〳〵の式の索道が架設せられ、運轉して居るものも有りました。之れを研究して居る中にマダ〳〵改良の餘地あるを見ました。

歸朝後大正十年より奈良市外に大規模の試驗場を設け爾來六ケ年私共社中同人は日夜焦慮して研究に研究を重ね、絕對安全なるものを完成致しました。

幸に三重縣當局の御許可と企業者紀伊自動車株式會社の御採用を受け尾鷲木の本町間矢之川峠の安全旅客索道が架設竣工して非常なる好成績で運轉するに到つたのは心より欣幸とする次第であります。

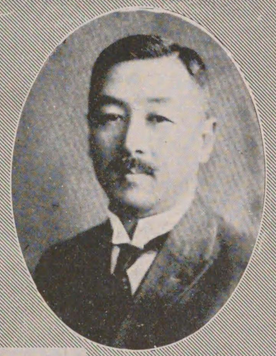
大阪商船株式會社

沿革大要

本社の創立は明治十七年五月にして當時資本金百貳拾萬圓使用汽船一萬七千噸航路浬數八千五百浬にして僅に瀬戸内海を航行する一小汽船會社に過ぎざりしが爾來茲に四十二年其間事業の擴張に伴ひ幾たびも增資を爲し拮据經營の歷史を重ねて基礎愈々鞏固を告げ大正九年一月資本金を壹億圓に增加し以て世界海運界に雄飛するの準備を整へ今や使用船舶總噸數四十四萬三千餘噸世界主要の各地に亘り五十五線の定期航路を經營し其航路浬數實に二十六萬八千餘浬に達するの盛況を呈し内容の充實と共に事業益々進展を示せり我社の沿革は蓋し一面に於て本邦海運の發達史を談るものといふべきなり。

創立

明治初年我大阪を中心として興れる航運業は頗る長足の進歩をなし西南の役に際しては其好調の極點に達したりしが爾來漸く船舶過剩の傾向を生じ延て同業者間の競爭となり其勞年と共に激烈を加へ明治十二三年の交に至り關西各港間を航行する汽船百十餘隻に及び所有者亦七十餘名の多きに達し互に荷客の爭奪を是事とし汽機を極度に濫使し不當の運航を試み擠排構陷全く亂鬪の狀態に陷り從て運賃は低落に低落を重ね豫定航路發航時日の變易常なく爲めに斯業の信用地を拂ふに至れり政府茲に顧るところあり船主亦其弊に堪へず百方救濟の途を講ぜるも積弊固結して殆んど矯正すべからず於茲乎是等船主を糾合して企業の合同を計るに非ざれば他に施すべきの策無きを覺り茲に株式組織の企劃となり廣瀬宰平氏外數氏專ら其衝に當りて斡旋する事三年終に數十の船主九十餘の汽船を包括して資本金を百貳拾萬圓となし明治十七年五月一日我が大阪商船株式會社の創立を見るに至れり。



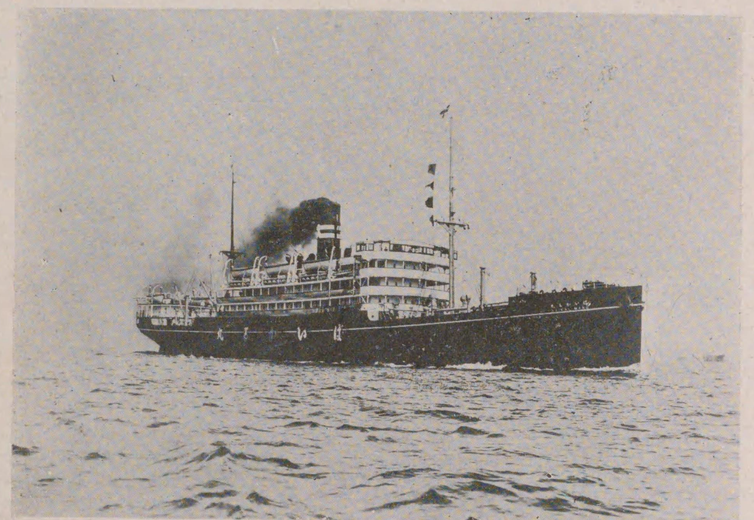
取締役副社長
深尾隆太郎氏

大阪商船本社
(中央)

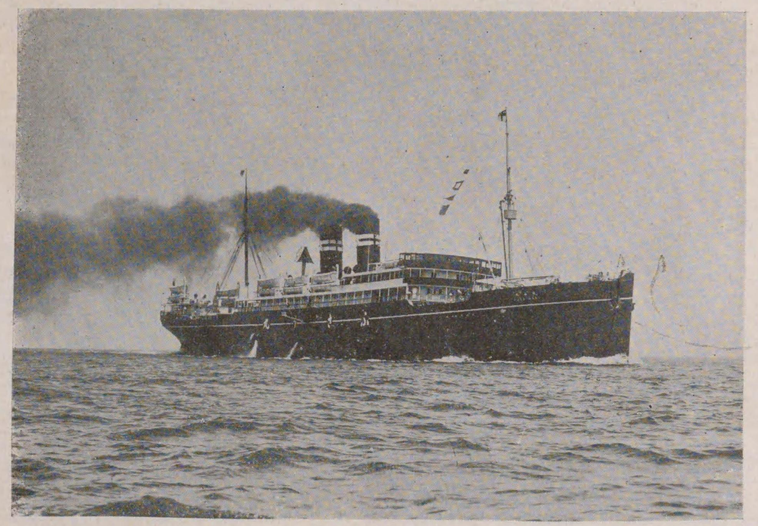
取締役社長
堀啓次郎氏

專務取締役
太田丙子郎氏

專務取締役
村田省藏氏



ばいかるる丸（大連航路）



扶桑丸（臺灣航路）

大阪商船と大連航路

滿蒙開發の先驅として內地との交通に率先從事したのは當社大連航路であります爾來時勢の進運に伴ひ常に使用船の改良と設備の改善に意を用ひ、漸次大型新式の快速優秀客船に改め、目下亞米利加丸、香港丸、ばいかる丸、はるぴん丸の四隻を使用し、日本と亞細亞大陸經由歐洲に至る鐵路とを連絡して交通の一大幹線をなして居ります。

取締役社長	堀啓次郎氏
取締役副社長	深尾隆太郎氏
專務取締役	村田省藏氏
專務取締役	太田丙子郎氏
取締役	山岡順太郎氏
取締役	阿部彥太郎氏
取締役	木村清氏
取締役	池尾芳藏氏
取締役	田中市藏氏
取締役	湯川寬吉氏
監査役	多羅尾源三郎氏
監査役	末永一三氏
監査役	原田六郎氏

本社の臺灣航路

當社は明治二十九年臺灣總督府の命令を受け神戶、門司、基隆間連絡定期航路を率先開航以來使用船舶の改良と設備の改善に一意專心し、大正十三年には最新式優秀巨船蓬萊丸、扶桑丸の兩船を就航せしめ、尙十五年四月よりは兩船の快速を利用して、從來中二日を要せし門司基隆間航海を一日短縮して中一日の航海となし江湖多年の翹望を實現し、且つ昭和二年四月には瑞穗丸を加へ、遂に一萬噸級巨船（排水一萬五千噸）三隻軸艫を並べて堂々東支那海の波濤を蹴破り月六回の急行定期航海に就くことゝなりました。是實に我社多年の努力の結晶であり、又我國海運史上空前の大改善であり誇るべき記錄であります。是皆我社が過去三十年間の御眷顧に酬ひ、併せて內地臺灣間の運輸交通に一層の貢獻をなさんとの微意に外ならないのであります。

內臺間航海時間短縮

從來門司基隆間航海に中二日を要して居ましたが、我社は蓬萊丸、瑞穗丸、扶桑丸を以て門司基隆間を中一日で航海することゝ致しました。

解纜（埠頭を離るゝ時）

船中余興

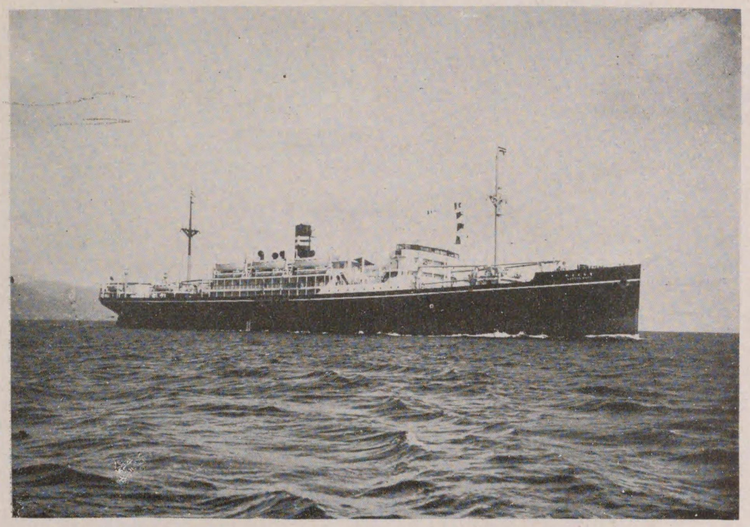
船中水泳

余興角力

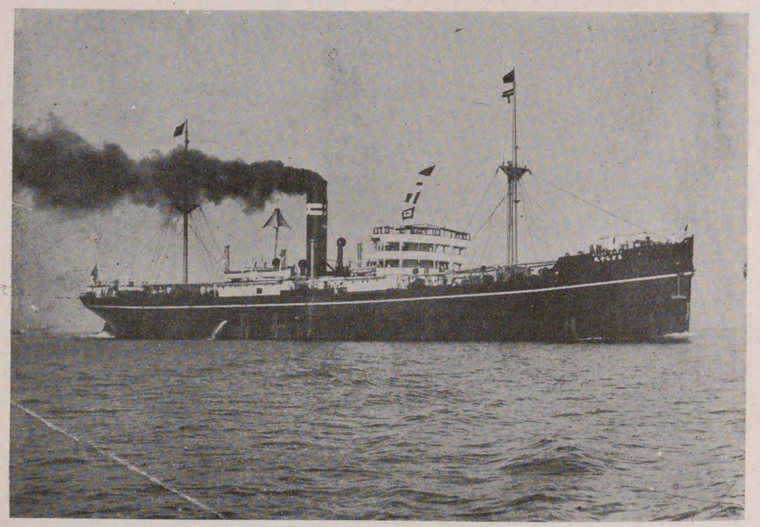
船中余興

船名	船材	總噸數	船名	船材	總噸數	船名	船材	總噸數	船名	船材	總噸數
ありぞな丸	鋼	九六八、〇〇	はあぶる丸	鋼	八六、〇〇	河南丸	鋼	七、八六	宮古丸	鋼	七、〇〇
あらばま丸	鋼	九六七、一五	ばばな丸	鋼	八六、〇〇	昌武丸	鋼	七、八六	重山丸	鋼	七、〇〇
はわい丸	鋼	九四四、一五	へいぐ丸	鋼	八六、〇〇	京盛丸	鋼	七、八六	屋島丸	鋼	七、〇〇
まにら丸	鋼	九四四、九〇	○ばいかる丸	鋼	八六、〇〇	沙長丸	鋼	七、八六	津中丸	鋼	七、〇〇
あふりか丸	鋼	九四四、五〇	ひまらや丸	鋼	八六、〇〇	高新丸	鋼	七、八六	佐宇丸	鋼	七、〇〇
あらびあ丸	鋼	九四四、四〇	はんぶるぐ丸	鋼	八六、〇〇	北熹丸	鋼	七、八六	見石丸	鋼	七、〇〇
蓬萊丸	鋼	九二〇五、八一	ゐるびん丸	鋼	八六、〇〇	山鳳丸	鋼	七、八六	賀滋丸	鋼	七、〇〇
瑞穗丸	鋼	八一二、七六	ま丸	鋼	八六、〇〇	義嘉丸	鋼	七、八六	浦木丸	鋼	七、〇〇
扶桑丸	鋼	八一八、二〇	ぱたびや丸	鋼	七七、二五	草天丸	鋼	七、八六	州義丸	鋼	七、〇〇
あるたい丸	鋼	七七、二五	すらばや丸	鋼	七七、二五	南雲丸	鋼	七、八六	山日丸	鋼	七、〇〇
あんです丸	鋼	七七、二五	がんぢす丸	鋼	七七、二五	川四丸	鋼	七、八六	高群丸	鋼	七、〇〇
あまぞん丸	鋼	七七、二五	いんだす丸	鋼	七七、二五	東日丸	鋼	七、八六	球流丸	鋼	七、〇〇
あむうる丸	鋼	七七、一三	○高雄丸	鋼	七、八六	いなり丸	鋼	七、八六	東安丸	鋼	七、〇〇
あらすか丸	鋼	七、八六	○恒春丸	鋼	七、八六	めでた丸	鋼	七、八六	門厦丸	鋼	七、〇〇
あとらす丸	鋼	七、八六	○泰山丸	鋼	七、八六	開城丸	鋼	七、八六	江松丸	鋼	七、〇〇
◎さんとす丸	鋼	七二六、九六	まごらす丸	鋼	七二六、九六	長春丸	鋼	七、八六	分大丸	鋼	七、〇〇
◎らぷらた丸	鋼	七二六、九六	臺中丸	鋼	七二六、九六	蓋順丸	鋼	七、八六	府別丸	鋼	七、〇〇
◎もんてびでお丸	鋼	七二六、九六	桃園丸	鋼	七二六、九六	蔴州丸	鋼	七、八六	靱早丸	鋼	七、〇〇
○ばりい丸	鋼	七、一九、七九	臺南丸	鋼	七、八六	葭婆丸	鋼	七、八六	原三丸	鋼	七、〇〇
○ろんどん丸	鋼	六、八〇、七九	朝鮮丸	鋼	七、〇〇	◎平壌丸	鋼	七、八六	◎音戸丸	鋼	七、〇〇
あるぐん丸	鋼	六、八〇、七五	江蘇丸	鋼	七、〇〇	◎那智丸	鋼	七、八六	愛媛丸	鋼	七、〇〇
春光丸	鋼	六、八〇、七五	浙海丸	鋼	七、〇〇	隆通丸	鋼	七、八六	高坂丸	鋼	七、〇〇
亞米利加丸	鋼	六、八〇、七五	雲江丸	鋼	七、〇〇	基紫丸	鋼	七、八六	根川丸	鋼	七、〇〇
笠戸丸	鋼	六、〇一〇、二二	八雲丸	鋼	七、〇〇	交亮丸	鋼	七、八六	井川丸	鋼	七、〇〇
香港丸	鋼	六、〇一〇、二二	北京丸	鋼	七、〇〇	◎紅球丸	鋼	七、八六	利川丸	鋼	七、〇〇
ぼねお丸	鋼	五、八五三、四	南京丸	鋼	七、〇〇	大義丸	鋼	七、八六	天龍丸	鋼	七、〇〇
せれべす丸	鋼	五、八五二、四	安南丸	鋼	七、〇〇	福州丸	鋼	七、八六	富士丸	鋼	七、〇〇
すまとら丸	鋼	五、八五二、四	杭州丸	鋼	七、〇〇	大浦丸	鋼	七、八六	高神丸	鋼	七、〇〇
しあとる丸	鋼	五、八五二、三	湖南丸	鋼	七、〇〇	福戸丸	鋼	七、八六	湊川丸	鋼	七、〇〇
かごしま丸	鋼	五、八五一、九	◎長江丸	鋼	七、〇〇	鳴門丸	鋼	七、八六	姫川丸	鋼	七、〇〇
たこま丸	鋼	五、八五一、九	◎長安丸	鋼	七、〇〇	宝戸丸	鋼	七、八六	綠川丸	鋼	七、〇〇
ばなま丸	鋼	五、八〇一、五六	◎長北丸	鋼	七、〇〇	大信丸	鋼	七、八六	龍田川	鋼	七、〇〇
かなだ丸	鋼	五、八〇一、五六	◎長城丸	鋼	七、〇〇	先島丸	鋼	七、八六	德島丸	鋼	七、〇〇
めきしこ丸	鋼	五、七四一、〇	福建丸	鋼	七、〇〇	名瀨丸	鋼	七、八六	高知丸	鋼	七、〇〇
ほのるゝ丸	鋼	五、七五一、九	貴州丸	鋼	七、〇〇	大智丸	鋼	七、八六			
						温州丸	鋼	七、八六			

合計 一三隻 四七、四九一、一三



さんとす丸（南米航路）



あとらす丸（歐洲航路）

さんとす丸・ぶらた丸・もんでびてお丸

當社は大正五年初めてアフリカを經由する日本アルゼンチン間の航路を開き、同九年新たに政府の命令を受けて往航横濱を發し神戸、長崎、香港、西貢、新嘉坡、古倫母、ダーバン、ケープタウン、リオデジヤネイロ、サントンを經てブエノスアイレスに到着し、復航ブエノスアイレスよりサントス、リオデジヤイロ、ニューオルリンス、ガルベストン、パナマ運河、ロスアンゼルス經由横濱　神戸へ歸着する世界一周航路を創始して以來專ら其交通貿易に貢獻せんが爲幾多の困難を排して常に就航船の改善、速力の增進を企畫し、大正十三年には北米航路の優秀船はわい丸、まにら丸を配船し更に同十四年巨費を投じてデーゼル船さんとす丸を建造し續いて、姉妹船らぶた丸、もんでびてお丸の就航を見るに至り前記二隻を加へ五隻の優秀船を以て年十回の定期航海を行ひ、其設備の最新と航海日數の短縮により日本南米間の交通に一新紀元を劃して江湖の好評を博して居ります。

本船はズルツアー式デーゼルエンヂン（重油内燃機關）二基六千馬力の主機關を備へ一時間十七浬の速力を有し船客八百八名を搭載する、日本最大の最新式優秀デーゼル客船でありまして、それで本船は石炭を焚かず、たゞ重油を機關の内部で燃燒（爆發）することによつて巨大な船体を動かすことが出來るのであります。從つて煤煙を吐くことが無く、石炭を積む必要もなく船内は何處からどこまでも常に氣持よく、清潔に保たれてゐます。それから電化された船内の諸設備も本船の特色と致します。即ち揚錨機、操舵機、揚貨機其他船内各部の諸機關は凡て電動裝置となつてゐますのであの耳觸りな荷役や錨の揚卸などの騷音から生ずる厭はしさは少しもありません。

船体の運航設備にも各種最新の諸設備を採用して居ります　特にスペリー式ジヤイロコンパス及自動操舵裝置を備へ、汽笛は壓搾空氣發煙裝置となし、其上電動サイレンをも備ふるが如きは其一例で航海の安全と正確に最善を盡して居ります。又救命裝置や無線電信設備を萬遺憾なく完備して居ります。

丸すらとあ

歐洲航路			
日本歐洲線	（往航）横濱、神戸、大連、上海、香港、古倫母、亞丁、坡西、新嘉坡、馬耳塞、倫敦、漢堡、安士府、ブレーメン、漢堡、ロツテルダム、（復航）ブレー、メン、漢堡、ロツテルダム、安士府、坡西士、新嘉坡、香港、上海、大連、神戸、大阪、横濱	七隻	四週一回
日本南歐洲線	横濱、神戸、門司、上海、香港、新嘉坡、古倫母、蘇士、坡西士、セノア、馬耳塞		
瓜哇歐洲線	（往航）スラバヤ、サマラン、バタビヤ、バタン、古倫母、蘇士、坡西士、セノア、馬耳寒、安士府、ロツテルダム、漢堡、（復航）漢堡、安士府、馬耳寒、セノア、坡西士、蘇士、パタビヤ、スラバヤ		

別府温泉（別府線）

全國に温泉の數も多いが、別府程湯量の豊かな泉質の多種な設備の備つた、景色の好い、交通の便利な、そして安價な湯治も贅澤な入湯も、自由自在である所はない、海岸から山麓に到る五哩四方は、山にも川にも路傍にも砂濱にも、日夜滾々と熱湯が湧いてゐる。泉質も亦炭酸硫黄泉、鹽類泉、アルカリー泉等、千態萬様。

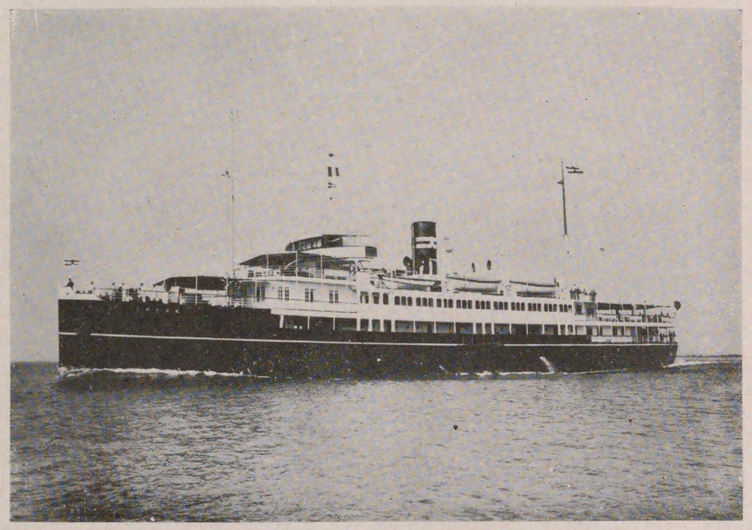
景色の別府、温泉の別府は又歴史と物語りの別府である。鎭西八郎爲朝が、朝夕、豪弓を鳴らした的ヶ原、黒田如水と大友義統との大合戰をしたと云ふ悲慘な石垣原、百合稚大臣の物語りや、明治の元勳井上侯の蹟家餘興味深い史蹟が無數に殘されてゐる。また自然科學の大トリックたる面白い地獄巡りや、やさしい小波に足を弄らせて過ごす汐干狩や、珍らしい砂湯にもぐつて、蒼空を胸一杯に吸ふ愉快さは、他所では得られませぬ。

別府の市街巡り。別府の流川通より公園に出て後戻りして流川遊廓の傍を南折して中濱通を過ぎ松原公園から濱脇温泉と遊廓をぬけて濱脇公園に出で別府全市を眺め濱沿ひに歸へる。別府地獄巡りにタクシーを用ゆれば三時間半料金八圓五十錢位。鶴見地獄、八幡地獄、坊主地獄、海地獄、鐵輪地獄、竈地獄、血池地獄を巡る。歩るけば別府公園、觀海寺温泉、鶴見地獄、八幡地獄、石垣原、紺屋地獄、明礬温泉、湯の花製造所あり）坊主海、鐵輪温泉、柴石、竈より血池を經て龜川驛まで徒歩。此の行程約五里、一日の散策により龜川より別府へ汽車。

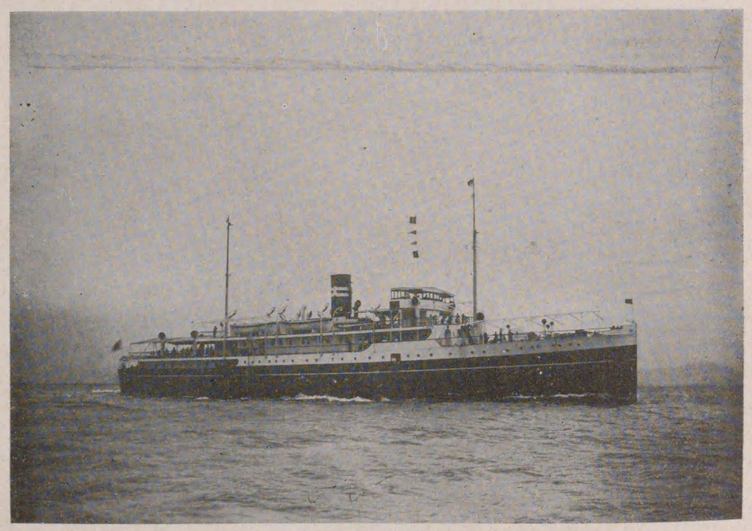
大阪勝浦線

（毎日航海）大阪を發して和歌浦、御坊、田邊、串本を經て勝浦に至る急行船であります。使用船は吾社が本航路の爲に特に新造したる千六百噸の最新式ヂーゼル船むろ丸なち丸の二隻であります。本船は主機ヂーゼル機關を採用したる爲め煤煙がなく船内は隅から隅まで清潔で何んとなく廣やかにゆつたりとして乘心地よく、且つ船體は風波に堪える力強く、船暈の憂は一掃せられました。茲に其設備の概略を申しますれば、一等一室として二人用の洋風室と綾甚敷の家族室があり、明るい裝飾、柔い寢台、枕頭の讀書用電燈など最善を竭しております、一等室の前方に續いて瀟洒優雅な一等食堂と廣間があります。二等室は中央に通路を取り全部綾甚敷とした清楚な大廣間であります尙遊歩甲板上に二等喫煙室を設けました。三等室は中甲板前後を通じ天井高く明るい快い大廣間で簡單な娯樂喫煙室をも特設致してあります。

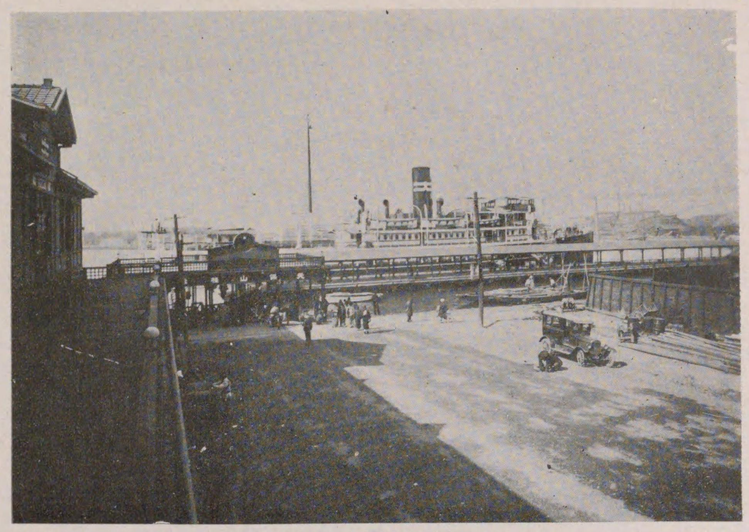
其他一般設備としては電扇、煖房器、洗面所等を完備し、一等には浴室をも設け新聞、雜誌、碁、將棋、蓄音器、ラヂオ等の娯樂具も充分備へて居りますから、南紀方面の入湯遊覽は之に據るのが最も便利で時間、費用等の點からは申すに及ばず他の乘物のやうに窮屈を感ずる事など少しもありません。



丸いなれく路航府別（大阪―高松―高濱―別府）



丸智那船行急（和歌の浦―田邊―勝浦線）



大阪商船天保山棧橋

安治川口内航船發着の實況

北米航路

使用船

船名	排水噸數	速力
ありぞな丸	一八、〇〇〇噸	一六浬
あらばま丸	一八、〇〇〇噸	一六浬
あふりか丸	一八、〇〇〇噸	一六浬
あらびあ丸	一八、〇〇〇噸	一六浬
ろんどん丸	一六、〇〇〇噸	一六浬
ばりい丸	一六、〇〇〇噸	一六浬

最短時日に太平洋横斷

使用船は從來の石炭に代ゆるに燃油裝置を施して速力を速やめましたので今や最短時日に太平洋を横斷するのは邦船中弊社船あるのみであります。尚萬般の設備は勿論船客の安全衛生等に就きましても充分の注意を拂つてあります。其上船体が巨大で速力が速い爲め船客各位の最も忌避さるる船暈等は絶對に感じさせず、愉快に且つ安心して長途の航海が出來ます。

本社

本社　大阪市北區宗是町

支店出張所及代理店

大阪支店　大阪市北區宗是町
横濱支店　横濱市山下町
東京支店　東京市麹町區内山下町一丁目一番地（東洋ビルデング）
神戸支店　神戸市海岸通
門司支店　門司市湊町
長崎支店　長崎市千馬町
基隆支店　基隆停車場前
上海支店　支那上海廣東路第二號
香港支店　Queen's Building, Connaught Road, Hongkong.
新嘉坡支店　No. 2, De Souza Street, Singapore, S. S.
タコマ支店　Tacoma, Wash.
シアトル出張所　688, Dexter Horton Bldg., Seattle, Wash.
紐育出張員事務所　25 Broadway, New York, N. Y.
四日市代理店　愛三商船株式會社
名古屋代理店　同上
マニラ代理店　Messrs. W. F. Stevenson & Co.
ビクトリア代理店　Messrs. Rithet Consolideted Ltd.
バンクーバー代理店　Messrs. Empire Shipping Co., Ltd.
ロスアンゼルス代理店　Messrs. McCormick, & McPherson.
ニューオルリンス代理店　Messrs The Steele Steamship Line, Inc.

攝陽商船株式會社

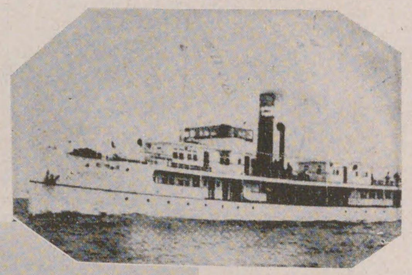
淡路の鳴門と阿波の鳴門

うづ潮逆捲く鳴門の絶勝はどちらの方面から觀望しても、それぞれの特色がありまず、これを一言で盡せば淡路から觀た鳴門は壯觀、阿波から觀た鳴門は偉觀と言ひ得られませう。此の兩面からの景を窮め、眺めを恣にせねば、眞に天下の絶勝鳴門の大觀を知り得たといふ事はできませぬ。而も從來行はれてゐる鳴門觀潮は、大抵阿波の方から眺めたもので、淡路の方からの道は、極く最近に開かれたものだけに、まだ廣く世間に知られてゐないのは遺憾であります、殊に此の方法に依れば、大阪からは日歸りで充分に觀潮探勝ができますから、甚だ御便利であります。これからその御案内を致しませう。

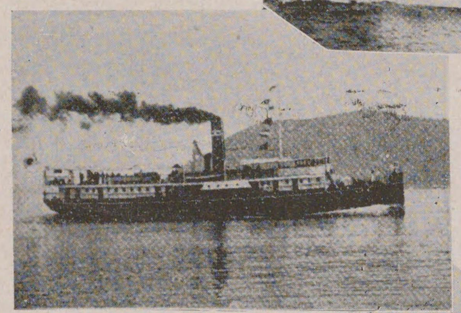
攝陽商船の汽船は、毎日午前八時、大阪天保山棧橋を發します。これに乘れば十時半には早くも淡路洲本の埠頭に着します。此處から福良迄は汽車もあれば乘合自動車の便もあります。前者は一時間半後者だと四十分の距離です。福良の港からは何時でもモータボート、漁舟などの用意があり、準備萬端を整へて鳴門觀潮の客を待つて居りまず。

福良の港からモータボートを驅して行けば淡路の西南端、鳴門崎迄は約三十分間です。此の鳴門崎と對岸阿波の孫崎との間の狹い海峽が即ち音に名高い鳴門水道でありまず。阿波の間約十五町對岸鳴門公園の翠綠は眼近かに迫り、海峽の波間に浮ぶ飛島裸島の奇巖性石は四圍の風致に一層趣きを添へまず。

此海峽は今更ら言ふ迄もなく、日本中で潮流の速力の最も速い所で、大潮の時は一時間七浬から八浬半、風力が加はると十浬以上にも及びます。此の大速力をもつ潮流か、海峽を押進まんとして、途中の石灘に碍へられ、まず〳〵激し怒り激して、怒濤を飛ばし、巨渦を捲いて狂奔する。これが即ち世界にも類の無い鳴門の不思議を作るのです。而も平潮の時は打つて變つて海波靜穩、のたり〳〵と岸を洗ふて片々たる漁舟を浮べてゐまず。靜と動と一瞬にして變轉する所が極めて妙であります。

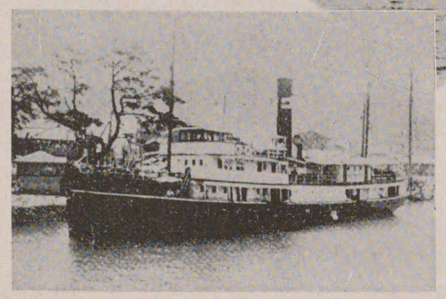


九州淡
（大阪洲本急行線就航）



九羽鶴
（大阪高松線就航）

華城丸（大阪高松線就航）



九水山
（大阪由良線就航）

社會式株造製車汽

鐵道省陸海軍省指定工場

革沿の社本

本社は本邦鐵道創設者たる故子爵井上勝氏か我國に於て未だ機關車製造業の獨立し居らざるを慨し、明治二十九年、故侯爵井上馨氏、子爵澁澤榮一氏、故男爵岩崎彌太郎諸氏の熱心なる援助と、毛利、前田、蜂須賀等の舊大藩諸侯及び大倉、住友、藤田諸男並に高田、今村諸實業家の贊成に依りて創設せしものにて水陸の便最も多き大阪の地に其工場を設置し、次で明治三十四年七月東京市本所區錦糸町所在平岡工場を合併し東京支店となせり、子は實に明治四十三年英京倫敦に於て客死せられしまで前後十四ヶ年間終始本社の社長として全力を傾注せられたり子の歿後は現取締役社長工學博士長谷川正五氏其遺志を繼ぎ專心經營の衝に當り逐次工場設備を擴張して今日に及べり。

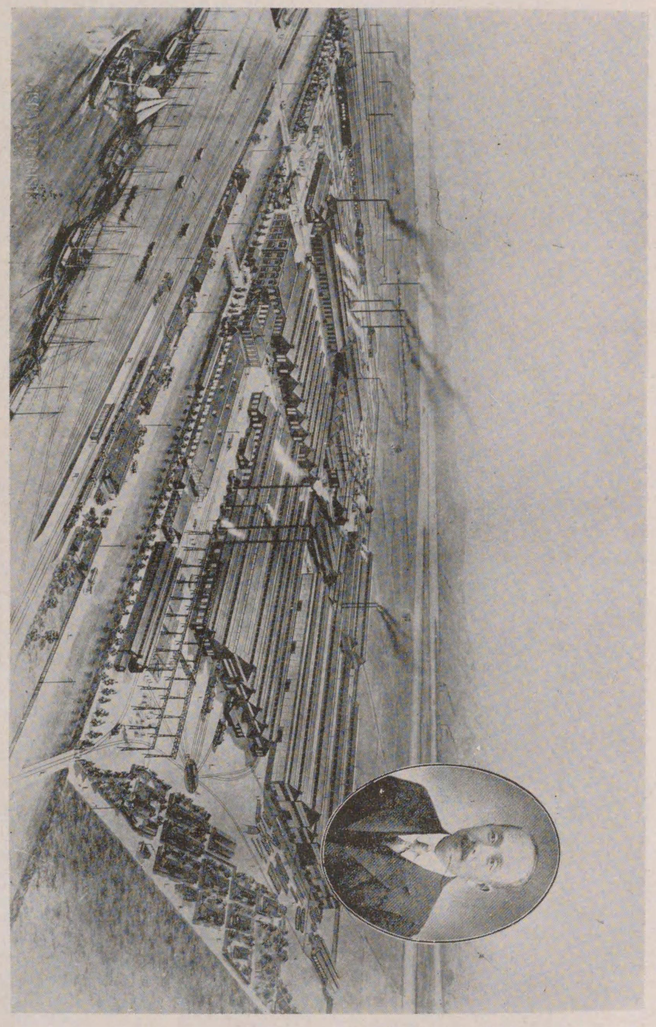
現在の重役左の如し

取締役社長　工學博士　長谷川正五

取締役　今村繁三、　葛野春雄、　大倉喜七郎、　出羽政助、　澁澤正雄、

監査役　青木菊雄、　中川友次郎、

相談役　平岡　熙、



取締役社長工學博士長谷川正五氏

場工及社本阪大社會式株造製車汽

機關車（蒸汽及電氣）

創業以來三十年に亘る經驗と不斷の研究とに依りて技術の精巧今や歐米の製品を凌駕するに至り、吾國鐵道省に於かれても近年海外製品の輸入を避け、專ら國內品を以て使用に充てられ其內過半數は本社製品たるは更に本社の光榮とする處なり、夫の大正十年度來最大急行列車用として御使用の四—六—二型機關車の如きは主として本社の製造せし處にして實に本邦最優秀最新式機關車なり、然も最近更に進んで滿洲朝鮮及支那鐵道用廣軌機關車の製作を開始し本邦車輛界に一新紀元を劃し得たるは特に弊社の欣幸とする處たり。

一ケ年製造能力 大型機關車 百五十輛
輕便機關車 六十輛

客車及び貨車

其製作の精緻世既に定評あり、之亦鐵道乘客の常に實見せらるるところならん。

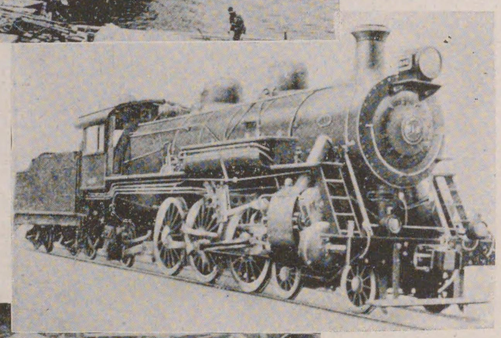
一ケ年製造能力 ボギー客車 二百五十輛
貨車 二千五百輛

電車

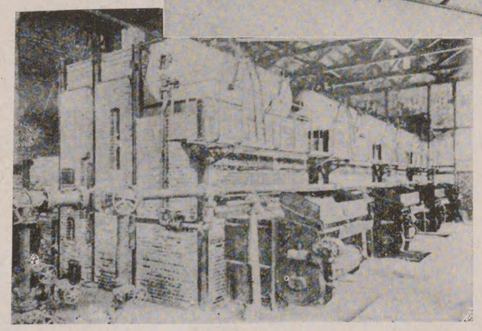
本社は明治三十六年來既に電車の製造を開始し、殊に近年電氣鐵道業の發達に伴ひ其需要激增するに及び本社の製造能力も一段の增加を圖り大に斯界の發達に資せむとせり、先年南海鐵道株式會社の懸賞募集に際しても當社の設計一等に當選し、製品亦一般の賞讃を博せり一ケ年生產能力一百輛。

滻車製造株式會社架橋

上淀川鐵橋



南滿洲鐵道會社納入
廣軌機關車
滻車會社製造



滻車製造株式會社
特許タクマ式汽罐

大阪合同運送株式會社沿革概要

關西に於ける交通の心臟地帶大大阪貨物集散の關門梅田町に在る大阪合同運送株式會社は昭和貳年八月廿日資本金貳百八拾萬圓也を以て從來市內運送業者六十六名合同して左ゝ機運により創立せらる。

豫ねてより唱導されし多年の問題たる小運送費の底減を目的として鐵道と協力し社會的利益增進のため計畫する事を鐵道省よりの慫慂により各々同業者が相當の犧牲を拂つ一設立されたものである。實に此理想的實現は一般運送依託者に於ける利益の大なるものあるは勿論併せて全力を擧げて顧客本位に邁進しつゝある會社の社運日を遂ふて隆盛なる眞に慶すべき事である。

會社重役

專務取締役	林田順吉氏	同 小西池秀夫氏
同	新家春三氏	同 村島萬太郎氏
同	西本亮氏	同 柴谷良佐氏
常務取締役	小谷鐘吉氏	同 神下安太郎氏
同	大熊健次郎氏	同 築山英一氏
同	筒井一二氏	同 伊東富太郎氏
同	吉川龍之助氏	同 吉田政三氏
取締役	中村堅輔氏	同 高橋敬次氏
同	前野種雄氏	同 戶田宗吉氏
同	平山七三氏	同 熊谷伊三郎氏

大阪合同運送株式會社本社（町田蔀區北市區大）

日本郵船株式會社沿革概要

日本郵船株式會社は西暦一八八五年共同運輸會社及三菱會社の二社合同して資本金壹千壹百萬圓汽船五拾八隻、（噸數六萬八千七百噸）を以て創立せり、最初朝鮮、北滿及浦鹽斯德を主要航路とせしも一八九三年初めて大洋定期航路即ち日本、孟買線を開きたり、是に依り印度棉の輸入を容易ならしめ以來我國に於ける綿業の發達に急激なる進歩を促したり、一八九六年增資して資本金貳千貳百萬圓となし、十二隻の新造優秀船を内外著名造船所に特別注文して建造し、茲に新鋭を以て歐州航路、米國航路及濠州航路の三線に於ける貨客定期航路を開くと共に是等各船は遞信省特約指命の下に就航せり、一九一一年カルカツタ線を開設し日本印度間の通商的親善に著しき貢献をなす、一九一四年歐州大戰勃發するや本社歐州航路特別貨物船は大西洋を横斷して紐育に至りパナマ運河を經由して太平洋を航海するの歸航路を採れり、茲に於て本社が世界一週線の航路を開けり、而も歐州戰亂中本社は八坂丸外三隻の沈沒を始め多大の犧牲を拂つて歐州定期航路を持續せり、一九一五年資本金を倍加して四千四百萬圓となし一九一六年東洋諸港及合衆國東沿岸相互直行航路を開く（パナマ運河經由毎四週定期航路）、同年ニユージランド線貨物航路を開きて彼我直接なる通商上の福利增進に供せり、一九一四年より一九一八年間に青島線、ジャヴーカルカツタ線、カルカツタ紐育、日本、カルカツタ、シヤトル線、南洋諸島線及南米線を增設す斯かる社運の隆盛に伴ひ資本金を一億圓に增資し仝年更に七隻の汽船を配して横濱漢堡線を開く、一九二一年碎氷船千歳丸を新造して北海道、サガレン島定期航路に充つ、一九二三年日支急行定期航路を開き優秀船長崎丸、上海丸の二隻を是に配せり、一九二三年本社航路の中臺灣航路、北滿航路、サガレン島航路、ボニン島航路等の各線及是等に附從せる沿岸航路の經營を分離し資本金一千萬圓（汽船四十五隻、噸數十萬三千二百五噸）を以て近海郵船株式會社を設立せり、當會社は勿論日本郵船株式會社に屬するものにして東洋に於ける是等同業會社に其比を見ざる良好なる業蹟を納めつゝあり。

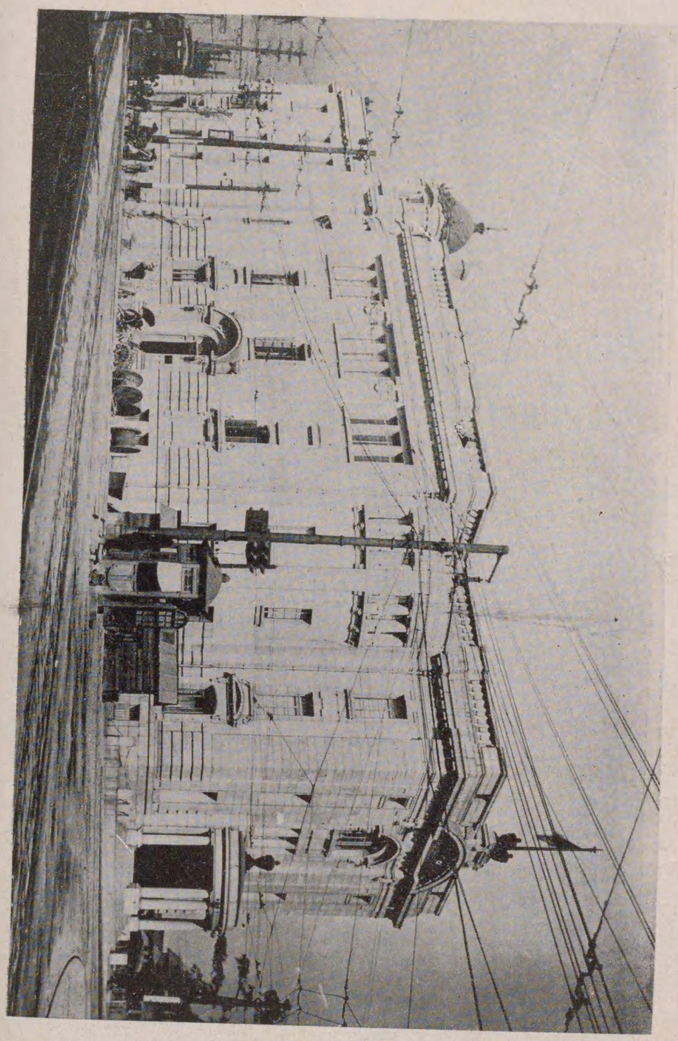
一八八五年本社創立當時より總噸數七十餘萬噸、汽船百數十隻を有する現時に至る本社の進盛は遂に我帝國をして今日世界に誇り得る一大海運國となし其航路地球の全面を抱綱するに至れり。

事務取締役 武田良太郎氏

社本社會式株船郵本日
（ゲンイデルビ船郵内の丸京東）

氏武仁白長社役締取

事務取締役 大谷登氏



日本郵船株式會社
大阪支店全景

副支店長　矢島安藏氏
副支店長　和田二郎氏
支店長　山本幸枝氏

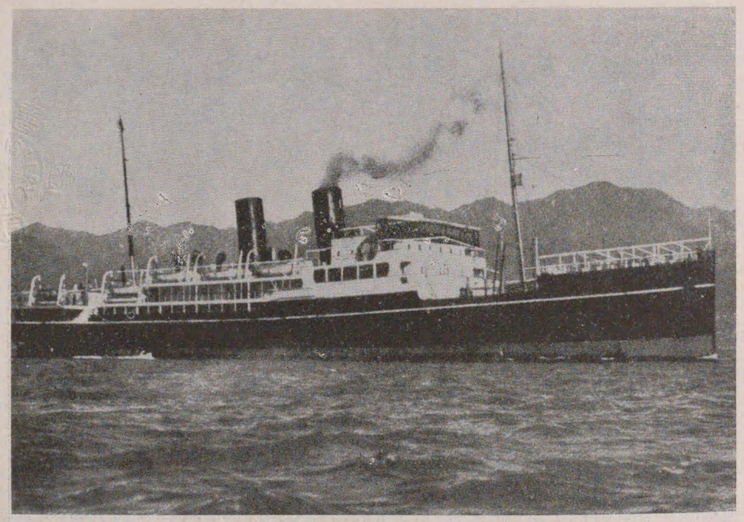
背面より眺めたる日本郵船大阪支店

同上事務室前の廊下

日本郵船大阪支店内部

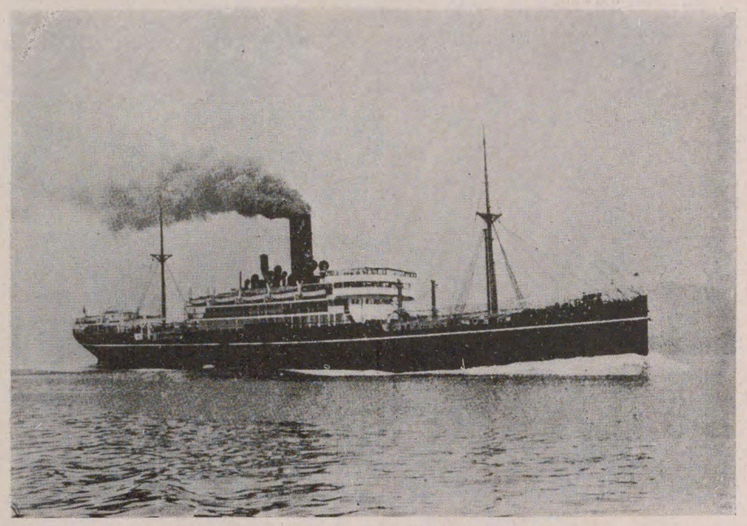
上　　同

同右（二階より見下したる大事務室



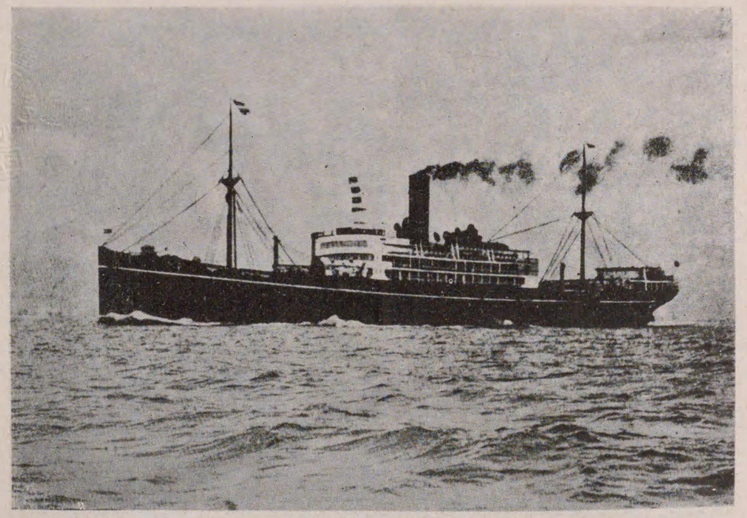
日本郵船大阪支店最新急行船上海丸

(5295噸)



丸 訪 諏 船 路 航 洲 歐

(10672噸)

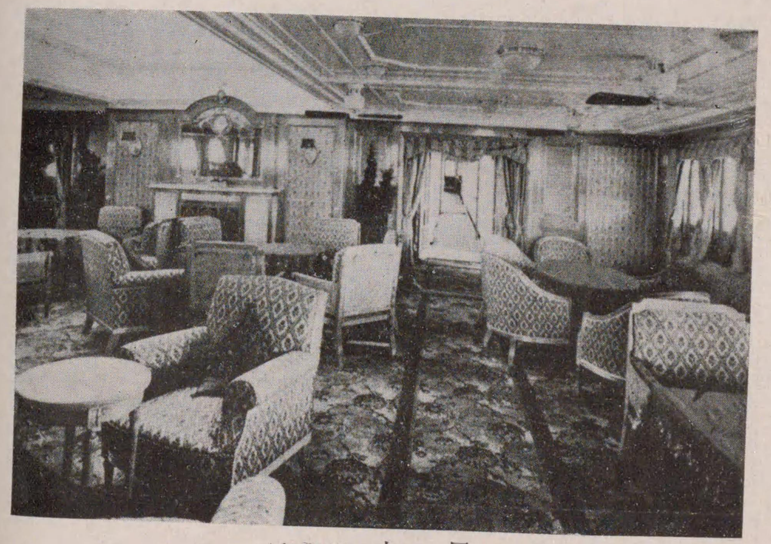


丸 崎 筥 船 路 航 洲 歐

(10413噸)

丸 根 箱 船 路 航 洲 歐

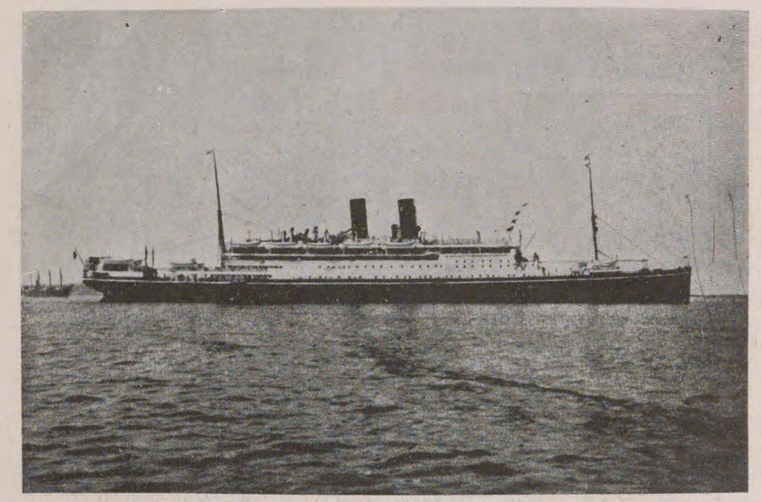
(ーエフカダンラエヴ)



(室交社) 上 同

ンビヤキ　九　洋　春　船路航港桑

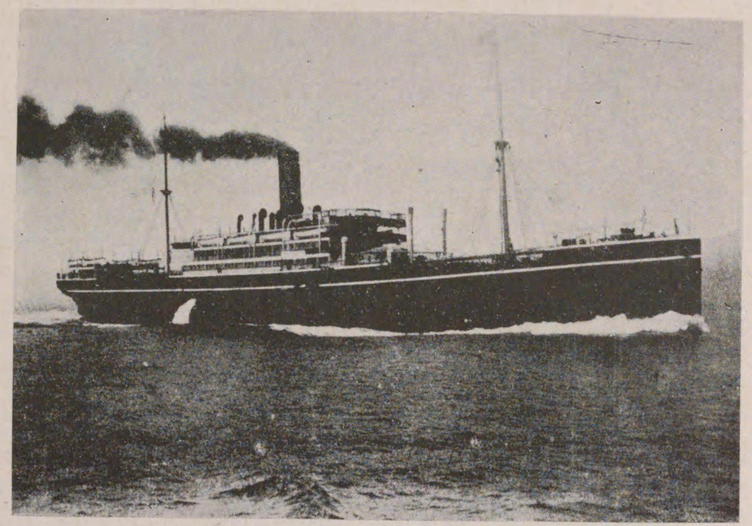
大　洋　九　ウインターガーデン



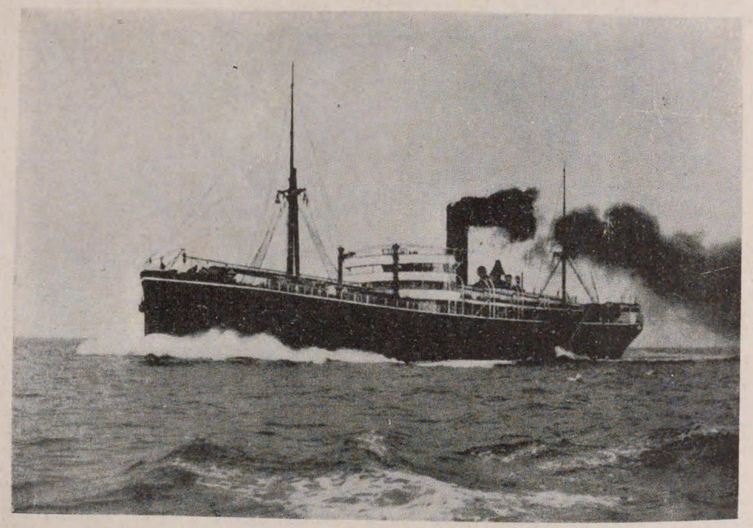
九　洋　大　船路航港桑

(14458噸)

大　洋　九　大　食　室

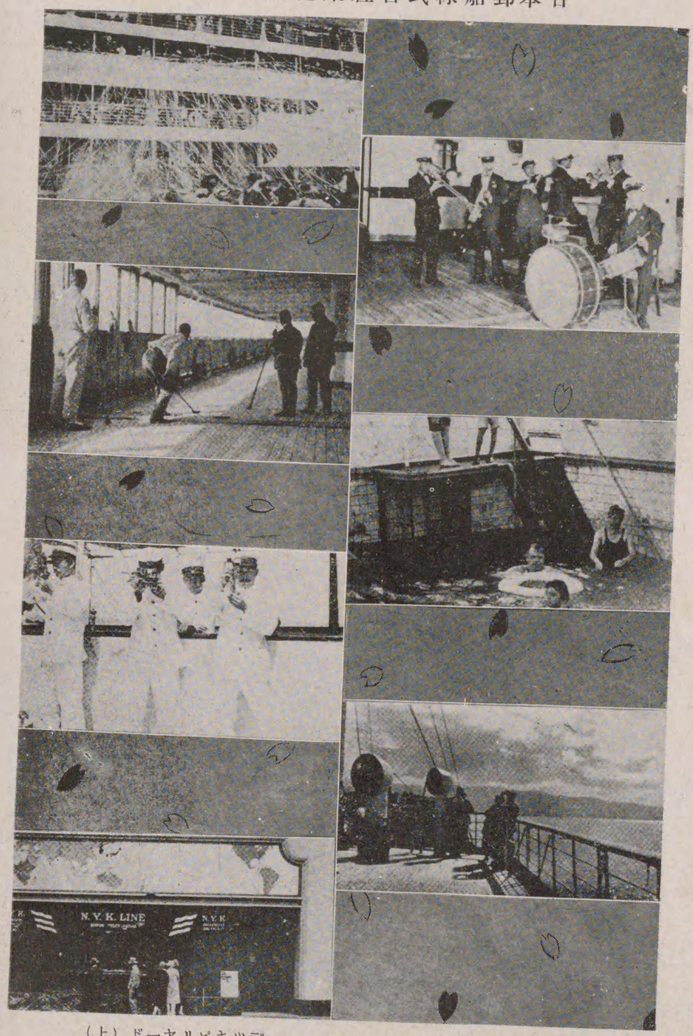


九島三船路航洲濠
(7905噸)



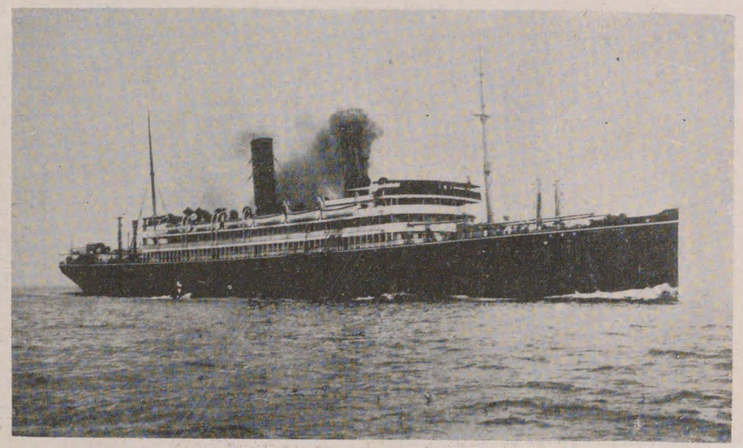
九洋樂船路航國米
(9419噸)

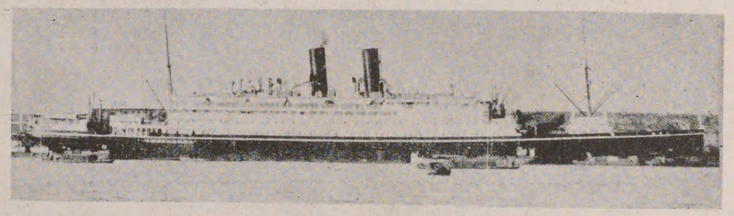
日本郵船株式會社桑港線　出帆

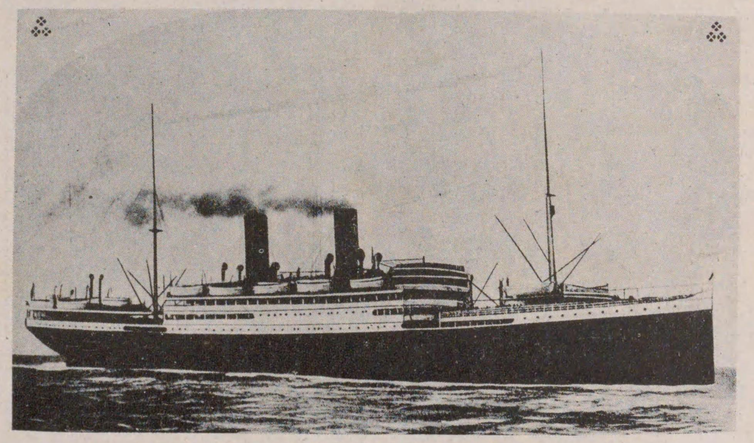


(上)ドーヤリピキツデ
(中)測　視　位　船
(下)店支港桑船郵本日

(上)曲奏の纜解
(中)泳　水　上　船
(下)し　近　陸







桑港線定期航路就航船春洋丸(上)
上海阜頭に横着けせる巨船大洋丸(中)
臺灣航路に就航の最優秀船(下)

臺灣航路の新鋭

一萬噸型優秀快速船二隻増配

臺灣總督府命令當社神戸基隆航路には現在一萬噸型吉野丸の外六千噸型信濃丸因幡丸二隻を就航せしめてゐますが、本航路往來旅客の急激なる膨脹は到底現在の信濃丸因幡丸では旅客各位の御滿足を期し又充分なる使命を果し難きを感じ豫てより優秀大型汽船の配置に苦心してゐましたが、今回、伊太利大西洋航路の雄、トランスアトランチカ、イタリアナ社より同航路に覇を稱へてゐた優秀姉妹客船二隻、「ダンテ」、「アリギエーリ」「ギセツペ、ヴエルデイ」號を購入し本年六月より就航せしむることと致しました。

兩船要目

總噸數　九千八百噸　排水噸　一萬六千噸
速　力　十七浬　長　五〇五呎
幅　六〇呎　深　三九呎

乘客定員各等を通じ千二百餘人を有しその客室公室の設備、裝飾は實に善美を盡したものであります。

兩船共目下本邦向回航中でありまして、四月初旬着の上は本航路向に客室その他大改造を加へ愈々各位に御目見えすることとなつてゐます。

尚當社では兩客船名を廣く一般から別項記載の通り懸賞募集することとなりました故奮つてお投票を願ひます。

日支聯絡船

(長崎九　上海九)

全長四一〇呎、最大幅五四呎、推進器双暗車、汽機ギヤードタービン機、速力二十一節、排水噸數七〇〇〇噸、總噸數五三〇〇噸、船客定員一等百五十五名、三等二百五十八名

右兩客船は大正十一年英國グラスゴーのデンニー造船所で建造され、大正十二年二月より大正十三年五月迄長崎上海間の聯絡航路に就航し、同年五月以來神戸、長崎、上海間の聯絡に從事して居る最新式最優良の純客船であります。一等客室は中央部に在り、特別室、二人室、三人室、五人室の各室に分かれ、夫々運賃を異にし御乘客の御選擇御趣好に應ずることにして居ります。船室は勿論社交室、喫煙室、酒場、食堂、船客案内受所等の設備裝飾萬端は英國一流の專門家が細微な點にまで意を用ひて工夫した丈あつて其善美壯麗を極めて居る事は敢て茲に贅言するまでもありません。其上の善美優秀なる船内設備、船員の懇切なる接待、デツキビリヤード、圍碁、將棋、麻雀、輪投等の遊戲、最新の無線放送受話器、活動寫眞、ピアノ、大型蓄音機、内外名著及び畫帖の豊富なる圖書室等の種々なる娯樂機關に依り船客は安全愉快の航海が出來ますから必ず御滿足を得らるゝと信じます。

又本船には稅關吏、檢疫官、水上署員が乘組まれ船内赤帽も居りますから航海中に稅關、檢疫旅券の査證等の手續をなし手荷物陸揚、托送等の用意が出來頗る御便利であります。

また兩船の速力は一時間二十一節といふ快速で從來普通の汽船が神戸上海間三晝夜を要したのを本船は約二晝夜で航海します。

北万航路と南方航路

日本と北米とを連絡する航路には北方線と南方線と二つあります。北方航路は横濱を出帆して針路を北東に執り、アリューシャン群島に沿つて東航し、英領加奈陀ヴヰクトリヤ港を經てシヤトル港に到るもので、太平洋上此北方航路を今から約三十年前創始したのは日本郵船會社であります。爾來此航路に内外幾多の同業者が定期航路を開き、年一年船舶の往來が頻繁と成つて參りました。現在當社が此航路に就航せしめてゐる定期客船は靜岡丸、横濱丸、加賀丸、伊豫丸の四艘で、船體の大きさに於てこそ英米船に遜色がありますが、當社の永年の經驗による航海技術の熟練、乘組員の規律の嚴正、船内の清潔、待遇の懇切、設備の完全食膳の豐美等によつて北方航路中最も安全で且最も氣樂な船と云ふ定評を得て居ります。

南方航路は横濱出帆後東南に航走約九日間でホノルルに達し、更に約五日間で桑港に到達する。所謂桑港航路を申します。四時海上平穩。氣候も溫暖で、且つ太平洋上の樂園と謂はるゝホノルルを經由する事故頗る愉快な航海が出來ます。當航路は永年東洋汽船會社の經營する所であります が、大正十五年春當社が之れを繼承する事と成り、茲に當社は太平洋の南北二航路を併せて經營する事と成りました。使用船は從前の通り日本一の巨船大洋丸外四艘に、今回大改造を施し、乘組員を精選し舊來の面目を一新致しました。又多年朝野の間に懸案でありました優秀大客船は愈々本航路使用船として、當社に於て建造の事に確定し、其計畫も着々進捗して居ります。要之當社は今後本航路の施設を益充實完備して、太平洋に於ける代表的日本船として江湖の御期待に背かない樣最善の努力を拂ふ覺悟であります。就ては近年歐米各國相競ふて所謂自國船主義を高調して居ります折柄、今後一層邦人旅客各位の御後援をお願ひ致す次第であります。

桑港線使用船

大洋丸	總噸數	一四、四五七
	排水噸數	二〇、九五〇
天洋丸	總噸數	一三、四〇一
	排水噸數	二一、六八〇
春洋丸	總噸數	一三、〇三九
	排水噸數	二一、六二〇
これや丸	總噸數	一一、八〇九
	排水噸數	一九、八八〇
さいべりや丸	總噸數	一一、七九〇
	排水噸數	一九、七八〇

右の五艘は何れも已に御馴染の深い巨船でありますが、前述の通り今回更に諸設備に航海の安全と船客の快適を主眼とした大改善を加へました。殊に三等客室は從來のカンバスベッドに代ふるにカーテン、枕及蒲團毛布附の木造の船床を新設し、且つ乘客の定員を始んど半減しました此三等室改造は各方面から多大の賞讃を博し、香港の一流支那新聞等は儼同頭等と迄賞揚して居ります。

尚各船共、一、二等客室、談話室、圖書室、喫煙室、食堂、遊歩甲板水泳場、運動室等其設備の完美、優秀なる事は今更管々しく累説致しません。

寄港

香港、(基隆) 上海、長崎、神戸、(清水) 横濱、ホノルル、桑港、(ロスアンゼルス)。

○これや丸及び、さいべりや丸は、七月より九月までは、日本から往航の際ホノルルに寄港を省略することがあります。

○南加州在住の方々の御便宜の爲め、これや丸及び、さいべりや丸の兩船を毎航ロスアンゼルス港に廻航させて居りますが、日本から往航の節は種々の事情によりロスアンゼルス迄の乘客の御引受は出來兼ねますから各等共桑港で御上陸を願ひます。然し日本へ歸航の際はロスアンゼルス港から各等共御乘船を引受致します。

○基隆及び清水へは夏季製茶の輸出期に限り臨時寄港致します。

日本郵船株式會社所有船

船名	噸數	船名	噸數	船名	噸數	船名	噸數
天洋丸	一三、四〇二	ダーバン丸	七、一六四	靜岡丸	六、二七〇	ベナン丸	五、二一四
春洋丸	一三、〇二六	デラゴア丸	七、一四八	横濱丸	六、一四三	ラングーン丸	五、〇五九
コレヤ丸	一一、八一〇	豐岡丸	七、〇九八	若狹丸	六、〇七〇	日光丸	五、〇五六
シベリヤ丸	一一、七九〇	富山丸	七、〇〇〇	阿波丸	六、〇二〇	セーロン丸	四、九〇五
伏見丸	一〇、九三六	水戸丸	七、〇六一	安藝丸	六、〇二三	盛岡丸	四、四六九
諏訪丸	一〇、六七二	松江丸	七、〇六一	德島丸	五、九七六	長野丸	三、八二四
榛名丸	一〇、四二二	リスボン丸	七、〇二三	鳥取丸	五、九七三	秋田丸	三、八一七
箱根丸	一〇、四一〇	豐橋丸	七、〇三一	博多丸	五、九六九	山形丸	三、八〇七
筥崎丸	一〇、四一三	松本丸	七、〇二五	伊豫丸	五、九六二	門司丸	三、七五七
白山丸	一〇、二八〇	りおん丸	七、〇一八	長戸丸	五、九〇一	大阪丸	三、七四一
鹿島丸	九、九〇八	高岡丸	七、〇〇七	佐渡丸	五、八九八	八幡丸	三、五〇一
香取丸	九、八四九	前橋丸	七、〇〇五	加賀丸	五、八六〇	春日丸	三、四九五
樂洋丸	九、四一九	但馬丸	六、九九五	神奈川丸	五、八五三	山城丸	三、四一九
安洋丸	九、二五七	鳥羽丸	六、九九五	鎌倉丸	五、八四六	近江丸	三、三八八
墨洋丸	八、六一九	りま丸	六、九八九	丹波丸	五、八四五	筑波丸	三、一七二
銀洋丸	八、六〇〇	敦賀丸	六、九八八	河内丸	五、七八八	天城丸	三、一六五
熱田丸	七、九八三	常盤丸	六、九七一	ベンガル丸	五、三九六	生駒丸	三、一五七
加茂丸	七、九五五	武豊丸	六、九六五	マラツカ丸	五、三七四	摩耶丸	三、一四五
北野丸	七、九五二	津山丸	六、九六三	室蘭丸	五、三七四	大安丸	三、一四三
三島丸	七、九〇五	龍野丸	六、九六一	カルカツタ丸	五、三一九	六甲丸	三、〇三八
愛宕丸	七、五四三	丹後丸	六、八九三	函館丸	五、三〇二	阿蘇丸	三、〇二八
飛鳥丸	七、五二四	ゼノア丸	六、七八五	長崎丸	五、二六八	筑前丸	二、四四四
ダカー丸	七、一七〇	對島丸	六、七五四	上海丸	五、二五九	筑後丸	二、四四四

近海郵船株式會社

船名	噸數	船名	噸數
信濃丸	六、一五四	南嶺丸	二、〇八六
備後丸	六、〇七〇	北嶺丸	二、〇八五
因幡丸	六、〇〇八	新潟丸	二、〇六六
富浦丸	三、八二一	淡路丸	一、九四九
元中丸	三、二〇九	宮浦丸	一、八五六
松浦丸	三、一八五	營口丸	一、八四三
元明丸	三、一八一	相模丸	一、八二三
神隆丸	三、一七六	芝罘丸	一、八二九
天山丸	三、一二四	勝浦丸	一、七一六
多摩丸	三、〇五四	高砂丸	一、七一六
甲陽丸	三、〇一二	貴船丸	一、六〇六
岐阜丸	二、九四四	小樽丸	一、四六四
岩手丸	二、九二八	花咲丸	一、四六四
大榮丸	二、九二五	弘前丸	一、三五四
三重丸	二、九一四	胖保丸	一、三二一
大治丸	二、七五八	大隅丸	一、二八四
若松丸	二、七一二	高松丸	一、二九二
千歳丸	二、六六九	正木丸	一、二三〇
竹島丸	二、五七六	第二正木丸	一、二一四
豊浦丸	二、五一〇	田子浦丸	六六九
北斗丸	二、二七〇		
第二養老丸	二、二二〇		
養老丸	二、一三		

株式會社住友倉庫

沿革

當倉庫はもと住友銀行の擔保品保管倉庫なりしが明治三十二年同行と分離し住友倉庫と稱して倉庫經營を開始せり。後住友合資會社の經營に移り大正十二年八月更にその倉庫業一切を繼承して、資本金壹千五百萬圓（全額拂込）を以て株式會社を設立し今日に至る。

支店所在地

中之島支店　大阪市北區中之島五丁目
東倉廩　同　北區中之島五丁目
西倉廩　同　北區中之島五丁目
玉江町倉廩　同　北區玉江町一丁目
土佐堀倉廩　同　西區土佐堀通三丁目
川口支店　大阪市此花區安治川上通一丁目
安治川倉廩　同　此花區安治川上通一丁目
富島倉廩　同　港區富島町
道頓堀支店　大阪市西區道頓堀通一丁目
築港支店　大阪市港區南海岸通一丁目
北海岸通倉廩　同　港區北海岸通
南海岸通倉廩　同　港區南海岸通一丁目
川口町倉廩　同　此花區川口町
尻無川倉廩　同　港區南海岸通三丁目
埠頭事務所　大阪市港區南海岸通一丁目
神戸出張員詰所　神戸市海岸通十一番

神戸支店　神戸市海岸通
東出町倉廩　同　兵庫東出町二丁目
川崎町倉廩　同　兵庫川崎町
海岸通倉廩　同　榮町五丁目
新港町倉廩　同　新港町
東京支店　東京市京橋區越前堀二丁目
越前堀倉廩　同　京橋區越前堀二丁目

業務の概要

貨物の寄託　は當倉庫の寄託申込書に要項を記入して印鑑を添へ御申込下されば貨物の性質に應じて適宜の藏に安全なる方法で確實に保管します。

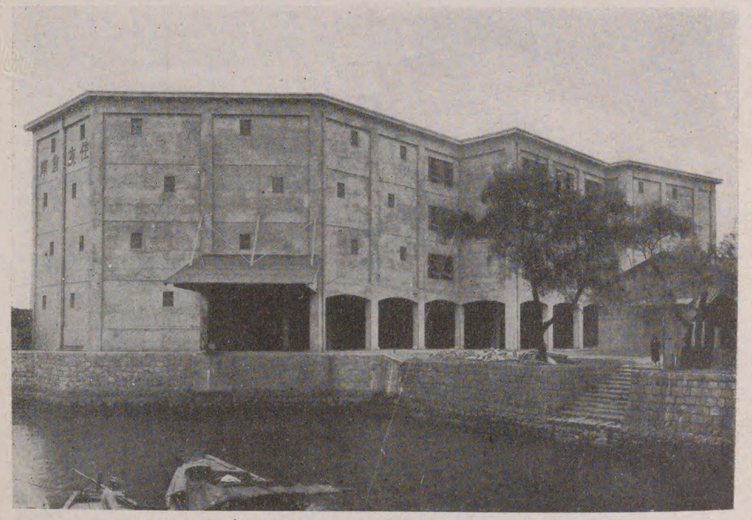
證券、證書　は御希望に應じ倉荷證券、保管證書又は通帳を發行します。

貨物の火災保險　は信用ある保險會社と特約してありますから貨物の入庫と同時に當倉庫が貨主の爲に保險に附します。

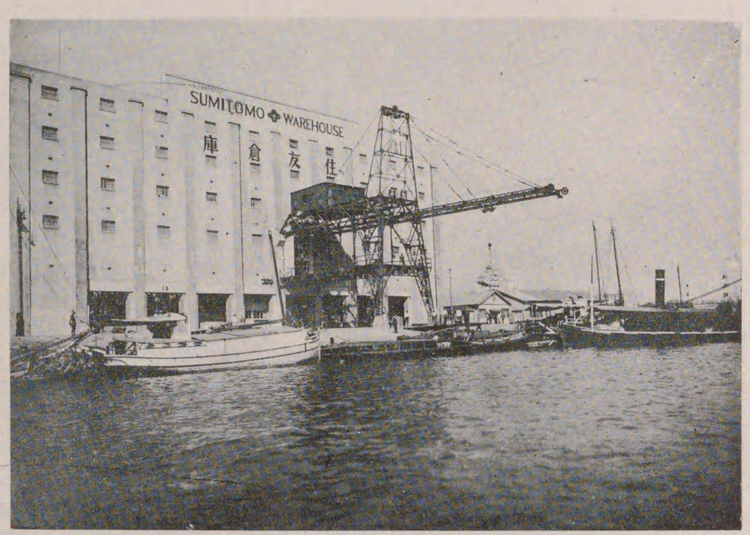
貨物の檢査　見本取り、手入れ、改裝、荷印、柄組み等は御申出により簡便に取扱ひます。

貨物の出庫　は證券、通帳又は出庫請求書に要項を記入し御請求下されば速に出庫します、保管料荷役賃等は其際申受けます、御希望によつては配達も致します。

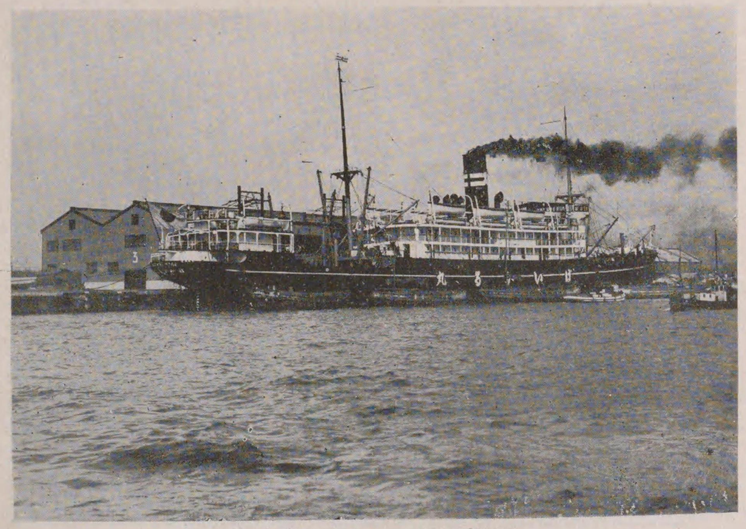
株式會社住友倉庫中之島支店



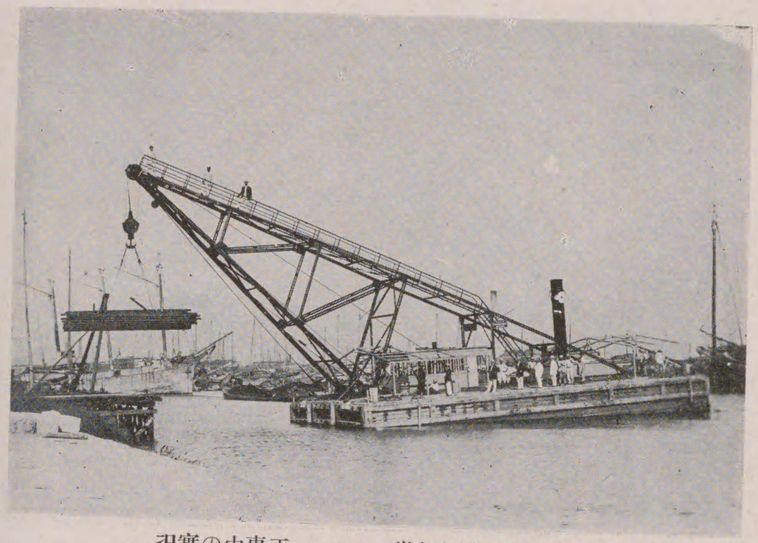
北區玉江町一丁目玉江町倉廩
（中之島支店）



同上神戸支店



大阪商船ばいかるの丸處女繋船



兒實の中事工（橋桟友住）岸船繋號一第港築

備設防消の庫倉友住

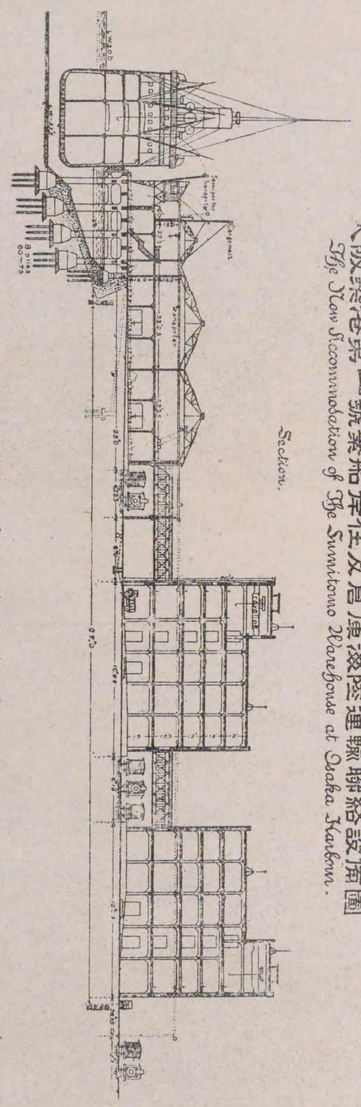
滿內には二十一ケ所の消火栓を設備し小蒸汽船四隻には强力な蒸汽喞筒裝置を備へ何時で出動する用意を致して居る。

屋上橋棧友住

役荷るけ於に屋上（上同）

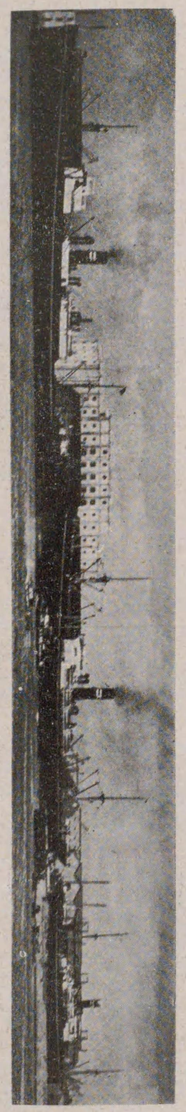
大阪築港第一號繫船岸住友倉庫陸運輸聯絡設備圖

The New Accommodation of The Sumitomo Warehouse at Osaka Kaikou.



Section.

面斷側橋棧友住岸船繫號一第



船築るた見りよ合沖（上同）

住友棧橋に於ける貨物の陸揚げ

大阪築港 住友棧橋（阜頭倉庫）

船内荷役と貨物の陸揚荷捌

多年熟練せる當所々屬仲仕を使用して諸荷役作業を營みます。取扱は確實と親切とを旨とし優秀なる機械設備と相俟つて大量の貨物を迅速に陸揚積込荷捌致します。

荷捌能力　一艙口毎時　五拾噸乃至六拾噸

繋船しつゝある汽船と住友棧橋

日本航空株式會社

設立の目的

當社は川西家の經營にして航空機の製作並に各種航空事業を營み以て航空界の進歩發達を促進せしむることを目的とす今や歐米各國に於ける航空界の發達は洵に想像以上に盛んなるものあり軍用機に商業用機に實に目覺しき活躍をなし軍事上通商上共に航空機の出現により平面より立体的に劃紀的革命を起しつゝある秋に當り獨り我國民間飛行界は其進歩遲々として振はず常に歐米の後塵を拜するの悲況に沈淪することの久しき識者の等しく遺憾とする所なり此に於て川西清兵衛氏は深く決する所あり船空報國の爲敢然本事業に着手し飛行機の製作航空路の開拓旅客郵便物貨物等の輸送の操縱士機關士の養成をなし傍ら各地に於て遊覽飛行を催して內空機の安全なるを宣傳普及し以て益々航空界の進歩發達に努力し尙一朝有事の際は報國の一助たらむことを期し年々數十萬圓の私財を拋ち孜々として經營今日に及ぶ會社の內容並に業績大略左の如し

創　立　大正十二年六月二十日

資本金　創立當時　金五拾萬圓

大正十五年七月　金貳百萬圓に增資す

營業課目

一、旅客貨物及郵便物等の空中輸送

一、航空機の運用及賣買

一、其他右に關する一切の附帶事業

經營航空路

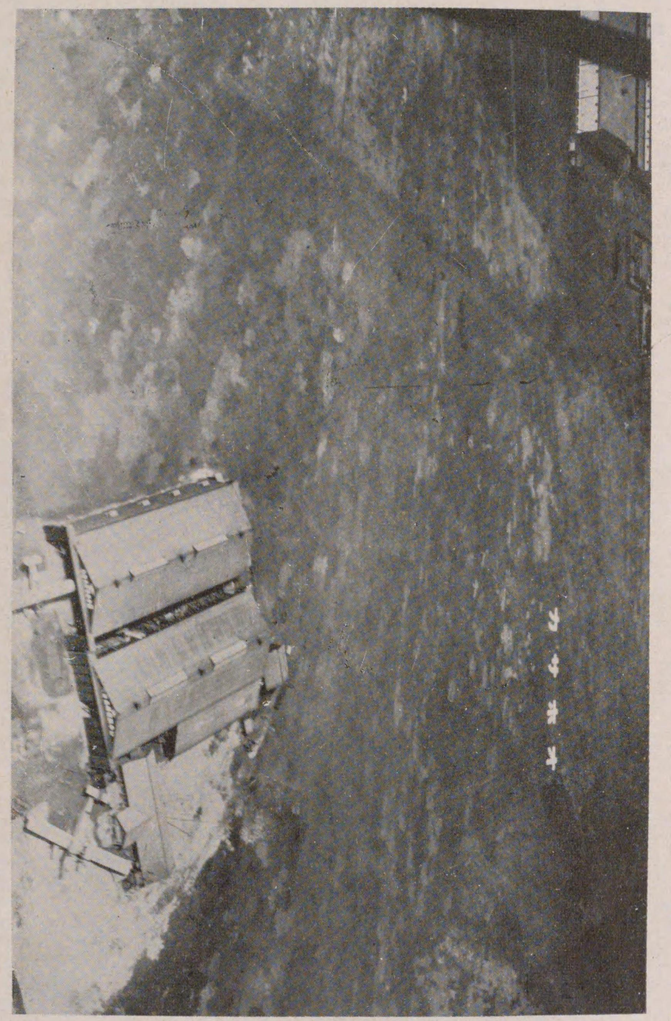
大正十二年度	自大正十二年六月至仝年十一月	大阪別府間	一週一往復	一六一、〇一時分
大正十三年度	自大正十二年十二月至仝十三年十一月	大阪別府間 大阪三田尻別府間 別府三田尻福岡間 大阪三田尻福岡間	一週一往復	四八四、一九
大正十四年度	自大正十三年十二月至仝十四年十一月	大阪三田尻福岡間 別府三田尻福岡間 大阪北郡福岡間 小郡別府間	一週一往復 一週一往復 三往復	八一四、二三
大正十五年度	自大正十四年十二月至仝十五年十一月	大阪小郡福岡間 小郡別府間 大阪京城大連間 大阪熊本上海間	一週三往復 一ヶ年十二航空	一一四六、四四
昭和二年	自昭和元年十二月至仝二年十一月	大阪福岡間 大阪京城大連間 大阪熊本上海間	一週三往復 一ヶ年十二航空	一八五八、一七

役員氏名

專務取締役	川西龍三
取締役	川西清司
仝	高尾繁造
仝兼支配人	坂東舜一
監査役	井上治郎
相談役	川西清兵衛

從業員

飛行士	二十二名
機關士	三十餘名
其他	二十四名



大阪木津川飛行場と其標識

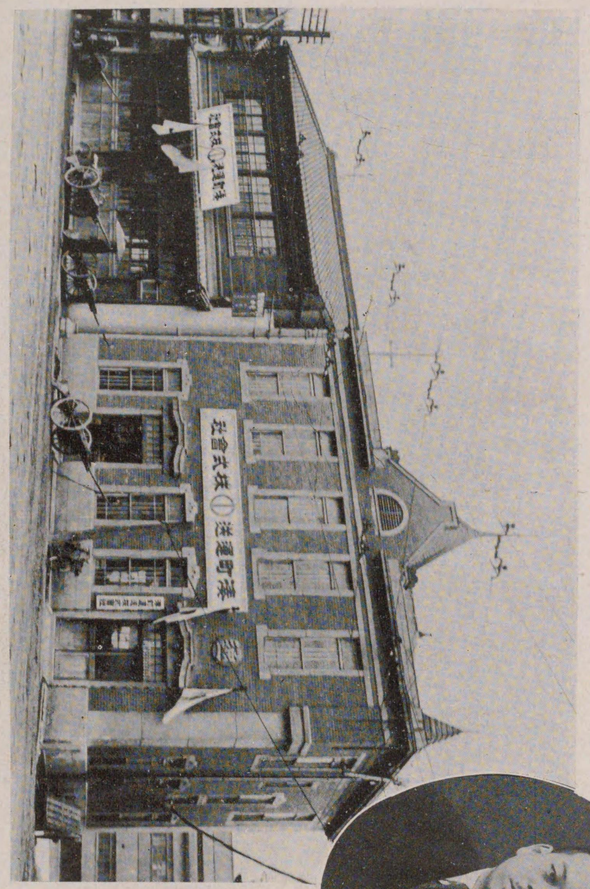
港町運送株式會社

大正七、八年の好況時代に運送業者は續々現はれ、中には不十分な者もあり、鐵道院は、取締と、改善とを目論見、運送取扱人公認規程（大正八年六月告示三三號）を發布し、續いて準則を設け公認運送業者の組合組織を勸誘せり。

爾來、八年間公認運送業者は此の組合に依り、業務の改善統一、社會的地位と信用との確立、業者相互間に於ける意思の疏通等共同の福利增進を計り來つたのである。

然し、鐵道省は、歐洲戰亂後急轉した我が經濟界の實際には尙ほ不徹底なるものありとなし、昨年六月聲明書を發して運送合同を慫慂するに到つたのである爲めに、全國二千七十九運送業者の殆んど全部は、之れに順應すべく既に合同會社の成立を見るに至れり。

即ち、港町運送株式會社は此の機を劃して設立せられ前組長松山簾氏專務取締役に就任し以て今日に至る、大大阪貨物集散の南關港町驛前に本社を置き逐日社運の隆盛を見るは我大大阪を中心とせる交通運輸上誠に慶すべき事である。



社會式株送運町港

同社專務取締役 松山康氏

舍廳府阪大

建物高サ數位
大正十五年竣工

總延坪數口年
大阪市東區大手町
五千九百九十坪
二千五百七十坪
地下共七階
塔屋一階
總間數位
地面置
十間二十
奥行四八
七六八
階數三
間數式
階數式
階合之
間勾町

舍廳市阪大

總延坪數口年
大正十七年竣工

總間數位
地面置
階數式
階建築様
大阪市北區中之島一丁目
地下二階
地上七階
塔屋一階
奥行六十六尺
間口三百十三尺
階數四階
間勾町

大阪ビルデイング

大大阪の心臓地帯中之島中央に聳へ高さ壹百尺總延坪數壹萬坪を算す、建築樣式は近世式に特殊手法を施し材料は主として國産品を蒐め絶對耐震耐火の構造にして其内外の裝飾は通じて簡素に見ゆるも其要部に於ては放膽なる意匠と自由なる彫塑を以て豊ならしめたる所に特長を有し關西第一のビルデイングとして諸般の設備も亦是に伴ふ。

諸設備監理裝置

第一階の一室大阪ビルヂング事務所に於て昇降機の運轉狀態、暖房汽鑵、各種ポンプ冷熱送氣狀態、冷溫水の配給狀態、電氣の使用狀態等を居ながらにして其詳細に知ることを得、機宜に應じて其場所より直ちに指揮を與へ得る裝置を行ふものとす。

本工事用建築諸材料は主として内國製産品を撰定使用せるものにして從來外國製品に限られたる鐵筋材「テラコッタ」「プラスター」衞生器具、防火扉、昇降機、換氣用諸機械、左官材料等全部又は其大部分を内國製産業者に製作せしめ何れも滿足なる製品を得たり。

グンイデルビーヨンニーゴ・住友ビルデイング　大阪住友ビル

幾然さ
住友ビルヂ
大阪イ
市ンヂ
東區ヂ
北の
濱
五丁目

壯大
觀
阪
建
築
物
の
王
者

グンイデルビーヨンニーゴ・商會式株江商　島之中阪大

大正十四年一月工事に着手し翌十五年六月竣工すべき期間八ヶ月の短きに拘はらず周到なる設計監督の下に施工者大林組の堅實なる技術と多數職工の努力とにより豫定通り竣工を告げたる近代式にして經濟的にも亦堅牢なる鐵筋コンクリート造なり

江商株式會社本店

コーシヨン式ビルデイング

(6)
(57)
(21)

建築に當りては特に採光、通風に關し各室の位置、出入口の取方等に就ても充分の注意を拂ひ又階段は一般客用的なる主階段と使用人專用的なる副階段とを別ち主階段は第一階及二階を擴張して廣大ならしめ副階段は第三階より第六階迄を使用し各階共に其の位置を異にせしめ以て交通の便を圖れり

本店は江商株式會社の所有にして第一階及二階は同會社本店に於て使用し第三階より第六階迄は一般貸事務室とす

會商和日

新築工事概要

江戸繊ビルデインング

位置	大阪市西區江戸堀南通壹丁目四四三番地
工程	
起工	大正十五年三月三日
定礎	昭和二年五年十一月二日
竣工	壹千九百二十八年三月三十日
式典	壹千九百二十八年四月一日
敷地面積	六百拾貳坪六合〇八勺九
建坪	四百參十六坪
總延坪	六百拾貳坪六合〇八勺九

ジンイデルビ橋月江

構造概要

耐震耐火鐵筋コンクリート造地階共五階建一部屋上に倉庫其他を建

設計（ここでは地盤より建物の高さ）

尺八寸五分の高さの基礎を基準とし各階の距離大約十八尺内外のラベツト上端迄五十五尺五寸最高塔屋上端迄七十四尺

基礎

各階々高、地階、九尺五寸、一階、拾四尺、二階、拾貳尺、三階、拾壹尺、四階、拾壹尺六寸

地盤より最深二十尺三寸掘下げ杭打及割栗石捨て固め鐵筋コンクリート地形

さし各主要柱は悉く耐震的手法たる鐵骨鐵筋コンクリート造とし外壁は煉瓦積とし内部は木造とす

景全グンイデルビ田神

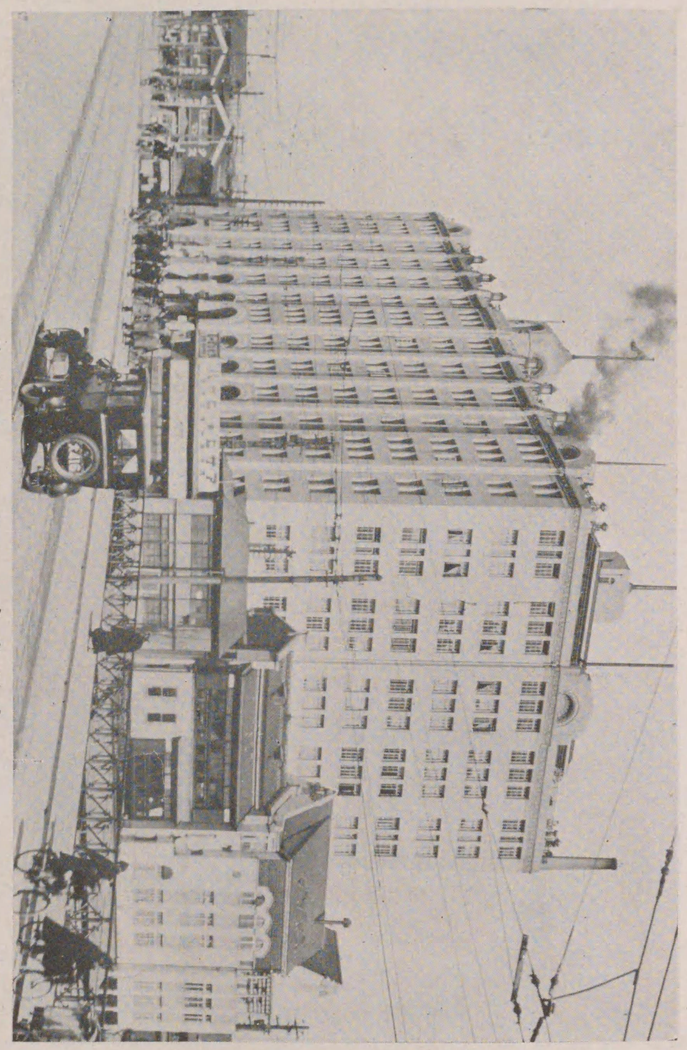
（大阪市東區今橋二丁目）

館内著名會社商店
神田銀行大阪支店
インターナショナル シチー バンク大阪支店
シー ワイン ベルゲル商會
イリス商會
攝津アスベスト株式會社
日章火災保險株式會社
千代田火災保險株式會社
東華生命保險株式會社
津久井法律事務所
謙信洋行

撞球場地階其他暖房、冷房裝置、衛生設備等最新式施設に於て完備せり

神田合名會社所有大正十年創立鐵筋コンクリート五階建

電話本局 九五〇 四九〇一 四九七二



景全グンイデルビ島堂阪大

高サ壹百尺

延坪五千八百九拾四坪五合三勺一

建築面積六百四拾四坪七勺貳才

本館鐵筋混凝土造（耐震耐火構造）陸屋根九階建地階付

敷地面積七百四拾坪六合一勺五才

位置北區堂島船大工町壹ノ壹

堂島ビルデイング

船場ビルデイング概要

一位　置　大阪市東區淡路町三丁目六番地
　堺筋線瓦町又は平野町停留場より西へ二丁
　本町參丁目停留場より北へ三丁

一構　造　地階を合せ六階建鐵筋「コンクリート」造にして耐震耐火永久構造なり高さ地盤より塔屋迄六拾八尺五寸

一設　備　昇降機、消火栓、ガス電燈、室内電話、暖房電扇、給水給湯、湯沸場、便所、洗面所、塵芥捨場、洗濯場、郵便投入箱、淨化裝置
　特に三階には日本風住宅向貸室あり各室に便所物入、炊事場の設備あり。

一貸　室　壹　階　十六室（地下室付）
　貳　階　十八階
　參　階　十七室
　四　階　集會室ビリヤードの外貸事務室十二
　五　階　食　堂

一面　積　貳百六拾四坪　建物延坪壹千百〇二坪八合

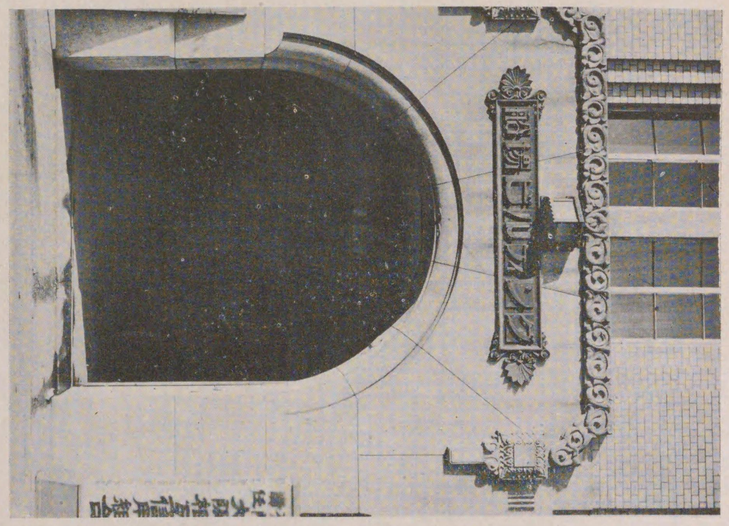
一工事期間　起工大正拾參年九月
　竣工大正拾四年九月　拾參ヶ月

一施　工　竹中工務店

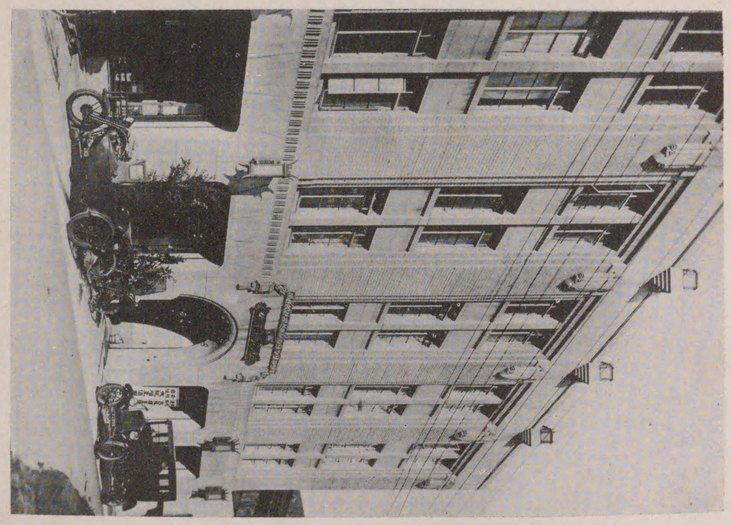
經營者

桃井商事株式會社

社　長　桃谷順一
專務取締役　藤井靖造
仝　桃谷幹次郎
仝　藤井和三郎
監査役　桃谷政次郎
仝　藤井甚兵衛



門正右同



船場ビルデイング

京町堀ビルデイング

京町堀ビルデイング——京ビル食堂——清和倶樂部

大阪著名のビルデイングにして大正十四年三月工を起こし工費四拾萬圓を費して全十五年五月竣工開館、延坪八百十坪(敷地百八十五坪)六階建にして暖房、エレヴエーター、衛生工事共他一般必要の設備凡て最新式にして完全壯麗の語を具して遺憾なし、館主若江善吉氏(清和倶樂部幹事)自ら其經營の任に當り、就中食堂の設備と顧客本位にして高尚なる感じは最も館主の苦心を見る。

◆館内重なる會社商店

住友銀行支店　富士電氣株式會社
小樽新聞大阪支局　大日本石膏株式會社
日本生命保險出張所　田中工業所
福壽會　三精商會
華陽貿易商會　其他著名會社商店

清和倶樂部(社交機關)　四階
歐風料理京ビル食堂　五階
撞球場　一階
京ビル事務室　地階
調髪室　仝
簡易食堂　仝

所在地　大阪市西區京町堀上通一丁目三三
電話土佐堀四二三九・四七七四・六九四六・專用六九五四
倶樂部川六四九九

館主　若江善吉

株式會社 大林組

（大阪市東區京橋三丁目七十五番地　電話東(94)自長八六〇番　至長八六五番　自　五四〇四番　至長五四〇九番）

創　業　明治二十五年

營業目的

一、土木建築請負、職工人夫の供給、建築材料其他物品の販賣

二、土木建築に關聯せる事業に對する投資並に商行爲の代理

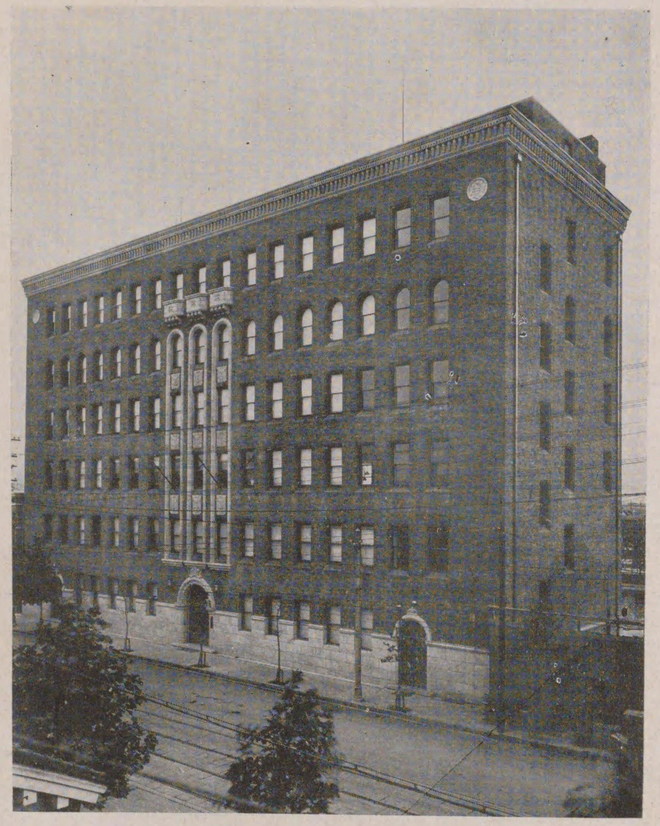
資本金　五百萬圓

社長	大林　義雄	東京支店　東京市麹町區永樂町二丁目一番地三菱仲十八號館五階
副社長	大林貴四郎	
常務取締役	白杉　龜造	横濱支店　横濱市中區太田町二丁目四十番地十五ビルヂング三階
常務取締役	植村　克巳	
取締役會計技師長工學博士	直木倫太郎	名古屋支店　名古屋市中區新柳町六丁目三番地住友ビルヂング七階
取締役	松井　清足	小倉支店　小倉市米町二丁目三十二番地
取締役	鈴木　甫	京都營業所　京都市上京區堺町通御池下ル丸木村木町六百七十五番地
常任監査役	大林　龜松	神戸營業所　神戸市海岸通十二番
監査役	松本　禹象	工作所大阪工場　大阪市港區千島町六番地
監査役	加藤芳太郎	工作所東京工場　東京市深川區鹽崎町番號埋立地
顧問工學博士	岡　胤信	

營業組織の沿革

當組は明治二十五年一月故大林芳五郎の創設に係り日清及日露戰後事業界興隆の時機に際會して相當の業績を收め基礎堅實を加ふるの域に進み候折柄時世の推移と共に其營業組織を法人に革むるの可なるを認め明治四十二年七月之を合資會社と爲し漸次業務の隆盛を效し候處大正五年一月芳五郎病を以て長逝し嗣子義雄之を繼承して引續き營業致候時恰も曩古未曾有の時局に遭遇し深厚なる大方の眷顧を忝うし日を逐うて繁榮に赴き申し更に業務の擴張を圖り以て時代に適應せしめることを期し大正七年十二月其組織を株式會社に變更し資本金貳百萬圓拂込百貳拾萬圓を以て成立仕り同十一年三月全額拂込とし次て同十三年六月資本金五百萬圓拂込參百萬圓とし資本の充實を圖り業礎年と共に鞏固に赴き將來斯界に於て益々努力貢獻仕るべき機運に到達致候は洵に欣幸とする處に御座候

（本文は大林組よりの回答其ままを掲載せり）



大林組の竣工に係る建築概況

伊藤忠商店本店、江商ビル、大阪ビル、住友ビル、大阪倶樂部、日本海上ビル、府廳舍、新京阪停車場、大軌上本町停車場、大阪中央電信局、大每、三品取引所、鴻池銀行本店、日本信託銀行、關西信託株式會社、大阪基督教青年會館、曾根崎演舞場、松竹座、古河鑛業大阪支店、阪神國道神崎大橋、仝淀川大橋、小橋

大阪窯業恩加島工場、大阪鐵工所工場、有隣生命大阪支店、大阪府立女子師範學校、大阪水陸聯絡船鰫川木津川間高架線、宇治電木津川發電所、濟美第三及第一小學校　中大江小學校、下福島小學校、片倉生命大阪支店（新築中）、新世界通天閣、大阪高等學校、大阪府立浪速高等學校（新築中）、大阪實業協會本館（新築中）、大阪中央卸賣市場冷藏庫其他（新築中）、農林省大阪倉庫、大阪市築港第一突堤第三突堤（新築中）、住友伸銅所、

景全ゾンイデルヒ軌大

位置	大阪市天王寺區上本町六丁目一番地
敷地面積	三千六百坪
建坪數	一千百五十七坪八合九勺

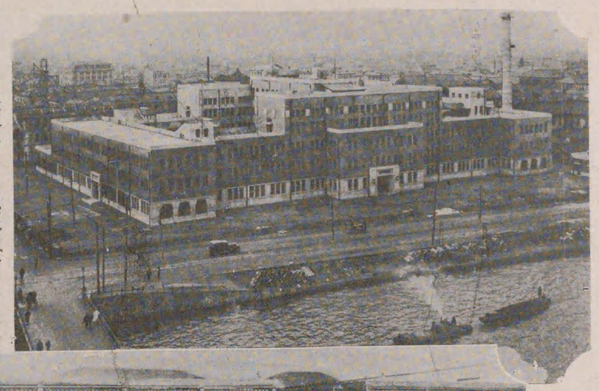
各階諸室の配置

壹地下室	日用品市場、小倉庫、冷藏庫、暖房室、電氣室、其他
壹階	乘客待合所、運輸事務室、百貨店、銀行、郵便局、電氣室、其他
貳階	重役食堂、百貨店、理髮室、其他
參階	會社事務室、休憩室及貸室
四階	會社事務室、撞球室、娛樂室、其他
五階	會社事務室、集會室、其他
六階	機械室、其他
七階	湯沸所、便所等各階適宜に配置

景全ゾンイデルヒ枝ケ梅

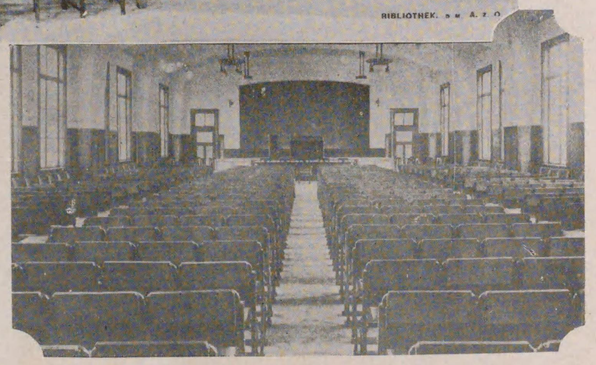
梅ケ枝ヒルデインゾ館主　岡田忠次郎

敷地は最初大阪市北區梅ケ枝町に於て構築の計劃して近隣の居住者に著しき不快の感を與へざる樣注意の必要ありしを以て其筋の許可を得て大正九年七月現在の梅ケ枝ヒルデインゾを建築し自ら其經營に當る延坪參百、室數三十七室、食堂、遊戲場の設備あり大阪最古のヒルデインゾにして其名なつである。



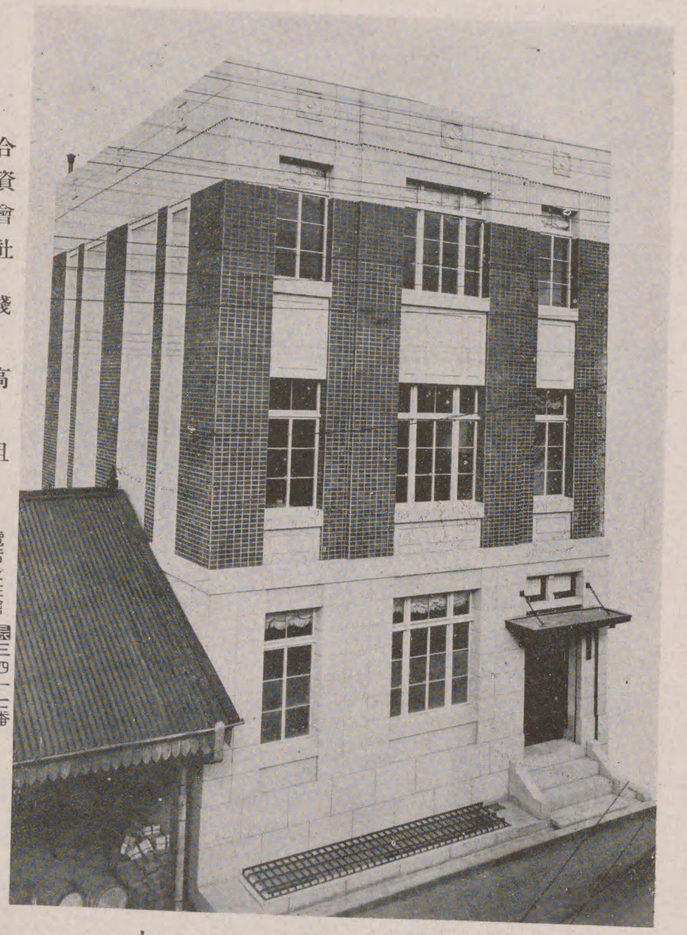
大阪醫科大學全景

仝醫科大學圖書室



仝醫科大學講堂

大阪醫科大學



合資會社 錢高組

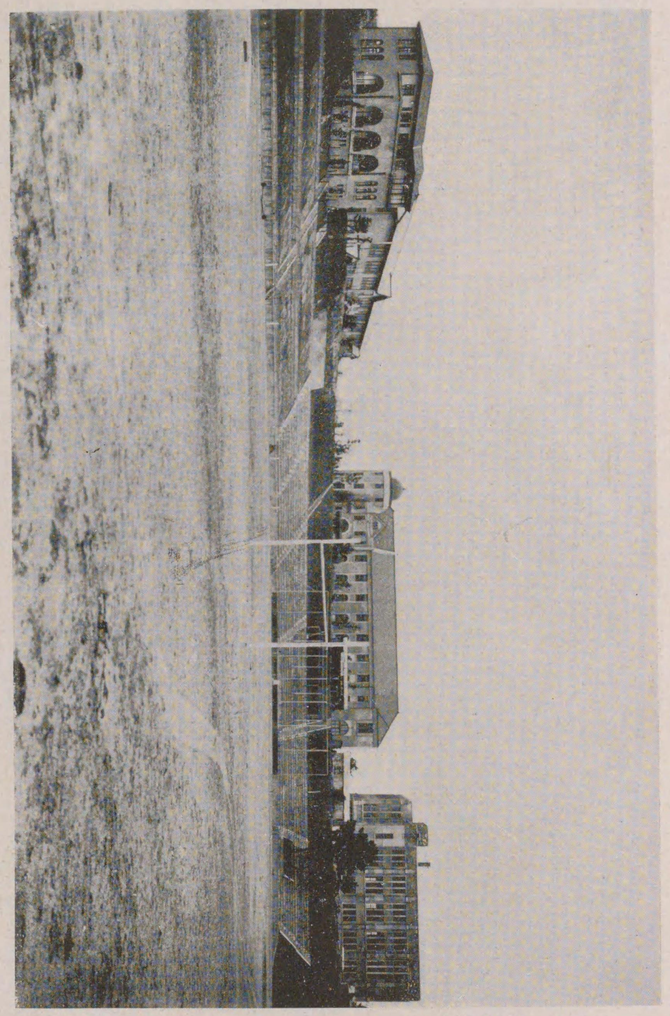
電話土佐堀 三四一七番 三四一八番

本社
大阪市西區土佐堀通三丁目二十四番地

東京支店
東京市京橋區木挽町四丁目四番地

代表社員
錢高作太郎氏
錢高久吉氏

營業種目
土木建築請負



關西大學遠望（グラウンドの一隅より望む）

關西大學沿革

今を去る四十餘年前、即ち明治十九年の十二月、當時大阪に於ける法曹界の先覺者數氏が相謀つて關西法律學校を創設し最初は寺院の一室を借り、次いで江戸堀のささやかなる校舍に於てフランス法學を主とする講義を開始した、これ即ち當時東都に於てすら未だ一二の前例を見るに過ぎなかつたこの種學校の我關西の地に於ける嚆矢であり同時に本學の濫觴である。

爾來年を經ること殆んど半世紀に近く、その間校舍の位置を變ふること數次、組織内容にも亦大小數多の變革を見、遂に大正十一年六月を一劃期として大學令に依る關西大學の新らしき第一歩は踏み出された。即ち組織を一新せる關西大學の内容は法文學部及び經濟學部の二學部を本體とし之に大學豫科並に大學院を併置し同時に專門學校令に依る關西甲種商業學校及び關西大學第二商業學校等を附屬體として、ここに一大學園を形成しかくて漸次綜合大學完成の業は將に成らんとしてゐる。

位置

環境が人性に及ぼす影響が如何に大であるかは今更言ふ迄もなきところ、殊に人格陶冶、眞理研究の場所たる大學の所在地が環境その宜しきを得ることは極めて緊要である。本學がその校地を千里山に下せる所以實にここに存するのである。即ち寫眞が示す通り自然の丘陵の降伏する間に、綠の樹間を透して白堊の隱顯する狀景は學歌に「所謂自然の秀麗」そのものであり、加ふるに附近一帶は梅林と桃園とを以て知らるるところ、綠林に、薄の野に將た雪景色に、四季それぞれの淸景を呈す、これ等淸景はそこに學ぶ學生性格の上に能く純眞と淸澄の氣とを反映せしめずには置かない。とは言へ大學は常に時代に適應せる知識を授け思想を養ふところでなければならぬこの故に、俗塵に浴せざる秀麗の地に在るを長とするも都市を距ること餘りに遠くして時勢の推移に疎なる短あらんか結局大學教育の目的を達成することは不可能である。然るに我千里山は叙上の如き佳景の地を占むるが上に、而も我國文化の中心を成す大阪との間に、僅々十五分を以て容易に連絡し得る至便の交通機關を有つてゐる實に大學教育本來の要件と完全に一致する好位置を占むるものと言ふべく、ここに育まるる學生こそ幸なれ。

學大科商阪大

同大學長事務取扱
武田千代三郎氏

大阪高等工業學校長
堤正義氏

門正校同

大阪府女子專問學校沿革概要

一、大正十二年六月八日　本校設置費として金參拾五萬圓土地二千坪を大阪市山田市郎兵衛氏より寄附申込あり大正十二年六月十三日府會に於て設立を議決す

一、大正十三年二月二日　設立認可

一、大正十三年二月二日　瀧村斐男校長事務取扱任命

一、大正十三年三月四日　本校事務を大阪府廳内より大阪府立阿部野高等女學校内本校假校舍に移す

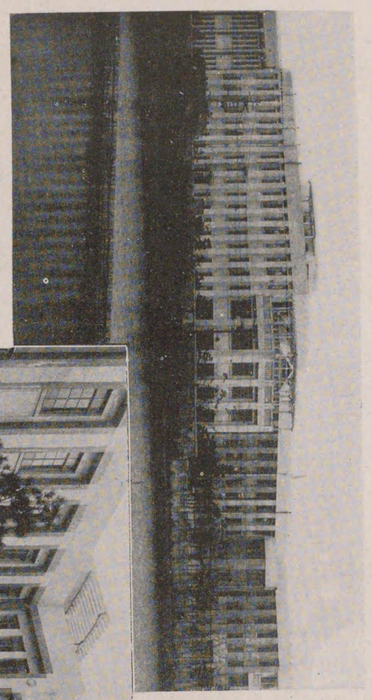
一、大正十三年四月廿二日　瀧村斐男校長任命

一、大正十三年六月廿八日　教育勅語謄本下附せらる

一、大正十四年四月二日　現校舍へ移轉

一、大正十四年六月十五日　開校式

所在地　大阪市住吉區住吉町帝塚山



景全校學門專子女府阪大

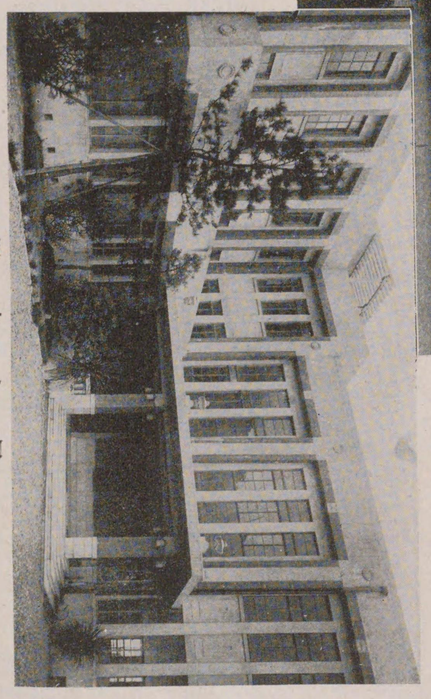
歌校

一

われらわれらつどへる友
われらがつどひはとはに若し
とはに若かるこのつどひ望と愛に
うちたつるこのまなびやの
日にはえて地に立てるは
とはの若さの姿なれこそ
われらの命若きかぎりは
このさかえ日のひとも久しかるらん
いざわれら
われらがつどひともにたゝへん

二

われらわれらつどへる友
われらがつどひは道をもとも
道をもとむるこのつどひ樂しみ勵み
うちたつるこのまなびやの
空高くさやかに立つは
とはなる道の像なれこそ
われらの心道に生きなば
このさかえ日のごとも輝しかん
いざわれら
われらがつどひともにたゝへん



關玄上同

大阪齒科醫學專門學校

沿革

私立齒科學校設立申請　明治四十四年九月二十七日藤原市太郎氏により私立大阪齒科醫學校設立を大阪府知事へ申請

設立認可　明治四十四年十二月十二日大阪市北區西野田大野町二丁目に於て私立大阪齒科醫學校設立認可せらる校主は藤原市太郎氏にしてドクトル緒方六治氏校長に就任す

開校　明治四十五年一月十四日開校式擧行豫二月一日より授業開始す

開院　大正二年十月大阪市北區下福島三丁目六十八番地に附屬醫院を新設し一般患者に就き臨床實習を開始す

移轉　大正四年七月大阪市南區木津大國町に校舍を移し本校並に附屬院を合併して晝間部を本科と稱し夜間部を別科と稱して二部教授を開始す

再移轉　大正五年七月東成郡生野村大字國分四二六、四二七、四二八、合併地上の校舍を買收し修業年限を三ケ年と改め晝間部本科の入學資格を中學卒業程度以上となし夜間部別科は從前通り高等小學校卒業程度を以て修業年限二ケ年として授業を開始す

昇格認可申請　大正五年十一月十日古川賢治氏の寄附に依り財團法人を設立し同時に大阪齒科醫學專門學校に昇格を文部大臣へ申請す

認定　大正六年九月七日大阪齒科醫學專門學校として設立の件認可せられ同時に本科卒業生は大阪齒科醫學士の稱號を認許せられ續いて同月二十二日徵兵令第十三條により認定せられ徵兵猶豫の特典を得緒方校長齒科醫師試驗委員たるを以て辭任せられ醫學博士今村保氏校長に就任す

財團法人所得財產　前記古川賢治氏財團法人設立に際し寄附せられたる財產及設立當初役員左の如し

一金拾八萬壹千圓也

內譯

一金拾萬圓也　朝鮮所在土地見積價格

一金參萬壹千圓也　五分利附國庫債券

一金五萬圓也　齒科醫學校買收費其他創業資金

理事に古川賢治、永澤盛、須賀田平吉、成田文雄の四氏古川賢治氏理事長に推薦せられ就任し、相談役に福錄文也、田中健之助兩氏顧問に日置默仙、堀內文治郎兩氏就任す

年限延長　大正六年十一月學則一部を改正し本科の修業年限を三ケ年半に延長す

附屬醫院新築　大正八年壹月大阪市南區天王寺烏ケ辻に附屬醫院を設け汎く患者の診察に從事し臨床實習の完備を計る

指定　大正九年三月十二日文部大臣の指定を受け本科卒業生は無試驗開業の特典を與せらる

別科廢止　大正九年十月財團監事に石森喜藏氏就任す

大正十年三月末日限り別科の授業を廢止す

年限延長　大正十一年相談役福錄氏轉任に付辭任

大正十三年三月學則の一部を改正し四月新入學級より修業年限を四ケ年間に延長し四月新入學級より實施す

校長更迭　大正十三年五月校長今村保氏病氣の爲辭任しドクトル朝比奈藤太郎氏校長に就任す

大正十三年七月相談役田中健之助氏死去せらる

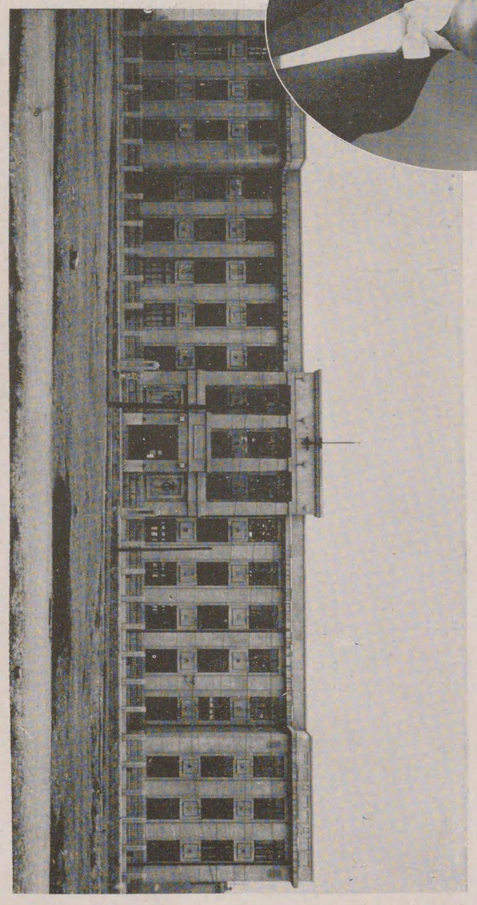
理事就任　大正十四年十二月欠員中の財團理事に大阪府教育課長山本理一氏ドクトル緒方六治氏及校長朝比奈藤太郎氏三氏就任し監事に石森喜藏氏再任主事に須賀田平吉、氏與野恒治氏兩氏就任す

大正十五年三月本校技工室擴張、組織醫化學、藥物、化學、實習室の增築に着手し六月竣工す

大阪市立扇町商業學校沿革大要

一、大正十年三月二十八日本校創立の件市會に於て可決せらる
一、大正十一年三月三日附文部省告示第一〇八號を以て大正十二年四月より開校の件認可せらる
一、大正十一年十二月二十三日鹿兒島市立商業學校長飯野俊一本校長に任ぜらる
一、大正十二年一月二十二日校長着任、同日創立事務所を市廳教育部内に設置す
一、大正十二年三月下旬第一回入學試驗を擧行す、應募者八百二十九名、入學許可者百六十四名
一、大正十二年四月九日大阪市教育會館に於て入學式を擧行す
一、大正十二年四月十日建築中の本校々舍に於て授業を開始す
一、大正十二年四月十六日事務所を本校々舍に移轉す
一、大正十二年七月七日本校々舍第一期工事竣成す
一、大正十三年三月二十九日教育勅語謄本下賜せらる
一、大正十三年六月十四日本校々舍第二期工事竣成す
一、大正十三年七月十四日學校長飯野俊一東商業學校長に轉任せらる
一、大正十三年七月十四日飯野俊一東商業學校長兼本校長事務取扱を命ぜらる
一、大正十三年九日二十五日天王寺商業學校教諭梁井種男本校長に任ぜらる
一、大正十四年三月十二日本校落成式擧行
一、大正十四年十月二十九日閑院宮載仁親王殿下台臨樟樹御手植遊ばさる
一、大正十四年十二月二十六日文官任用令第六條、徴兵令第十三條第一項第二號に依る中學校と同程度以上と認定せらる
一、大正十五年五月五日附を以て同年四月より定員一千名に増加の件認可せらる

同校長 梁井種男氏



景全校學業商町扇立市阪大
（側西園公町扇區北地在所）

大阪市立都島工業學校沿革大要

創立經過

本校設立に就ては明治二十三年以降屢當局者の議に上り居りしが明治三十九年三月遂に市會に於て三ヶ年繼續事業として創立費四拾萬圓を支出し四十一年度より開校の議決せり。

校舍建築

明治四十年四月校舍の位置を市内北區牛丸町（舊在の地）に定め建築工事に着手し翌年四月三十日本館、生徒控所、工場等主なる建物竣成せり其後明治四十一年十二月同四十二年四月同四十五年二月大正元年九月同八年三月の數回に亘り增築擴張等をなせり。

學則制定

北區善源寺町三町目新校舍竣功せしにより大正十四年十二月一日現校舍に移轉せり。

明治四十年八月市告示により學則を定め本科に機械建築の二科を選科に機械建築分析家具の四科を置きしが明治四十一年四月本科に分析科を增設し大正七年四月新に修業年限二ヶ年の豫科を設けたり。

大正九年四月學則を改定實施し市立大阪工業學校の名稱を大阪市立工業學校と改め定員を增加して八百五十名とし電氣科を新設し分析科を應用化學科と改め又從來設置せる選科を廢し新に專修科を置き中學校又は之と同等以上の學校の卒業生を收容し修業年限二ヶ年にて本科と同一の專門學科を教授するの制度を設けたり。

大正十四年四月學則を改正しゲーリー式實施の爲生徒定員を千七百名に增加せり。

大正十一年四月より新に土木科を設置せり。

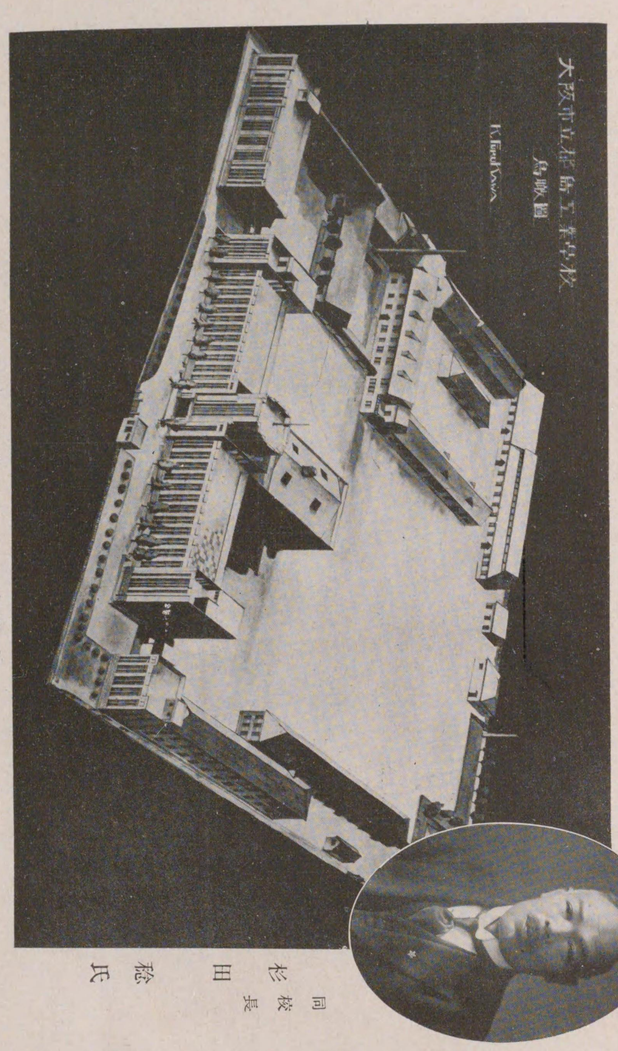
應用化學科は大正十二年十二月三十一日大阪市立泉尾工業學校に併合せられたり。

大正十五年四月一日學則を改正し校名を大阪市立都島工業學校と改め豫科本科の名稱を廢止し機械科電氣科建築科土木科の四科となし修業年限を六ヶ年とす、專修科は之を廢止す。

校長任免

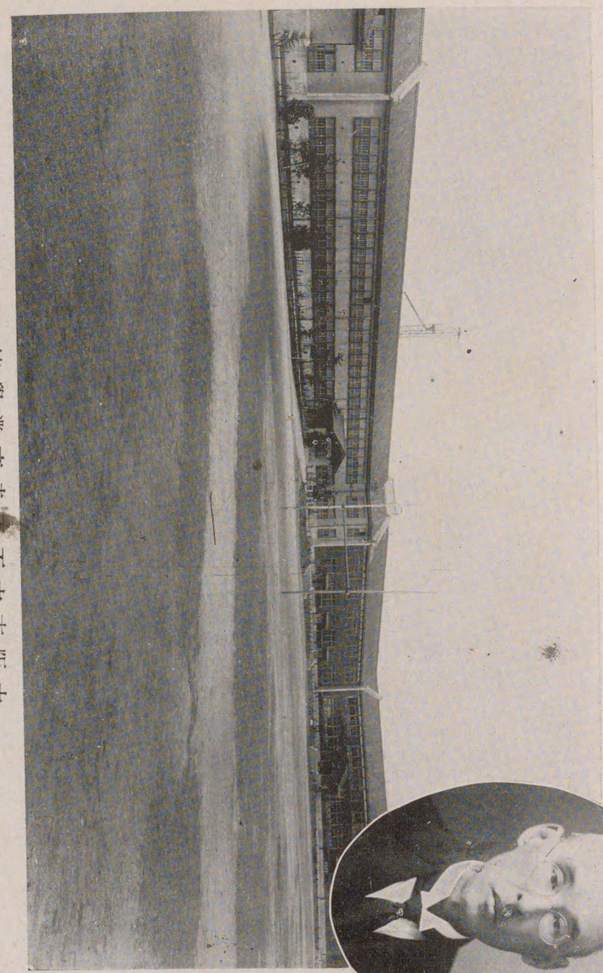
明治四十年六月三日休職奈良縣吉野實業學校長堀居左五郎本校長に任ぜらる大正七年一月十八日願退職

大正七年一月十八日東京高等工業學校教授生徒監杉田稔本校長に任ぜらる。



同校長 杉田稔氏

圖瞰鳥校學業工島都立市阪大



校學業商寺王天立市阪大

同校長 下河內十二藏氏

大阪市立商業學校

（昭和二年四月現在）

校名	設立年月	修業年限	生徒定員	生徒現員	學級數	教員數 正教員	囑託	計	經常費	臨時費	計
天王寺商業學校	明治四十五年四月	五ヶ年	一、〇〇〇	九二	二〇	二六	一三	四一	八〇、六八三	—	八〇、六八三
市岡商業學校	大正八年四月	五ヶ年	九〇〇	八四三	一八	二五	九	三四	七四、九二一	—	七四、九二一
東商業學校	大正九年五月	五ヶ年	一、〇〇〇	八九〇	一八	二三	八	三一	七三、八五〇	—	七三、八五〇
扇町商業學校	大正十二年三月	五ヶ年	一、〇〇〇	八三三	一八	二七	七	三四	七二、二三五	—	七二、二三五
西區商業學校	大正十年四月	五ヶ年	九〇〇	八三三	一八	二三	六	二九	九〇、八九二	—	九〇、八九二
合計			四、八〇〇	四、三五〇	九二	一二九	四二	一七一	三九二、三二六	—	三九二、三二六

女子職業學校（昭和二年四月現在）

校名	設立年月	分科	修業年限	生徒定員	生現徒員	學級數	教員數 正教員	教員數 囑託	教員數 計	經費 經常費	經費 臨時費	經費 計
高等西華女學校	大正十年四月	本科	五ヶ年		七五	一六	三二	五	三七	八一、五九一円	一円	八一、五九一円
		高等科	一ヶ年	八五〇	一一〇	四						
			二ヶ年									
			三ヶ年									
高等東女學校	大正十二年三月	本科	五ヶ年	七五〇	五〇	一二	二二	七	二八	七七、六六円	二、二二〇円	七九、八八円
		補習科	一ヶ年	—	三三	一						
合計				一、六〇〇	一、四〇五	三三	五	一三	六六	一五九、二五八円	二、二二〇円	一六一、四七八円

高等女學校（昭和二年四月現在）

校名	設立年月	分科	修業年限	生徒定員	生徒現員	學級數	教員數 正教員	教員數 囑託	教員數 計	經費 經常費	經費 臨時費	經費 計
高等女學校	大正九年十一月	本科	五ヶ年	六〇〇	六一一	一三	一六	一三	二八	四七、九八〇円	—	四七、九八〇円
		補習科	一ヶ年	五〇	四四	一						
實科高等女學校	大正五年四月		四ヶ年	六〇〇	六三〇	一三	一九	六	二五	四六、一七六	—	四六、一七六
合計				一、二五〇	一、二八五	二三	三五	一八	五三	九四、一五六	—	九四、一五六

大阪府立市岡高等女學校全景

同校長 井上一氏

大阪市の面積と人口（昭和二年四月現在）

區名	面積 方里	面積 方哩	面積 方粁	人口	密度（一方里當）
北區	〇、五六	三、三二	八、六〇	二〇〇、四七九	三五七、九九八
此花區	〇、六五	三、八六	一〇、〇〇	一五九、五四七	二四五、四五七
東區	〇、四三	二、五七	六、六六	一七二、四一一	四〇〇、九五六
西區	〇、二八	一、六五	四、二七	一三〇、一四六	四六四、八〇七
港區	一、一四	六、七九	一七、五九	二八一、六七八	二四七、〇八六
天王寺區	〇、二八	一、六五	四、二七	一一六、四二七	四一五、八一一
南區	〇、一九	一、一二	二、九〇	一二一、四〇六	六三八、九七九
浪速區	〇、二四	一、四四	三、七三	一四九、八九〇	六二四、五四二
西淀川區	一、一〇	六、五四	一六、九四	一二二、三三二	一一一、二一一
東淀川區	一、五九	九、四八	二四、五五	一四五、八一二	九一、七〇六
東成區	一、九三	一一、五	二九、七九	二三六、一三七	一二二、三五一
住吉區	二、二二	一三、二〇	三四、一九	一四〇、九〇七	六三、四七二
西成區	〇、四七	二、七八	七、二〇	一三七、六三二	二九二、八三四
合計	一一、七八	七〇、一五	一八一、六八	二、一一四、八〇四	一七九、五二五

帝塚山學院幼稚部（上）

▲帝塚山學院各部の創立

幼稚部　大正六年四月
小學部　大正六年四月
女學部　大正十五年三月

△設立者
山本藤助
山田市郎兵衛
八木與三郎
田附政治郎
山田市治郎

△現任理事
山本藤助
山田市郎兵衛
津田勝五郎
森下博
山田市治郎
久保田權四郎
矢邊清兵衛
蒲田政治郎
淺野勇

△校長
庄野貞一

帝塚山學院　小學部!!

◆幼稚部
編成　A、B二組、各三十五名
保姆　二名
入園考査　毎年　三月上旬

◆小學部
編成　A（男）　六學級
　　B（女）　六學級
定員　各學級　三十五名
教師　二十名
入學考査　毎年　三月上旬

◆女學部
編成　五ヶ年制、各學年二組
定員　各學級　四十名
　　（目下第三學年迄）
入學考査　毎年　二月下旬

帝塚山學院　高等女學部

校歌

庄野　貞一作歌
和田　光作曲

一、浪華の南ひとすぢに
連なる丘のこゝかしこ
みどりの森の影清く
自然の惠み豊かなる
野こそ吾等が庭なれや

二、見よ彼の森は顯家が
孤忠を誇る常葉木ぞ
見よ金剛の峰の色
青史に永く正成が
至誠を誌す不朽の字

三、明治大帝御野立の
ゆかりは深き帝塚山
松も老いたる住吉の
尊とやしろ絶ずみな
奇しき教を囀かん

四、斯て生立つ吾等こそ
こゝろと體に乾坤も
一擲すべき活力を
みなぎらしめて皇國に
盡さん時をのぞむなり

樟蔭女子専門學校

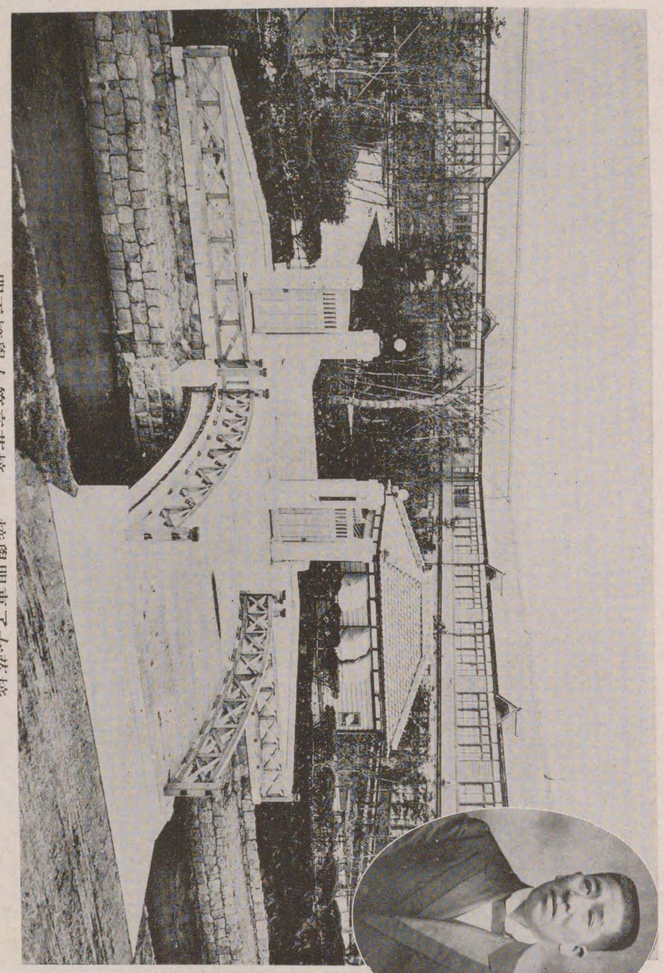
（大阪市外大軌沿線小阪）
（電話小阪十五番・百〇八番）

本校設立の目的　本校所屬財團は近時稀に見る篤志家森平藏氏の寄附行爲に依り成立したもので大正七年より樟蔭高等女學校を設立し本科の外專攻科及高等科が置かれてあつて既に多數　卒業生を出して居るが近時女子高等教育の進運は到底之れに滿足す可きで無いので大正十五年四月より遂に樟蔭女子專門學校の設立となつたのである。本校は專門學校令に依り高等の學術技藝を教授すると共に日本婦人固有の美質を益發達長養することを目的として居る。

本校の校地校舍及諸設備　本校所屬校地總面積は約壹萬五千坪で其上に建てられた校舍は目下新築中のものを加へると約三千六百坪（寄宿寮を除く）である。之れを普通女學校に比すると校地に於て約五倍を有し校舍に於ても校地及校舍が十分であるのである。

次に器具機械及圖書其他の諸設備に至ては豫てより十分に調ふては居たが女專の設立と同時に今や益完全を期しつゝあるのである。儀式大會合の爲めにする大講堂は勿論中に三百人を容れて靜肅を保ち得る大講義室、二百人のものが同時に讀書研究し得る圖書室、萬卷の書を藏する書庫、五十疊と二十四疊の大廣間の外に大小五室を有する日本式作法室、心地よき裝飾を施されたる三十五坪の西洋式習禮室、櫥造至便なる理化學實驗室、僅に三十分間に壹千人のものゝ愉快に食事し得る大食堂、設備の完備せる大運動場、數百種の花卉草木を有する大庭園、極めて住心地よき寄宿寮等何れも本校の誇とする所である。

教　員　本校は學識經驗の豊富なる教授を出來得る限り多く專任として懇切なる教授指導をなさしむるの外斯道專門の大家を嘱託として講義を依托する方針である。



門正校學女等高蔭樟——校學門專子女蔭樟
（坪百六千三物建　坪百五千四萬壹地校）

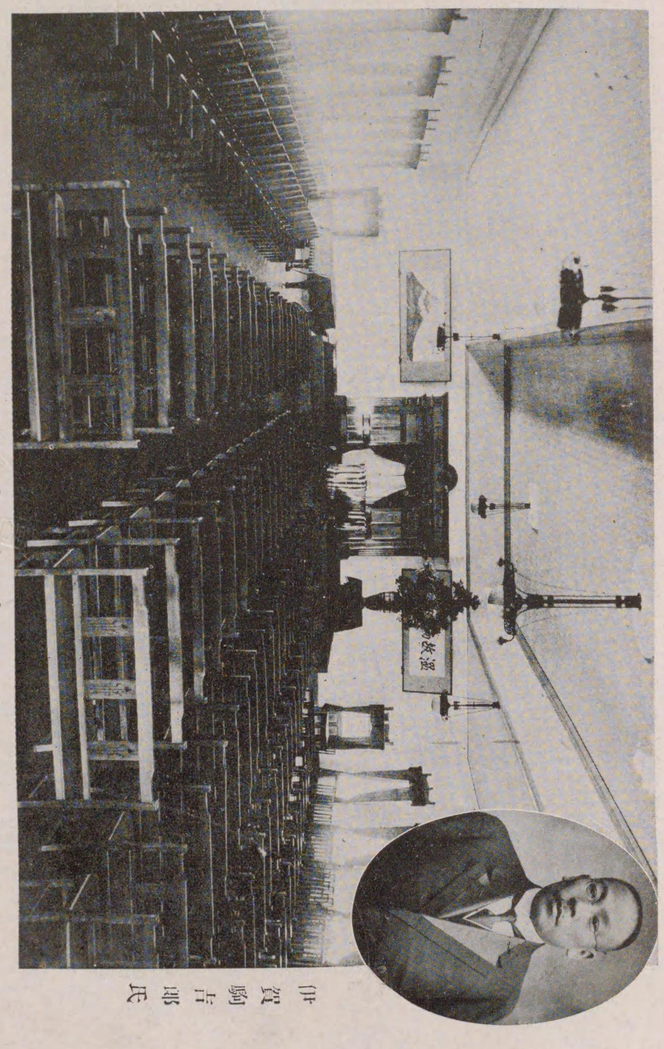
本校設立者　森平藏氏

私立 樟蔭高等女學校

設立の趣旨

本校は、大阪市西區北境川町森平藏の設立する所なり。

文運の進歩は、社會の事相をして益々複雜ならしめ、國家の發展は、國民の統一の彌々鞏固ならんことを要す。二者共に國民の教育程度の普遍的向上を要求するや切なり。幸に我國小學教育の普及は、之れを歐米各國に比して、遜色なきに近しと雖も、高等普通教育に於ては、未だ彼に及ばざること遠し。男子の爲めにする中學校や、女子の爲めにする高等女學校や之れを日清戰役以前に比すれば、寧ろ激增せりと云はれざるに非ずと雖も、社會實際の要求よりすれば、供給は需要の半にも足らず。可憐の少年少女が、或は中學校へ、或は女學校へ進んで入學を志願する者、年々歲々其數を增加せるにも拘らず、其目的を達するものは、二分の一若くは三分の一に過ぎず。我大阪に於ては、此需給の懸隔特に甚だしきものあり。之れが爲めに、彼等少年少女は、入學試驗準備てふ一種非教育的の教科を受けざる可からず。北米合衆國の某々州の如きは、小學の兒童は、教科書を自宅に持歸らしめざるを以て原則とするものあり是れ家庭に於て、父母が豫修復習を責めて、兒童の健全なる發達を害せんことを恐れてなりと聞く。必ずしも贊同す可からずと雖も、心身の發達未軟弱なる時代に於て過度の勉學に服せしむるの不可なるを示すものとすれば、吾人[に顧みざる可からず。然るに我國今日の實際は如何。例を近く我大阪にとるも、尋常小學六年生となれば一日五時間の正課教授の外、二三時間の入學試驗準備の教授を受けざるはなく、甚だしきは日曜、祭日を廢してまでも準備に熱中するもの少なからずと云ふ。熱中の度が、目的を達するの度と、大体上正比例する以上、準備教授の益々盛んならんとするものあるは、人情の弱點として、蓋、止むを得ざるなり此は啻に本人の不幸のみならず、國家の不利之れに過ぐるなし、此問題を解決する處に教育の理想は實現せらる、即ち本校設立趣旨の概念此處にあり。（本校設立趣旨書拔萃）



堂講大校本

伊賀駒吉郎氏

木杉理事
峰谷なを女史

部一の含校るため眺りよ池蓮内校本

本校幹事
朝田源造氏

竹下英一氏

部一の含校築新

本校理事
渕田玄亟氏

本校生徒通學のため監督教師附添別仕立の大軌電車運轉通學の實況

同電車内に於ける生徒の一團

本校内生徒救療室

大阪市公園兼運動場一覽

名稱	總坪數	創設費	施設
天王寺公園運動場	五、〇〇〇坪	二、〇〇〇円	競技場、テニスコート、各種運動機械
中之島公園運動場	六、七〇〇	三、〇〇〇	バレーボール、バスケットボール、コテニスコート、スケート
櫻宮公園運動場	五、〇〇〇	二、〇〇〇	各種運動機械 競走場、水泳場、テニスコート、各種運動機械
同　野球場	三、〇〇〇	六、〇〇〇	野球場、テニスコート
上六小公園兼運動場	一、五〇〇	一九、九〇〇	各種運動機械
福島公園兼運動場	九〇〇	四、〇〇〇	同
扇町公園運動場	三、〇〇〇	六、〇〇〇	競技場、テニスコート、各種運動機械
御藏跡小公園兼運動場	四一八	二八、七三八	各種運動機械
北野小公園兼運動場	四一九	二八、三六五	各種運動機械
西野田小公園兼運動場	三七八	二八、四五	同
阿波座小公園兼運動場	五一七	四五、三七	同
九條小公園兼運動場	一、〇〇六	一三、六〇	同
西九條小公園兼運動場	二、〇二一	一五、〇一九	テニスコート、各種運動機械
木津小公園兼運動場	七〇三	一二、二六九	競技場、各種運動機械
築港遊園	五、〇〇〇	六、一三八	テニスコート、各種運動機械

備考　公園兼運動場ハ土木部ノ所管ニ屬ス

金蘭會高等女學校概況

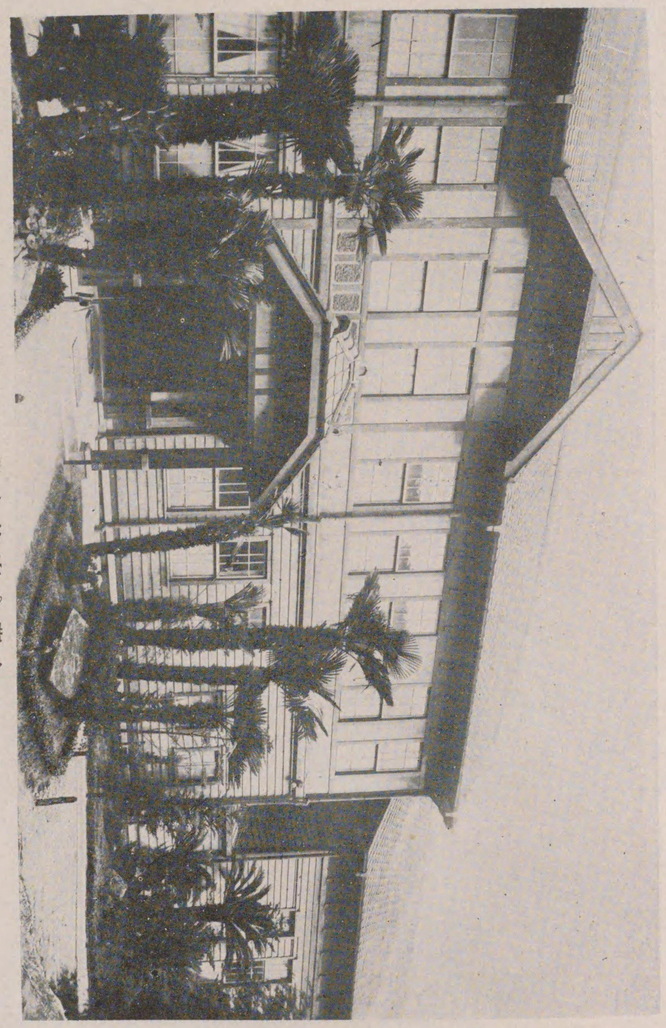
位置　市立西淀川區浦江町（市電淨正橋筋下車北へ入り、近江銀行支店角を左へつきあたり）
（電話土佐堀七五七番）

一、教育ノ方針、校風ノ特徴　本校は修業年限五ケ年の高等女學校で、高等女學校令に據り女子に須要なる高等普通教育を施すのは無論であるが、特に人格の薫陶に重きを置き、誠實の德勤儉の風を訓育の根抵として質實穩健よく本邦婦人の美德を保ちて而も日新の世運に順應すべき婦人を養成せんとすることがこの學校の教育の方針であり訓育の基調である。

二、役員職員　本校は財團法人で、九名の理事と十九名の商議員がその經營に參劃盡瘁し、現校長福島龜吉氏教頭川口德松氏以下男女の職員三十二名和氣藹然たる一大家族をなして協力一致樂んで教育に從事して居る、これがこの學校の一の特徴である。そして職員間のかゝる空氣が生徒の訓育に少なからぬ好影響を及ぼすものと信ぜられるのである。

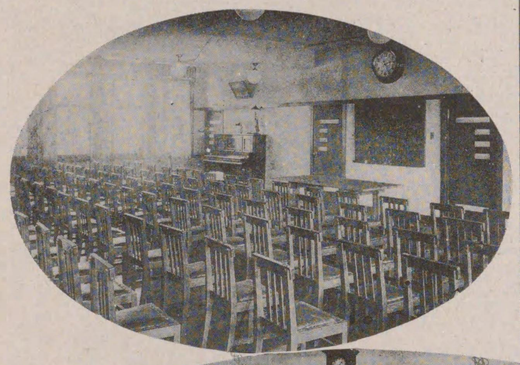
三、生徒、卒業生、芳友會　生徒の定員は一千名で年々約二百名を入學せしめる、卒業生は創設以來千八百餘名芳友會と稱する同窓會を組織して主として母校の援助に力めつゝある。

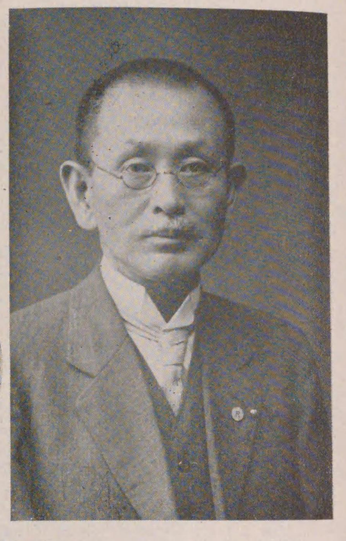
四、沿革略　明治三十八年四月金蘭會員が日露戰役の記念事業として何か社會に貢獻する所あらんとして一の女學校を創設したのが、この學校の濫觴であるその後會員や關係者の熱誠盡瘁によつて次第に發展して大正五年四月財團法人となり大正十四年創立二十周年に際し、從來金蘭會の經營であつたものを芳友會が引き受けて後援する樣になつたのである、凡そ女學校の同窓會が一の女學校を創始してかくまで成功して居るのは恐らくこの學校が嚆矢であり隨一であらう婦人の纖手がよくこの大事業を成し得たのは全くその熱誠と協力との結果であつて、この美しい歷史そのものが、この學校に學ぶ生徒に對する一の活教訓である。



金蘭會高等女學校正門

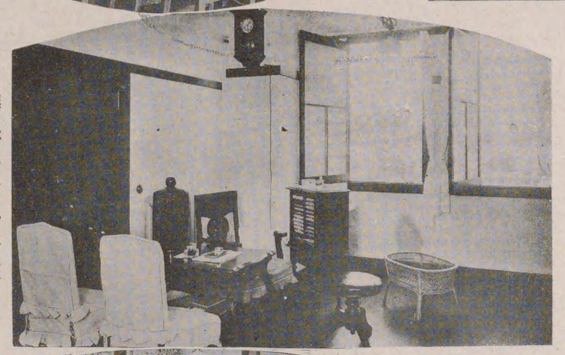
大阪ローマ字會館大講堂

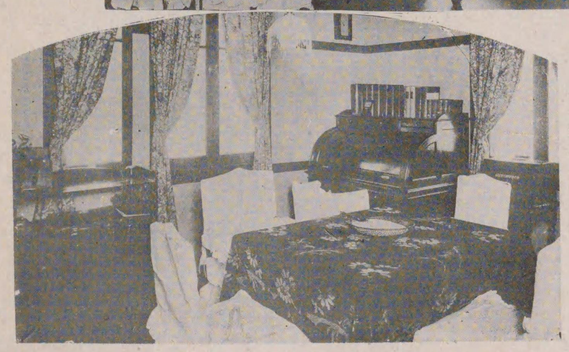




關西に於けるローマ字運動の重鎭櫻根醫學博士と帝國ローマ字クラブのローマ字綴一覽

櫻根博士事務室





ローマ字會館應接室

ローマ字綴一覽

(大文字)	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z
(小文字)	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z
(呼名)	ア	ベ	チエ	デ	エ	エフ	ゲ	ハ	イ	ヂエ	ケエ	エル	エム	エン	オ	ピ	キュ	アール	エス	テー	ウ	ヴ井	ウエイ	イツクス	ワイ	ゼツト

(標準語音綴方)

ア a	カ ka	ガ ga	サ sa	ザ za	タ ta	ダ da	ナ na	ハ ha	バ ba	パ pa	マ ma	ヤ ya	ラ ra	ワ wa	
イ i	キ ki	ギ gi	シ shi	ジ ji	チ chi	ヂ ji	ニ ni	ヒ hi	ビ bi	ピ pi	ミ mi	イ i	リ ri	ヰ i	
ウ u	ク ku	グ gu	ス su	ズ zu	ツ tsu	ヅ zu	ヌ nu	フ fu	ブ bu	プ pu	ム mu	ユ yu	ル ru	ウ u	
エ e	ケ ke	ゲ ge	セ se	ゼ ze	テ te	デ de	ネ ne	ヘ he	ベ be	ペ pe	メ me	エ e(ye)	レ re	ヱ e	
オ o	コ ko	ゴ go	ソ so	ゾ zo	ト to	ド do	ノ no	ホ ho	ボ bo	ポ po	モ mo	ヨ yo	ロ ro	ヲ o(wo)	
	キヤ kya	ギヤ gya	シヤ sha	ジヤ ja	チヤ cha	ヂヤ ja	ニヤ nya	ヒヤ hya	ビヤ bya	ピヤ pya	ミヤ mya		リヤ rya		
	キユ kyu	ギユ gyu	シユ shu	ジユ ju	チユ chu	ヂユ ju	ニユ nyu	ヒユ hou	ビユ byu	ピユ pyu	ミユ myu		リユ ryu		
	キヨ kyo	ギヨ gyo	シヨ sho	ジヨ jo	チヨ cho	ヂヨ jo	ニヨ nyo	ヒヨ hyo	ビヨ byo	ピヨ pyo	ミヨ myo		リヨ ryo		

アー a = aa　イー i = ii　ウー u = uu　エー e = ee　オー o = oo　クワ kwa　グワ gwa　ツア tsa　ツヲ tso　x = ks　q = kw

キミ ガ ヨ ワ チヨ ニ ヤチヨ ニ サザレ イシ
Kimi ga yo wa, chiyo ni yachiyo ni, sazare-ishi

ノ イワヲ ト ナリテ コケ ノ ムス マデ
no iwao to narite, koke no musu made.

ヘイタイ heitai	ウレシイ ureshi	チイサイ chiisai	イイワケ iiwake	ジユカン yukan	弘法大師 kobo-Daishi	相應ニ sooni	國家 kokka
學校 gakko	出版 shuppan	勝ツタ katta	服部 Hattori	コツトウヤ kottooya	タツシヤ tassha	トツサ tossa	パツチ patchi
イツチ itchi	マツチ matchi	備中 Bitchu	オトツツアン otottsan	オ松ツアン Omattsan	ゴツツオハン gottsohan	天氣 tenki	元氣 genki
グンカン gunkan	天然 tennen	天文 temmon	テンバツ tembatsu	天變 tempen	迎フ ou	思フ omou	迷フ mayou
吸フ suu	縫フ nuu	救フ sukuu	云フ iu				

原案 gen—an = gen'an	原因 gen—in = gen'in	肝油 kan—yu = kan'yu	ボンヤリ bon—yari = bon'yari
アツ ト サケンダ a' to sakenda.	キヤツ ト ナイタ kya' to naita.	ニユツ ト デテ キタ nyu' to dete kita.	

(外國語ノ綴方)

オール ライト ol rait (all right)	ステイシヨン steishon (station)	ブリツヂ bridji (bridge)	ランプ lamp	グラス glas	タイプライタ taipraita (typewriter)	
イキリス Igilis	フランス Frans	ドイツ Doits	アメリカ Amerika	オーストリヤ Oostria	アジヤ Ajia	

(アラビヤ數字)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

(Zaidan-hojin Teikoku-Romaji-Klab. Osaka Higashiku Kitahama IV 46, Denwa; Honkyoku 1914)
Osaka Omebashi, Watanabe Romaji Insatsusho, Insatsu.

大阪市濟美第三尋常小學校建築概要

位　置　大阪市北區南扇町十二十三番地

建築様式　近世式

敷地坪數　千五百二十二坪五六

建築面積　五百四十七坪〇八一五

總延坪　千八百九十坪一六四六

内譯

校舍　千百二十七坪六八九六

講堂　七百三十九坪四七五

東昇降口　十九坪

西昇降口　四坪

右内譯

地階延坪　二百六十六坪八九四一

第一階延坪　五百四十三坪〇二八五

第二階延坪　五百十三坪五八一五

第三階延坪　五百十三坪五八一五

屋階延坪　五十三坪〇七九

建物高　中校舍は校庭より屋階パラペット上端迄四十三尺五寸

講堂四十九尺塔屋最高部迄五十三尺五寸なり

構造及設備概要

講堂及東昇降口基礎を除き鐵骨鐵筋コンクリート造三階建他に一部地階及屋階共五階建の耐震構造とす。

各階天井高

地階十一尺、一階十四尺二階十三尺三階十三尺

屋階八尺五寸、講堂兼屋内体操場十九尺六寸なり

基礎

地階にある講堂は平均十七尺採鑿の上松末口五寸長二間丸太杭を二尺間に打込み硬質割栗石搗き固め鐵筋コンクリート層を造る亦校舍西側地階は平均十三尺採鑿三砂層に達せしめ硬質割栗石搗き固め鐵筋コンクリート層を造り其他平均五尺採鑿し前同樣とす。

壁体及床

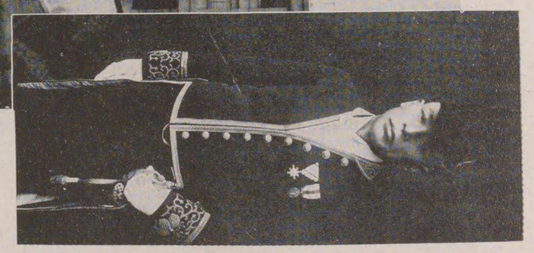
主として鐵筋コンクリートなるも一部分木造間仕切下地ラス張り壁なり各階床及屋根床は鐵筋コンクリート造とし全部小野田セメントを使用す。

床仕上面及屋根面

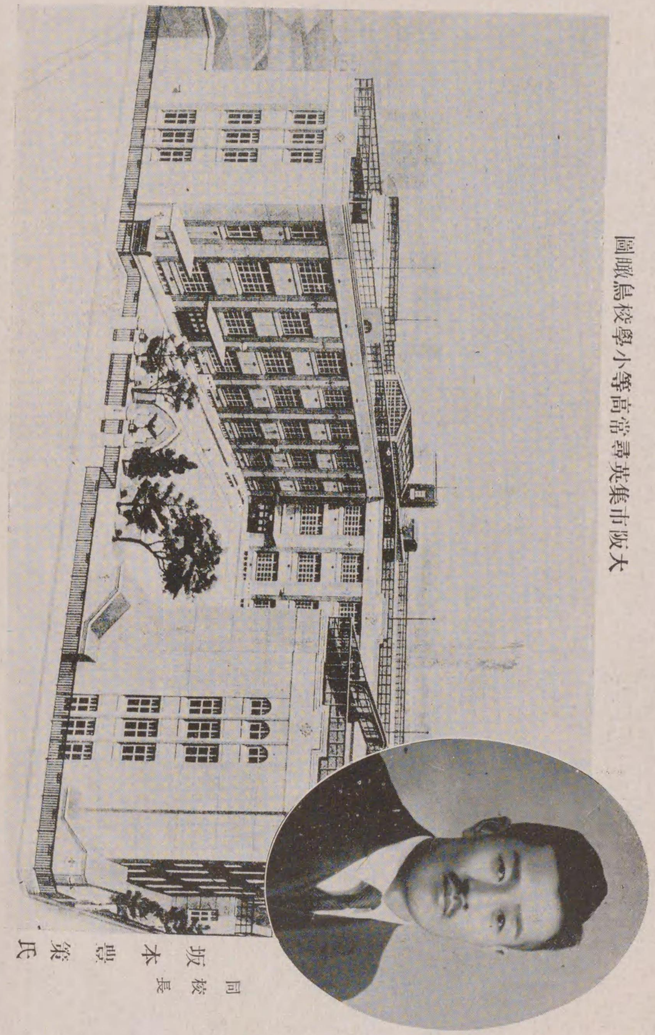
各玄關及便所床はタイル張各階廊下は練革床塗教室は板張一部リノリユーム敷とす。

屋根はコンクリートの上にSPC式防水層をなしシンダーコンクリート打の上モルタル塗仕上とす。（以下說明省略）

景全校舍小常尋三第美濟市阪大



校長正七位勳七等　若林常順氏



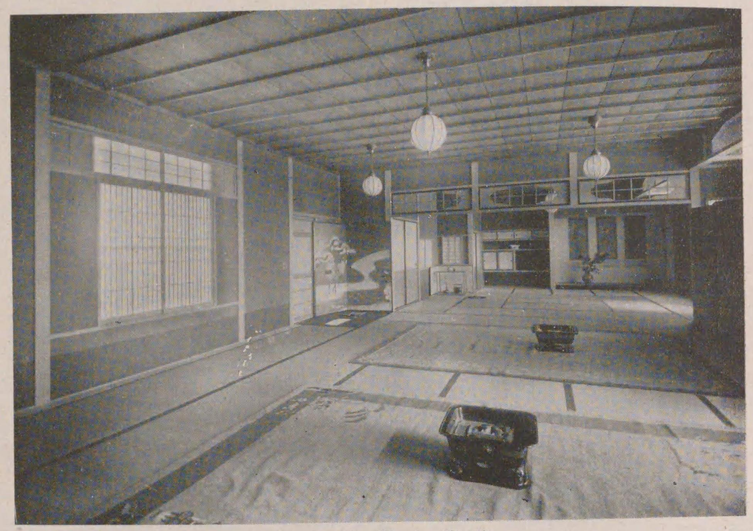
大阪市集尋常高等小學校圖

同校長 坂本豊策氏

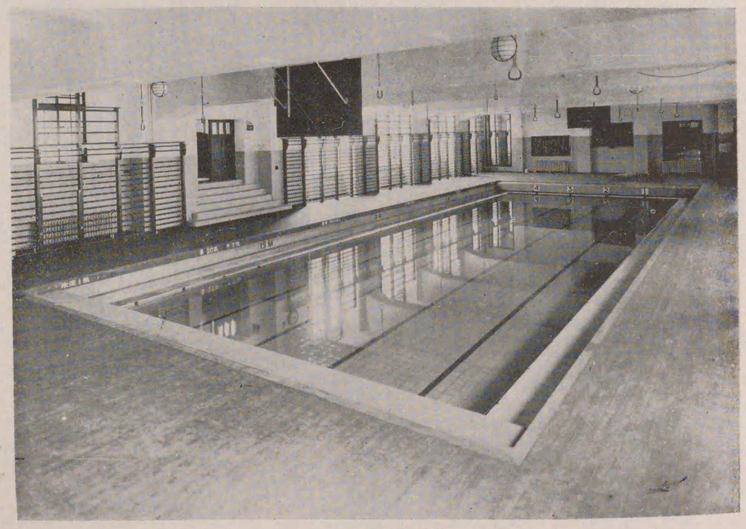
本校は明治六年五月創設にして、爾來幾多の變遷を重ね明治三十年七月に竣りし前校舍は當時今橋の御殿學校として人口に膾炙せられたる程のものなりしが時世の推移教育の進歩は設備の上にも一大革新を必要とするに至り、正十四年十二月七日の本區會は滿場一致を以て改築の議を決す即ち翌年七月工を起し一年有半を閲して此に漸く竣成を告ぐ蓋し本校沿革史上特筆すべきものなり

集英小學校講堂

同上正門



集英小學校和室



同上水永塲（プール）

建築概要

一、位　置　大阪市東區今橋一丁目四、五、六番地及北濱一丁目十七、二十一ノ二番地

二、校　地　敷地面積　八百六十六坪五合三勺

三、校　舍　建　坪　四百六十坪六合六勺
　　總延坪　壹千九百〇七坪三合七勺

四、運動場　總坪數　六百七拾坪
　　屋外　百九拾五坪八合　砂場　拾貳坪五合
　　屋内　百四拾壹坪七合　屋上　參百貳拾坪

五、建築樣式　近代式

六、工事費總額　百拾六萬八千參百九拾六圓〇四錢也（附帶工事費を含む）

七、工事工程
　　地鎭祭　大正十五年七月二十四日
　　工事着手　仝　年八月二日
　　竣工　昭和二年十月二日
　　施行延月數　拾五ケ月
　　從業者延人員　四萬貳千五百人

八、構造概要　耐震耐火鐵筋「コンクリート」造にして地階共四階建

（一）高　さ　地階より軒「パラペット上端」まで五十二尺寸五分、仝避雷針頂上まで八拾二尺

（二）基　礎　地下十七尺二寸掘鑿し砂利層に達せしめ硬質割栗石を搗き固め鐵筋「コンクリート」層を造る

（三）壁　体　外壁及内部耐震壁は鐵筋「コンクリート」造として其他の内部仕切は鐵骨「ラス」張をなし兩面より「コンクリート」塗とす。

（四）内外壁仕上　外部總体有色擬石塗にして一部分「中村式グラニツト」張を施す、内部各壁は大連「ドロマイト塗」にして講堂及集會所は「コルク入」とす、教室内部は水性「ペイン」塗仕上とし校長室、應接室、唱歌室及來賓室等は壁紙仕上とす。
　　各階腰は木造腰羽目付にして屋内運動場、一階廊下及各階段は腰羽目共大連「コルク入」「ドロマイト」研出仕上とし、玄關内部腰は中村式「グラニツト」張とす。

（五）床面及屋根面　床面及屋根面は左の七種とす。
　　(1)「タイル」張　表玄關、集會所、圖書室、濾水室
　　(2)「アスファルト」「コンクリート」塗　地階（手工教室を除く）一階廊下
　　(3)木造「デッキ」張　屋内運動場
　　(4)(5)木煉瓦敷　屋外運動場、「スロープ」階段
　　(6)「ロック」「アスファルト」敷　屋上運動場
　　(7)疊敷　作法室、裁縫教室、技藝裁縫教室
　　板敷並に一部人造研出仕上、其他

（六）天　井　地階及四階塔屋を除く外全部二重天井とし講堂集會所及唱歌教室等は音響防止のため特殊の塗工をす。

（七）外部出入口及窓　外壁出入口は「スチールドーア」とし磨き網入硝子を嵌む、窓は「スチール」「サツシュ」上下建にして上部廻轉欄間付厚硝子嵌とす。

（八）防水工事　地階總体、土付壁總体、一階玄關、使丁室、屋内運動場、屋外運動場周圍明り取り「エリヤ」蓋上部、「プール」の内外部、各階便所、淨化槽、並に屋上全部は「ラバロイド」及「アスファルト」五層敷とす。

市立學校幼稚園總覽（昭和二年四月現在）

區名	小學校 尋常	小學校 尋常高等	小學校 高等	小學校 計	幼稚園	補習學校	中等程度實業學校	其他
北區	四	一三	—	一七	五	一五	工業 一	高女 一
此花區	三	一三	—	一五	四	一六	商業 一	
東區	三	一四	—	一七	八	二〇	商業 一	
西區	—	一一	—	一一	一二	一六	女子職業 一	
港區	七	二〇	—	二七	一	一六	商業 一	
天王寺區	六	六	—	一二	—	五	工業 一	
南區	一一	—	二	一三	八	一四	商業 一	高商 一
浪速區	八	七	一	一六	四	一一	—	盲 一
西淀川區	一	一三	—	一四	二	一	—	勤勞 一
東淀川區	七	一〇	—	一八	—	三	—	
東成區	五	一五	—	二〇	一	六	—	勤勞 一
住吉區	九	一〇	—	一九	一	五	工業 一	聾啞 一
西成區	八	五	—	一三	一	二	—	
合計	七五	一三六	三	二一二	四六	一三四	一二	八

備考　勤勞學校中二校は六月一日、小學校より組織變更せしものなり。

景全校學小等高常尋吉日市阪大

同校長　川原喜作氏

青年訓練所

本市は大正十五年四月勅令第七十號青年訓練所令に依り青年の心身を鍛練し國民たるの資質を向上せしむる目的を以て百三箇所の市立青年訓練所を設置し同年七月一日より一齊に之を開所せり。本年度に於ける組數、生徒數、職員經費等左の如し。

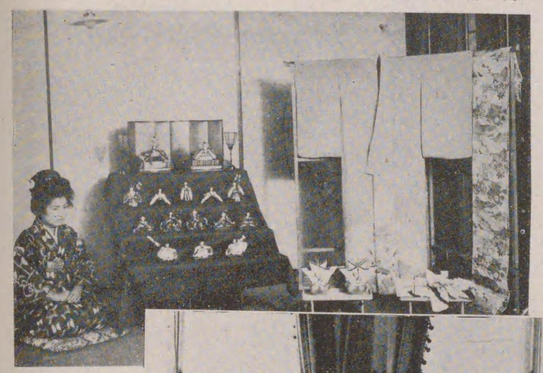
青年訓練所數組數及生徒數（昭和二年七月末現在）

區名	訓練所數	組數	生徒數 第一年次	生徒數 第二年次	生徒數 第三年次	生徒數 第四年次	生徒數 計
北區	三	三三	三〇一	三四九	三七一	三六三	一、三八四
此花區	七	二二	一七三	二六二	二六七	二七一	九七三
東區	一一	四三	四三二	四六一	四二六	四四七	一、七六六
西區	一〇	二八	二三一	三〇九	三二九	三三六	一、二〇五
港區	八	一七	一八〇	一六二	一八八	二二六	七五六
天王寺區	五	一四	一二七	一二三	一一七	一二一	四八八
南區	九	二三	一六九	二二三	二四一	二三三	八七一
浪速區	八	二二	一七八	二六六	一四七	一〇八	八九九
西淀川區	五	九	九三	八五	八一	九七	三五六
東淀川區	六	一四	一一九	一三〇	九八	一一二	四五九
東成區	一四	三八	四四七	五八八	五三〇	四四五	二、〇一〇
住吉區	六	一七	二〇一	二二九	二一二	一九三	八三五
西成區	四	九	六九	七四	九〇	九〇	三二三
計	一〇五	二八九	二、七二〇	三、二六一	三、二〇一	三、一四一	一二、三二四

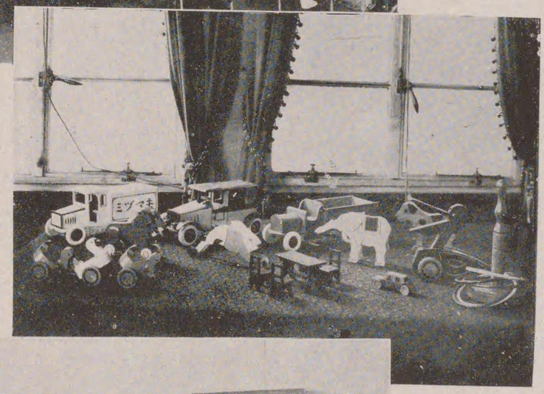
青年訓練所（集英小學校）

大阪市立豐崎勤勞學校設立趣旨

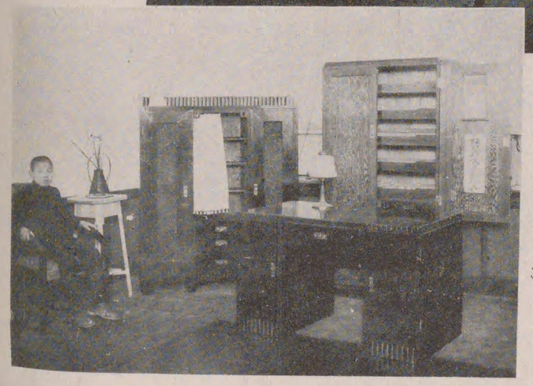
本校は曩に　天皇陛下御成婚の御慶事に際し長くも兒童就學の事に關し優渥なる恩命を下し賜ひたる御趣旨を奉戴し大阪市は就學に困難なる事情にある兒童に對し教育施設の改善と擴張を行ふべき計畫を立てられ市會の決議を經て御成婚記念事業の一として本市北部の密集地帶に設立せられしもの即ち是れなり爲めに本校は敢て小學校の規範に則らず特に運用自在なる小學校類似のものとして學用品被服を給與するのみならず生活の程度によりては食事及生活費の一部をも補給して就學を一層容易ならしめ普通教育を施すと共に重きを職業指導に置き各種職業に從事する者に必須なる智識技能を授け特に德性の涵養には最も意を用ひ實生活に適切なる教育を爲すを以て本旨とす修業年限は六ケ年とし更に一ケ年の補習科を置き定員は凡そ三百名とす



勤勞學校生徒作品（其一）



同　上（其二）



同　上（其三）

同校長　澤藤衛吉氏

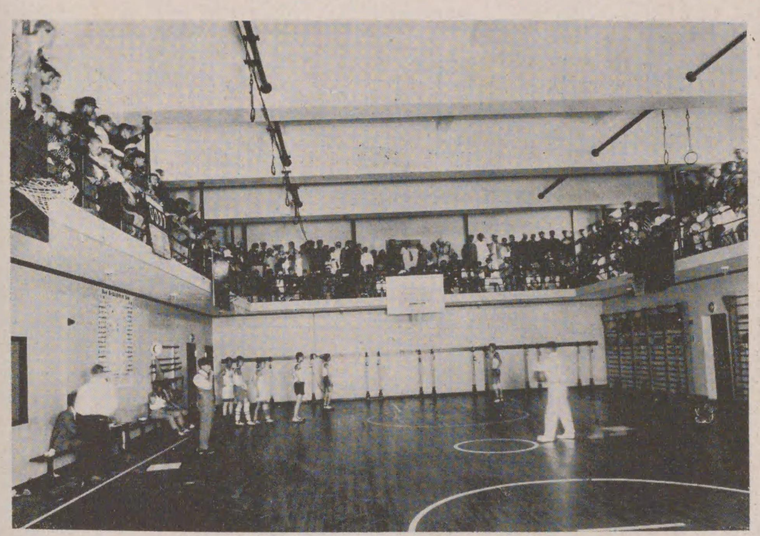
大阪市立豐崎勤勞學校正門

兒童の概況

本校兒童生徒を概觀するに身体の發育狀況は標準以下に位するもの多數を占め營養不良と認むべきもの約一割を算し傳染性眼疾及近視眼の數特に著しきを覺ゆ、此等の原因と認むべきものは住居の不完全より來る採光通風の不充分睡眠不足家庭及環境に於ける衛生思想欲如等其主なるものならんと思はる。

精神的方面は特殊のものを除くの外普通の能力を有すれども保護者の日常生活は兒童發育を顧みるの餘裕なく加ふるに不完全なる住居と不規則放縱なる環境とは之れに禍して努力向上の精神を缺き貯蓄思想に乏しく浪費懶惰の惡癖尠からざるを認む而しながら一面其長所と認むべきものは身体的には純自然の生活を營む機會多き結果として現代文化の癰したる疾病恐怖の通弊少なく抗病力強し精神的には彼等社會に於ける一面の美點たる相助心に富み簡易なる生活に馴らされたる結果は質實開放の氣分漲り純性にして恬澹物にこだはる事尠なきを特長とす。

本校はこの長所の啓培によつて短所の矯正に努めんため極力意をこゝに用ひつゝあり幸ひに在校者は漸次良風に馴れ涙ぐましきまでの進展を示し將來大に期する所あらんとするものあるに至れり。



大阪基督教青年會館内ジムナジヤム

本會の事業

宗教部
　說教會、懇談會、研究會、出張講演、
　身上相談、教役者會、修養會、日曜講座、
　聖書神學講座、聖書研究會、茶話會、
　宗教思想講演會、文藝同好會、基督教教育者會、
　童話倶樂部、社會事業協會、信和會、

學校部
　英語學校　高等科（二年）本科（二年）豫科（二年）會話專修科
　理科學院　中等科（三年）獨逸語科（一年二年研究科）
　　佛蘭語科（一年二年研究科）
　高等豫備校關西商工豫備校

本會の役員及員職員

理事　星野行則　總主事　三浦懿美
〃　善積武太郎　名譽主事　コンバース
〃　高木貞衛　〃　スワン
〃　高柳松一郎　〃　ライアン
〃　中村美登志　主事　宗教部　石田次郎
〃　松村敏夫　〃　學校部　山縣辰藏
〃　松井小一郎　〃　社交部　奈良傳
〃　小泉澄　〃　體育部　竹内傳一
〃　江藤榮吉郎　副主事　社會部　小倉源二
〃　里見純吉　書記　學校部　中村久男
〃　櫻根孝之進　〃　會員部　井口保男
〃　佐藤一造　〃　體育部　松葉德三郎
監事　船橋福松　〃　庶務　蓬田德治
〃　幸川源十　〃　庶務　福田愼一
〃　小橋寅之助　會計　松本喜一
名譽理事　宮川經輝　技術員會館係　井上太治郎
〃　名出保太郎　〃　機關係　泉重太郎
〃　〃　學校部　島田平一

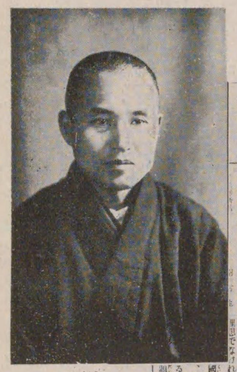
社交部
　音樂　音樂會、聲樂練習、聖歌團、
　ゲーム　ブラスバンド、ビリアード、ピンポン、
　　碁、將棋、圍球盤、等
　クラブ　サンデイクラブ、Yクラブ、タイガークラブ、
　　カメラ同好クラブ、映畫同好クラブ、英語社交會
　　キヤムプクラブ、寄宿舍會、

同上　社交室

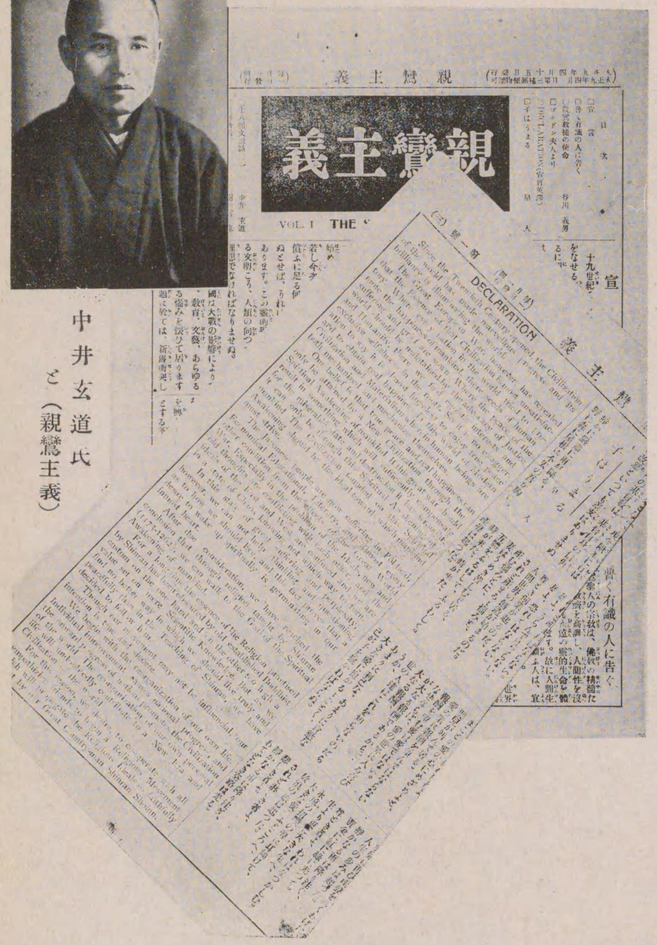
大阪基督教青年會館の全景

本會の本領

大阪基督教青年會は過去四十年このかた大阪にある青年の　精神、智能、身體及社交の改善及び發達の爲めに、基督教主義による健全な指導と總ゆる便宜とを與ふる奉仕機關であつたが會勢の建設により愈々各種の設備を完備し、内容の充實を圖り、更に一層力を竭して其本領の發揮の爲に活躍せん事を期するものである。



中井玄道氏
と（親鸞主義）



A Pilgrim to the West.

Here is a man who intends to travel many thousand miles to the West. In a few days, he finds himself in a desert, where none but robbers and wild beasts dwell. Seeing the traveller isalone, robbers and beasts rush towards him striving with each other to kill him. To escape the danger, he hurries on his Westward way. Unexpectedly, he is confronted by two different Rivers; that on the South being of Fire and that on the North Water. Both rivers are a hundred paces wide and bottomless, extending to North and South without limit. A Narrow Path, however, exists between the Fire and Water, so narrow that it is only four or five inches wide, but from its Eastern to the Western end, it is a hundred paces long. The water saturates the path with its waves, whilst the fire burns it with its flame. Thus the fire and water are endlessly mingled upon this Narrow Way.

On viewing the terrible scene, the Pilgrim said to himself: "The river has no limit either North or South; the path in its midst is extremely narrow; although the distance to the opposite shore is short, how can I go forward? I doubt not but I should die this day. If I go back, robbers would attack me. If I run away northward or southward along the river, the wild beasts and poisonous serpents would harm me. If I go westward, I should undoubtedly fall either into the River of Fire or of Water." At this moment, his terror is so overwhelming that no words describe it. Then he bethinks himself; "If there is only death before me whether I go back or stop here, I had best go forward along the Narrow Path, as that road already exists, to cross the river cannot be impossible." Whilst he thus resolves, he hears a voice of encouragement; "Go on resolutely straight forward along the Narrow Path. Then you will escape from death. If you stay there, you will escape from death. If you stay there, you will surely die." Again he hears a call from One who appears on the Western bank: "Come to Me without hesitation, for I will protect you. You need not be afraid of falling into the River of Fire or of Water."

Hearing the encouraging voice and the Fatherly summons, the Pilgrim resolves to go straight forward along that Narrow Path. When he has gone a step or two, the robbers behind him on the eastern bank cry out: "Come back, Sir! The road is narrow and dangerous. If you go further, you will surely die. We will not harm you!" Although he hears them, he does not look back but goes straight onward with single mind, and very soon finds himself on the Western bank, freed for ever from all dangers, and enjoying himself with his good friends.

The allegory mentioned above was composed by the Chinese monk Zendo in the 7th century.

Zendo was the fifth of the Seven Patriarchs whom Shinran regarded as the predecessors of his own teaching. It is quite certain that Zendo's teaching was embodied in and enriched that of Shinran. This Allegory was especially prized by Shinran as a description of his own spiritual life. He thought that the lonely Pilgrim walking on the Narrow Path was none other but himself.

The chief points in this Allegory are the Rivers of Fire and Water, and the Narrow Path. In the first place, the River of Fire typifies Anger. As fire is most destructive and burns up all before it, so does Anger injure both oneself and others. The River of Water typifies Avarice. When water saturates a thing, it moulders and corruption follows. So when man is in a favourable condition, the passion of Avarice is quickened and he yearns after his lusts and defiles his own soul. Thus man's soul, ever suffering from some strong parsion whether of Anger or Avarice, is gradually destroyed, decays and rots. Yet the majority of people lead their insignificant life not recognizing this fact and indulge in every sensual pleasure.

But it they embrace some religious ideal and endeavour to walk straight toward it, they will surely experience that the passions of Anger and Avarice obstruct their way, just as our Pilgrim to the West is confronted by the Rivers of Fire and Water. But fortunately, between the Fire and Water there lies a Narrow Path which in contrast to the crimson Fire and blue Water, Zendo calls "a White Road." This White Road typifies the Great Saving Power of Amitabha. Thus "to walk on the White Road" means to rely upon that Power, or in other words is what we call "Faith."

This Faith can only be gained by following the good guidance of Sakyamuni who once appeared upon earth and obeying the divine will of Amitabha in the Pure Land. There are, however, so many different doctrines preached by various teachers, so many metaphysical painciples taught by various philosophers, and so many superstitions prevailing among ignorant folks, which confuse the mind to lead one astray from the Right Path. Tne man of Right Faight, however, is not to be befooled by such temptations: he relies upon Amitābha as his only spiritual Father, and accepts the guidance of Sākyamuni with regard to the doctrines, whether religious or ethical.

The Pilgrim walking trustfully on the White Road,—how narrow but so solid!—is a perfect symbol of the life of a soul who firmly trusts in Amitabha and His Great Saving Power.

宣言

十九世紀このかた目醒ましき發達をなせる文明は、その光彩の燦爛たるに似ず、其内實の空虚なることは、はしなくも今次の大戰によりて暴露されました。世界各國が相互に人類の幸福を增進せんとする處に、却つて人類の慘禍を招致すべき因を藏し、正義人道の主張を以て世界の平和を確保せんとする處に、早くも主我的利己的の主張が頭を擡げ來るではありませぬか。眞の平和、眞の幸福は、世界を物質化し人間を機械視する近代文明の世界では、到底之れを望む事は出來ませぬ。眞の平和と幸福は、世界の人類が靈的に覺醒して新しき文明を造ることによりて、始めて達成せられるのであります。若し今次の大戰が其未曾有の慘害を償ふに足る何物かを齎らさねばならぬとせばそれは人類の靈的覺醒でありま す。この靈的覺醒を基調とする文明こそ、人類の向つて進むべき理想でなければなりませぬ。

今や、我國は大戰の影響によりて、政治、經濟、教育、文藝、あらゆる方面に大なる惱みを懷ひて居ります。殊に思想問題に於ては新舊衝突し東西混亂して、殆んど其歸趣を知らぬ狀態に在ります。私共がこの惱みと迷路の上に立ちて、如何に生くべきかを考へずに居られぬのは、これ即ち靈的に覺醒せんとする慾求が內に崩して居るからではありますまいか。

私共は茲に親鸞聖人の宗教を提げ來つて、靈的覺醒の道を辿らうと思ひます。由來親鸞聖人の宗教は內、佛教界の因襲と、外、化學的智識の眩惑とによりて、其眞意義が藏はれて居たのであります。私共は聖人の宗教を捨て、他に眞に生くべき道を見出すことが出來ませぬから、世の人々と共にこの唯一の道を辿らうと覺悟しました。

私共の運動は元よりさゝやかなものではありますが、先づ私共自身の生活を改造することから始めたいと思ひます。個人の向上は國家の進展であり、國家の進展は世界文明の發達であるから、私共の生活の改造は、やがて我國民生活の改造と、世界文明の更新に貢獻する處あるべきを疑ひませぬ。これ私共志を同ふするものが、親鸞主義普及會を興して、新しき宗教運動を初めんとする所以であります。

親鸞主義普及會

發起者（イロハ順）

文學士　千輪　清海
マスターオブアーツ　谷川　義男
中井　玄道
文學士　上山　善治
工學士　松村　諦成
足利　浮圖
文學士故木部崎了道

普く有識の人に告ぐ

一親鸞聖人の宗教は、佛教の精髓たる如來の救濟を高調し、人間性を沒せずして而かも永遠の靈的生命を體得することを教へます。故に人間生活と宗教生活の一致を願ふ人は、宜しく親鸞主義を奉じなさい。

一親鸞聖人の宗教は、人間及世界の眞實なる價値を肯定し人生の眞意義を明にします。故にあらゆる人生問題を解決し、煩悶の生活を脫却せんとする人は、宜しく親鸞主義を奉じなさい。

一親鸞聖人の宗教は、貧富貴賤、智愚善惡、男女老少を論ぜず、一切の人類は如來の前に平等なることを主張します。故に人類相互の眞實の親和と、共同の幸福を將來すべき、四海同胞の理想を實現せんとする人は、宜しく親鸞主義を奉じなさい。

一親鸞聖人の宗教は、智識を沮害し、道德に背反し、教育の精神に副はざる一切の迷信を排斥します。故に迷信の害毒より自己及社會を救はんと欲する人は、宜しく親鸞主義を奉じなさい。

一親鸞聖人の宗教は、國神に對する宗教的崇拜を誡め、却つて其道德的尊敬の忽にすべからざることを教へます。故に敬神崇祖の國民性を醇化し、國家的觀念を鞏固にせんと志す人は宜しく親鸞主義を奉じなさい。

大正八年五月

親鸞主義普及會

規定

一會員及會費　本會の趣意に賛成する人を會員とします　會員は每月金拾錢を醵出し、本會の經費にあてます。

一研究會　每月壹回、第二日曜日午後七時、研究會を開きます。　會場は、當分市內西區信濃橋西辻北入光圓寺に定めます。

一講演會　隨時講演會を開きて親鸞主義を鼓吹します。

一文書發行　親鸞主義の文書を隨時發行します。

一外國文著述　歐米の學術雜誌に寄稿します。　親鸞主義の論文を外國文にして記述し、

一事務所　本會の事務は、大阪市外天下茶屋天神通四丁目上山善治方に於て取扱ひますから、一切の通信はそこに宛てゝ下さい。

「羊の歩み」著者　マスター　オブ　アーツ

谷川義男氏

社會改造と親鸞主義

歐州戰亂の影響を受けて吾國民は漁夫の利を得未曾有の好景氣に浮かれて奢侈遊惰の惡風に襲はれ、不意に巨萬の富を得たる所謂成金なる者贅澤を極め淫樂を事とし世人亦之を見て羨望の念を起して徒らに一攫千金を夢み眞面目なる努力を厭ふが如き恐るべき惡風潮が吾國社會の全般に漲りつゝある事は誠に寒心の至りであるが彼等の榮華も最近の經濟界の變動に依りてあたら一場の夢と化し去つたのは寧ろ痛快である、嘗ては輸出超過に次ぐに輸出超過を以てしさしもに隆昌を極めた吾國の海外貿易も最近に到りては輸入超過に變じ綿絲にあれ雜貨品にあれ其他凡ての商品は暴落亦暴落殆んど底止する所を知らざる狀態となり昨日の成金も今日は整理に全家財を投げ出しても尙足らざる苦境に陷り經濟界は日々惡化し人心の動搖亦甚しからんとする有樣である。此時に當り、社會改造の聲は到る處に叫び出されて來た。然れ共其の多くは唯物的理論に偏して居るから社會改造と云ふ大なる目的を達するには餘りに力が薄弱である。社會改造の運動は唯物的理論では決して成功する物ではない。其の運動は人間の本能や衝動の唯物的方面丈を利用して生命の本性に社會改造の原理を認めないから常に失敗に終るのは止むを得ぬ。社會主義者は心の改造を無視して居る。社會改造は人間が眞に人間として目覺め其の生命本流の衝動に活きる事に依りて其目的を達し得られるのである。而してかゝる根本的解決はどうしても宗教の力に待たなければならぬ。眞の力は宗教的でなければ起り得ないものである。親鸞聖人が山の宗教、聖者の宗教智者の宗教殿堂の宗教であつた在來の佛教を町の宗教凡夫の宗教愚者の宗教、社會の宗教、家庭の宗教たら

しめられた事は實に宗教運動と社會運動とを一致せしめ、此處に人間の社會的新生活を導き出したものであつて誠に偉大なる社會改造の根底に觸れたものと云はなければならぬ。然るに今日親鸞聖人の末流が靈と肉とを分離して人間を片輪になし社會改造の方針を忘れたる信抑の宣傳に沒頭して、形式化じ貴族化し再び元の殿堂の宗教に還へれるが如き觀あるは甚だ遺憾の至りである。吾等はかゝる誤れる外形を取り除いて親鸞聖人の眞生命に觸れ共に如來大悲の佛心を体現せなければならぬ。世人の多くは財產を得て安心を得んとし亦地位を得て安心せんとし亦名譽を勝ち得て以て心の平和を得んとし、日々齷齪として生活してゐるが如何に多く財產を得ても何程高き地位や名譽を得ても之れで心の平和を得る事は到底出來るものでない。多く財產を得れば得る程亦高く地位が昇れば上る程一層不滿足を感じて飽く事を知らないのが吾人の心である。かくの如くして安神の得られない處に心の動搖が有り又悲觀がある。如何なる苦境に處するも亦如何なる事變に出遇ふ共決して破れない安心が現代の如き社會に處して行くには是非なくてはならぬ所である。斯る安神は如何なる方法に依りて得らるゝかと云へば吾人は親鸞主義が之れに對する唯一の途であると信ずるのである、詩人シルレルは歌つて居る。

汝は死を恐るゝか
波は永遠に生きんと願ふか
さらば宇宙と共に生きよ
汝が宇宙に存する限りは
永久亡ぶことなし

所謂宇宙とは如來である。吾等が大悲の願心に接し、我等が己に如來に依りて救濟されてある事を自覺する時（此自覺は勿論如來の起さしめたまふ處であるが）我等は眞實の生命を得誠の安神を得るのである。此まことの安神を得て此世に處するならば苦樂共に吾人の精神を惱すに足らぬ、吾人は優遊自適して人生を樂み得るのである。「涅槃經」に救はれたる阿闍世が自己の法悅を述べて「我今未だ死せずして己に天身を得たり短命を捨てゝ長命を得たり、無常の身を捨てゝ常身を得たり」といひ、亦親鸞聖人が、「教行信證」に「慶ばしい哉、心を弘誓の佛地に、樹て念を難思の法海に流す深く如來の衿哀を知り良に師教の恩厚を仰ぐ慶喜いよ〳〵至り至孝いよ〳〵重し」と述べられたのは、個中の消息を語るものである。

大阪北濱松岡病院全景

SPECILAL HOSPITAL FOR ORTHOPEDIC
AND SURGICAL DISEASES,
DIRECTOR : DR. M. MATSUOKA.

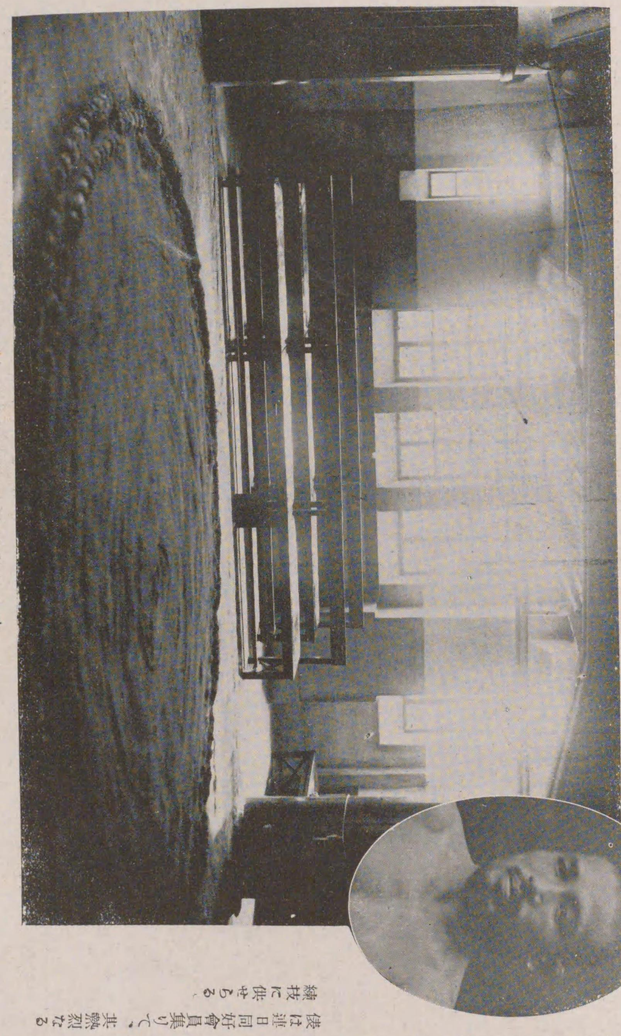
醫學博士 松岡道治

畸形矯正科
傷害外科
小兒外科
外科一般
レントゲン科

松岡病院

大阪北濱三丁目停留所前
電話本局（二一八二）（長二一八三）

小兒痲痺症
骨折・疲行症
傷害・畸形・脱腸（ハルニヤ）
骨及關節の疾患



大阪大學附屬病院桃島

右上の寫眞は眞寫の上に階段あるを大正天

兵庫太藤地濱繩樋超界角阪大は眞寫の上右

關西に於ける素人角の重鎮にして又我大大森林界に其ありと讃へらる、濱地病院長、大阪桃島病院長濱地藤太郎氏の偉大な體軀と眞摯である、此上

繩樋に供せらる、

使は從日同好會員集りて、其熱烈なる

株式會社
大阪鐵工所

沿　革　當社は株式會社大阪鐵工所の名稱の下に大正三年三月資本金六百萬圓を以て創立せられ當時に至る迄範多龍太郎氏が三十四箇年の長年月に亘り獨力經營せし造船鐵工の業務一切を繼承して營業を開始せしものにして其後大正五年に至り資本金を壹千貳百萬圓に增資し以て現在に及べり。

範多氏經營時代　前經營者範多龍太郎氏が當初大阪安治川北通四丁目の地に新たに造船鐵工の業を開きしは明治十四年四月の事にして續いて十七年同工場内に假設船渠を開鑿し二十一年之を石造に改造せり、同二十二年に至り安治川南岸木屋町に木船工場を分立し其後工場設備の改增を行ひ。

櫻島工場　（明治三十三年）三十三年に至りては新たに櫻島町七番地に二萬餘坪の地を選び新工場を設け專ら鋼鐵船の建造に充つると共に一方從來の安治川工場は主として造機と修繕に當らしめ尚ほ新に鐵管鑄造工場を設くるに至れり、又重ねて此年臺灣基隆に分工場を設け船舶の新造、修繕並に諸般の鐵工業を營むことゝせり、明治三十八年大阪市が其築港工事を收むるや其天保町の工場を繼承し其船渠二個を改造し、此處に於て櫻島、安治川、天保山の三工場は夫々造船、造機、修繕と分業的に鼎立し設備の改增と相俟ちて面目を一新するに至れり。

因島土生工場　（明治四十四年）更に四十四年七月廣島縣御調郡土生村在因島船渠株式會社經營の船渠三個其他の設備一切を買收し之に改修增補を加ふる所あり更に翌年鑄管工場を獨立せしめて兵庫縣川邊郡尼ヶ崎町に移し斯くして株式會社大阪鐵工所に繼承の當時は前記五工場と六船渠を有するに至れり。

當社經營時代　當社に繼承せらるゝや先づ主力を櫻島及因島兩工場に集中する計畫の下に大正五年尼ヶ崎鑄管工場を關西鐵工株式會社に讓渡し基隆工場の閉鎖を斷行すると共に櫻島工場の隣接地四萬二千餘坪を買收し折柄工事中の大船渠同四年完成すると時を同ふして安治川工場の設備を移轉し更に增設を加へ大正六年之が完成と同時に安治川工場を閉鎖せり、又因島工場に增設中の一萬噸級造船臺三臺其他の設備も漸次完成し次で

因島三之庄工場　（大正八年）八年因島工場に隣接せる備後船渠株式會社の設備一切を買收して因島工場の一部に加へ益々整備に力を竭し、此處に於て諸般の擴張設備完成し造船能力二十萬噸を有する世界有數の造船工場たるに至れり。

築港工場　（大正九年）更に進んで大正九年十二月原田造船所築港工場を讓受け當社築港工場となし翌年末より天保山工場の設備を當工場に移し益々完備に努め移轉なると共に天保山工場を閉鎖せり。

彦島及笠戶工場　（大正十三年）越へて十三年彦島船渠株式會社の設備を買收して彦島工場に改め、同年笠戶島船渠株式會社の經營を引受けて笠戶島工場となし此處に於て櫻島、因島の兩工場は鑑船の新造、修繕、諸機械の製作に當り他の築港、彦島、笠戶島の三工場は專ら修繕のみに當らしむるに至れり

此間海運界の沈衰其極に達し當事業も非常なる悲大に會せし事一再ならず、而も其苦心經營よく其難局に堪へたるのみならず一意專心研究を重ね多大の犧牲を拂ひ當時何人も難しとせし捕鯨船を新作し浚渫船を完成し更に進んではトロール船を竣工せしめたる如き常に國家的見地に立ち其貢獻せし所鮮しとせず、更に日清日露の兩戰役に際しては全工場を擧げて艦船の建造、修繕、軍器の製造に當り聊か國恩の萬分ノ一に報ずるを得たるは光榮たるのみならず又深く欣幸とする所なり。

斯くて當社は創業以來年を閱すること四十有五年其船舶の建造噸數五十五萬餘噸に及び其他の汽機、汽罐、諸機械の製作に至りては枚擧に遑あらず今や斯くの如き古き歷史を繼き其間に獲たる經驗習熟せる技術に最新の設備と智識を併せ不斷の努力を致し以て益々優秀なる製品を提供せんことを期しつゝあり。

會社現況

事務所及工場

當社は本社を大阪に出張所を東京及神戸に置きて營業上の事務一般を司れり、大阪市二工場、廣島縣下一工場、山口縣下二工場に於て船舶諸機械の新造及修繕の工事に從事せり、而して本社及東京出張所は共に主として艦船の新造諸機械の製作に關する事務に當り神戸出張所は專ら艦船の修繕の事務を司れり

尙ほ設計部は當社櫻島工場内に事務所を有し、船体、機關、及び車梁の三課夫々事務を分擔して萬遺憾なきを期せり。

會社役員

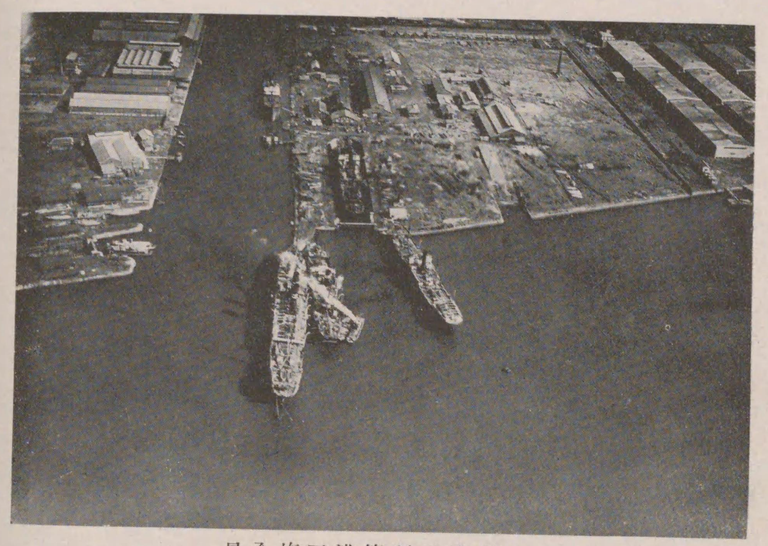
取締役會々長	專務取役役	松村秀司
取締役金支配人		幡島清吉
取締役		高木嘉八郎
取締役		阿部六一
監査役		原田武太郎
監査役		中橋順
相談役		山岡

資本金、積立金、所有船舶

資本金		二、〇〇〇、〇〇〇圓
拂込濟		一〇、五〇〇、〇〇〇圓
積立金		七、二八八、九〇四圓
運用船舶	六隻	四二、六二五噸（重量噸）
工場用船舶（曳船、小蒸汽船、モーターボート）	二七隻	多數
其他給水船、土運船、渡船、等		

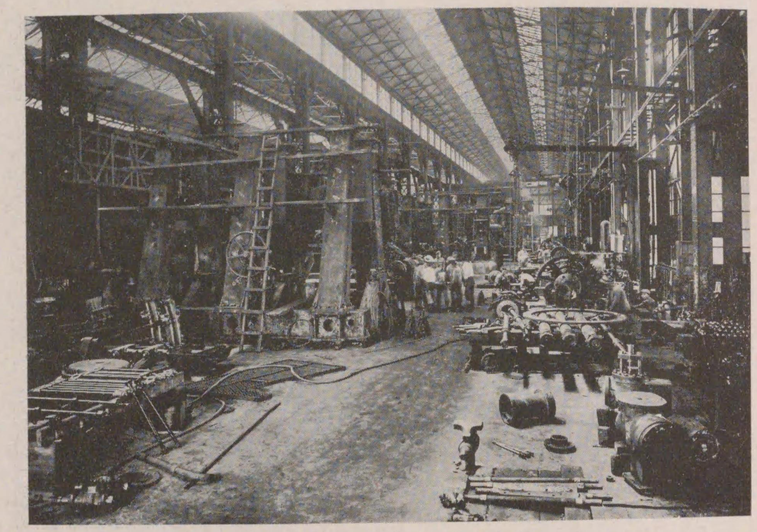
最大製造能力（一ケ年）

艦船		二〇〇、〇〇〇噸（重量噸）
造機		一五〇、〇〇〇馬力
橋梁並に鐵構類		二〇、〇〇〇噸
車輛	（省線ボギー車）	二〇〇輛

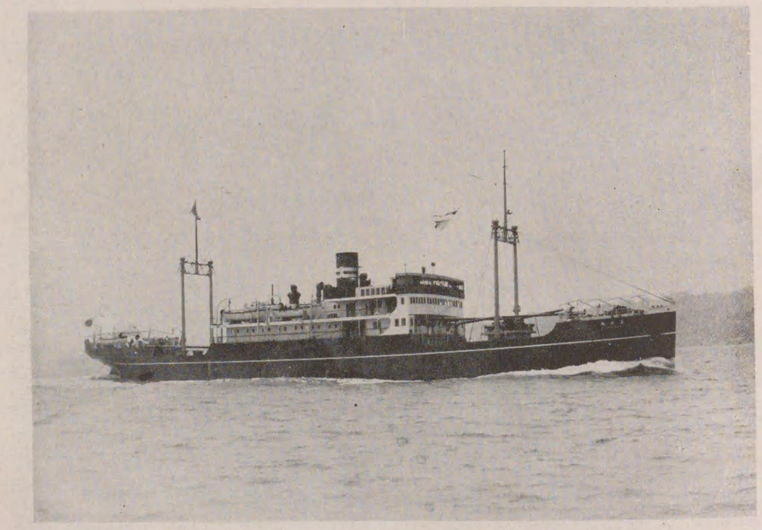


大阪鐵工所築港工場全景

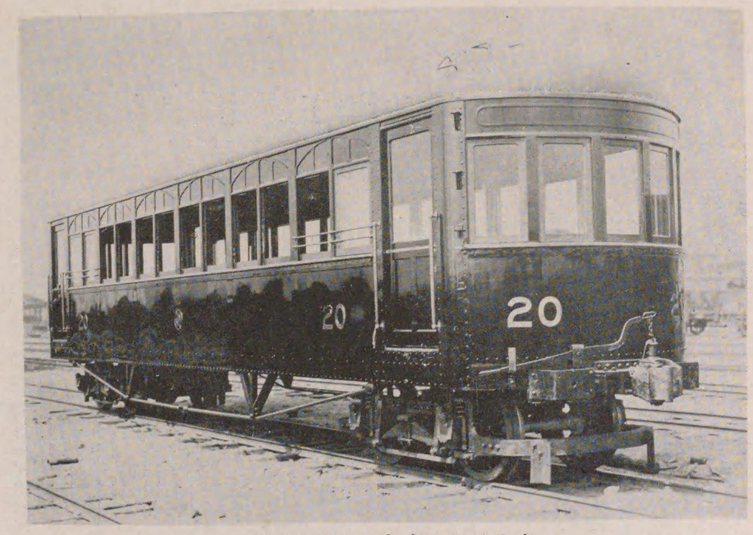
同上櫻島工場造船臺



大阪鐵工所仕上工場



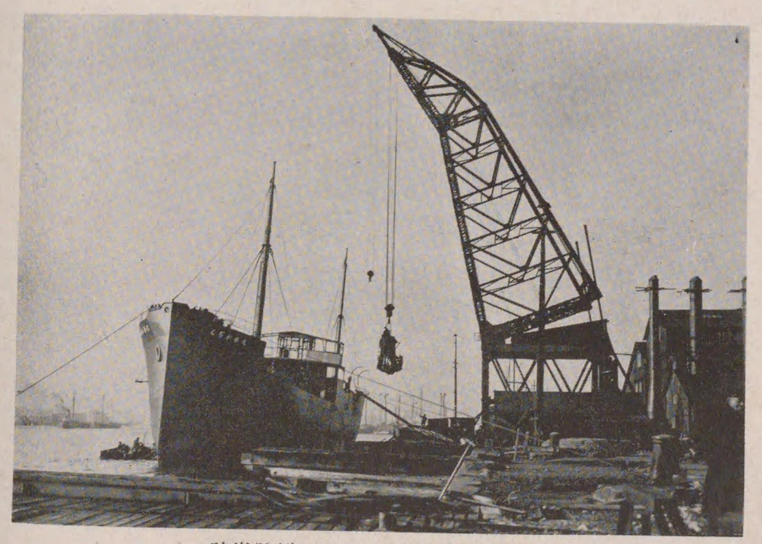
大阪商船株式會社モーター船長江丸
（昭和貳年大阪鐵工所櫻島工場建造）



富岩鐵道株式會社半鋼製電車
（大阪鐵工所製造）

農林省漁業取締船祥鳳丸
（大阪鐵工所建造）

大阪鐵工所に依り目下架橋中の昭和三年末竣工豫定
（徳島縣吉野川橋）



大阪鐵工所八十噸クレーンと艤裝岸壁

株式會社

藤永田造船所

沿革大要

元祿二年三月兵庫屋（姓永田）三十郎の名を以て業を西區江戸堀に創め漸次木津川下流に移轉し

明治七年　藤永田造船所と改稱す

明治十七年　現新炭屋町工場所在地に船渠及機械工場設置

大正六年　現本社所在地に敷津工場開設

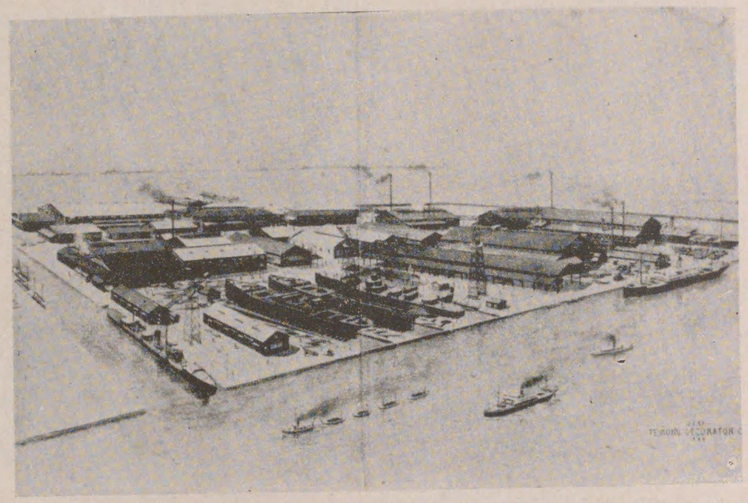
大正十二年四月　組織を改め株式會社藤永田造船所となす

明治初年外人技師を聘し西洋型小蒸汽船を製造す爾來主として木船を造りしも明治四十四年以來主として鋼船を製造し傍ら橋梁、諸機械、瓦斯用及水道用鑄鐵管製作並に一般鐵工業に從事し時代の趨勢に伴ひ工場設備の充實擴張をなし大型商船及海軍艦艇の建造に適する設備をなし已に建造を了したるもの數百隻に及ぶ。就中米國提供船「いゝすたん、りいだあ」號の如きは最も優秀なる成績を以て引渡を了し大に國際的信義を發揚せり。

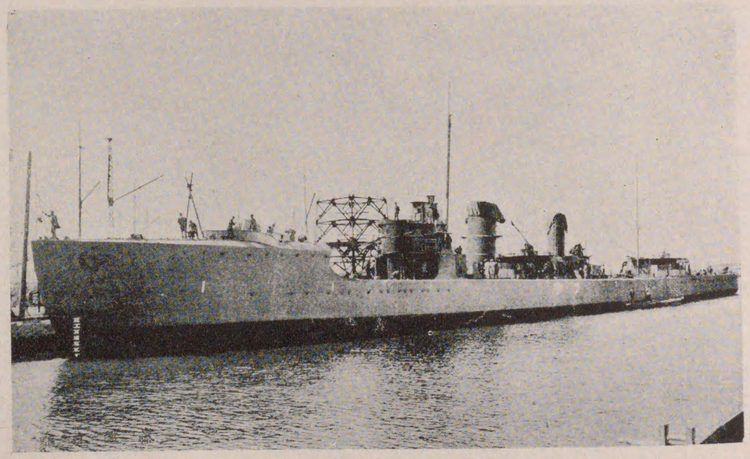
海軍艦船にありては已に引渡を了せし驅逐艦藤、蕨、蓼、第十六號、第十八號、第十五號、第二十七號、第二十九號、第三十四號は孰れも卓絶なる成績を擧げ現に就役し居れり此外目下建造中のもの大型驅逐艦參隻あり。

大正八年十一月陸軍大演習の攝津の野に行はるゝに當り畏くも産業奬勵の思召を以て侍從御差遣の光榮に浴す。

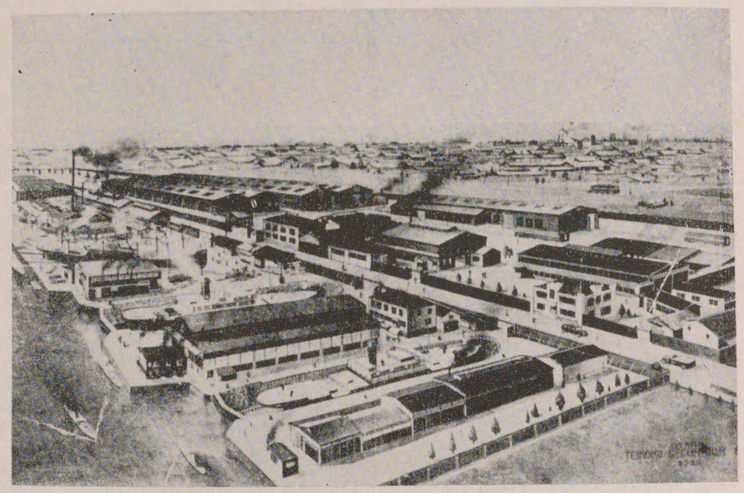
弊社は時勢進運と江湖の御推挽とに鑑みる處あり大正九年車輛工場を設置し專門技術者を招聘し品質の向上と堅牢を旨とし入念車輛を製作せるに頗る好評を得たり、爾來益々業を研き大方の御期待に反かざらむ事を期し鐵道省、東京市、大阪市其他各都市を始め各鐵道、軌道會社に已に壹千數百輛を納入し悉く御賞讃を得たり殊にセミスチール車輛に就ては獨特の名聲を博し居り最近鐵道省郵便緩急車を始め阪神電氣鐵道株式會社、東京横濱電鐵株式會社、目黑蒲田電鐵株式會社、阪神國道電軌株式會社、京阪電氣鐵道株式會社、小田原急行電鐵株式會社、神戸市電氣局其他へ多數の車輛を納入せる外目下宇治川電氣株式會社、大阪電氣軌道株式會社等御註文の半鋼製車輛を製作中にして尙全鋼製電車（オールスチールカー）に就ても夙に研究を怠らず目下京阪電氣鐵道株式會社御註文の高速度全鋼製ボギー式電車製作中なり弊社に於ては多々益々優良品の製作と價格の低廉を期し愈々本業の基礎を鞏固にし江湖の御眷顧に酬ひん事を期せり。



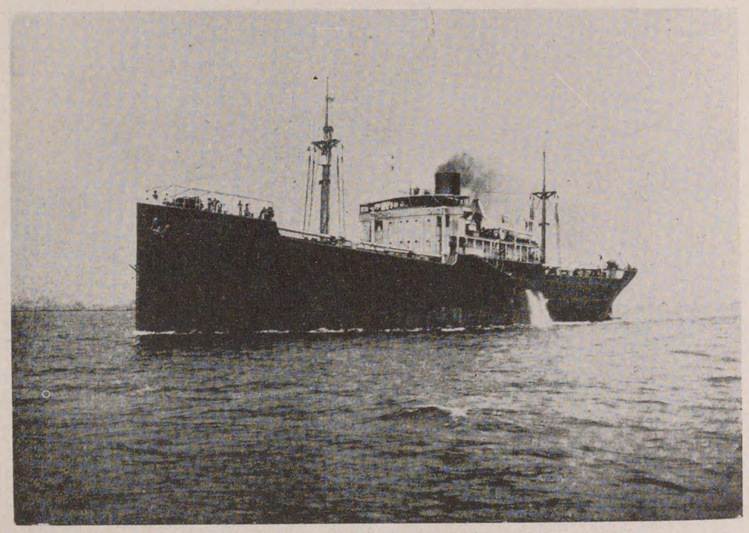
船臺及船架
- （本社）船臺參　重量壹萬貳千噸迄の艦船を建造する事を得
- （船町工場）船臺壹　重量壹萬貳千噸迄の艦船を建造する事を得
- 船渠壹　（第一號）長483呎　幅63呎半　深18呎半



中型驅逐艦フチ



藤水田造船所新炭屋町工場



亞米利加政府船舶局鋼製貨物船いいすたんりいだの

（進水年月……大正八年十一月）

藤永田造船所

役員

社長　永田三十郎
副社長　河田勝治
常務取締役　岡本勝雄
取締役　坂本一
同　岸本兼太郎
同　田所美治
同　白井齊知
監査役　久野工
理事　鈴木中見
同　足立六藏
造船部長　吉田安
造機部長　綱島仲之助
車輛部長　櫻井浪之助
船町工場長　和田福松

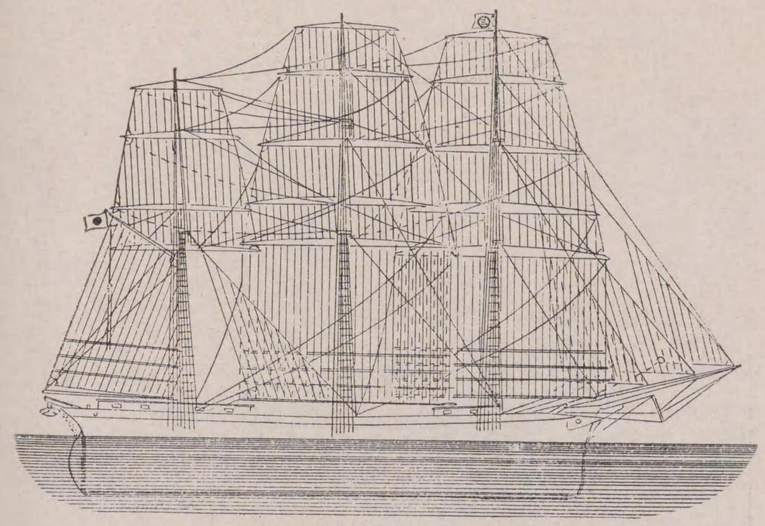
舩臺及舩渠（新炭屋町工場）

船臺貳
重量參千六百噸迄の船舶を建造する事を得
船渠貳（第二號及第三號）
長二八一呎　幅四〇呎　深一三呎
長二四六呎　幅三八呎　深一一呎

一ケ年製造能力

艦船　約五萬噸
車輛　三百輛
鐵工　二萬噸

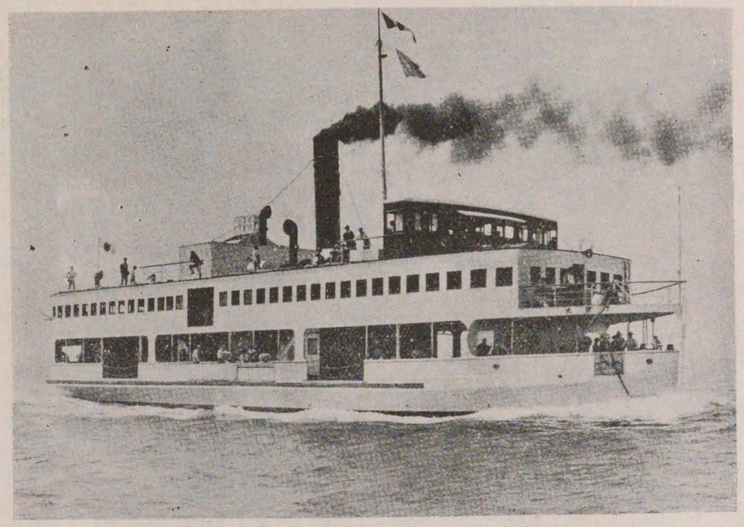
大型驅逐艦 第十五號



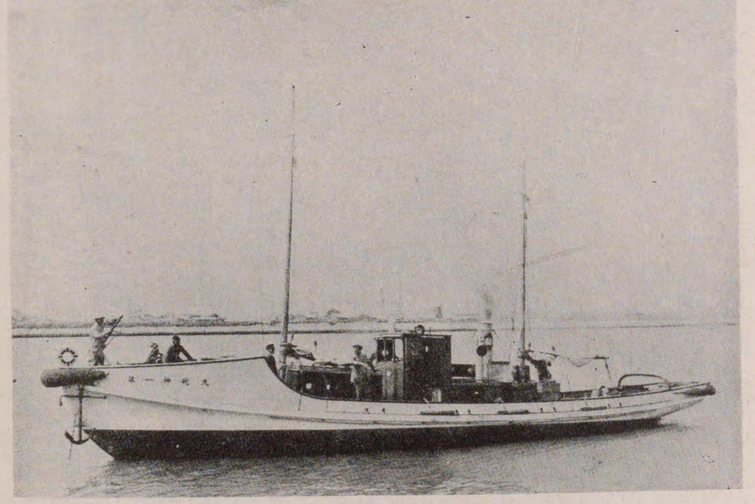
藤永田型帆船

稱號の由來

當所は元兵庫屋と稱し代々造船業を營む。明治七年參本檣西洋型帆船十八丸を新造し其試運轉當日多數の知名の士を招待したり、同船の帆裝は當所獨特の設計に爲り操縱簡易にして能率最も良く好評を博したり、其形狀「藤花」に似たるを以て此時來所せられたる時の大阪府知事渡邊昇氏の勸めに從ひ爾來兵庫屋を改め本姓永田の上に「藤」を冠し藤永田造船所と稱す。

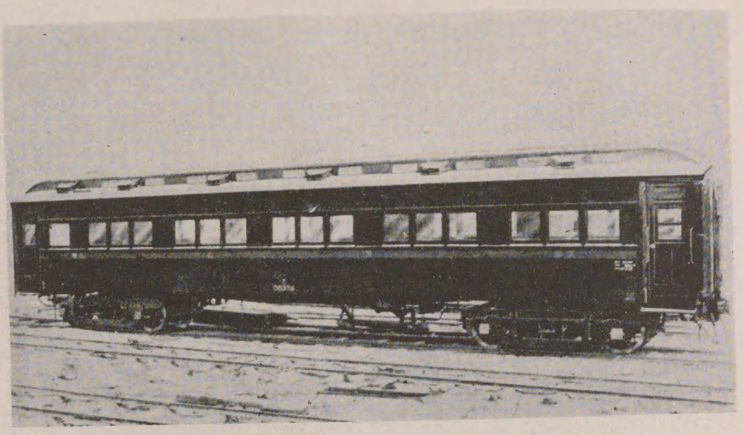


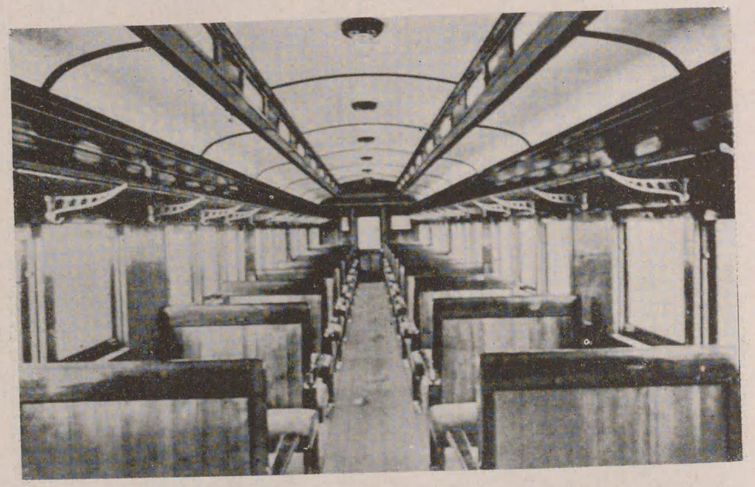
鐵道省關門連絡船 下關丸
（大正十四年五月進水）



帝國水難救濟會小樽救難所御注文 木造救命艇

總長	頓數	二〇噸五三
幅	（垂線間）	五六呎一〇
深		一一呎八三
機械	ボウリンダー式セミデイゼルエンヂン	
進水年月	大正十五年五月	

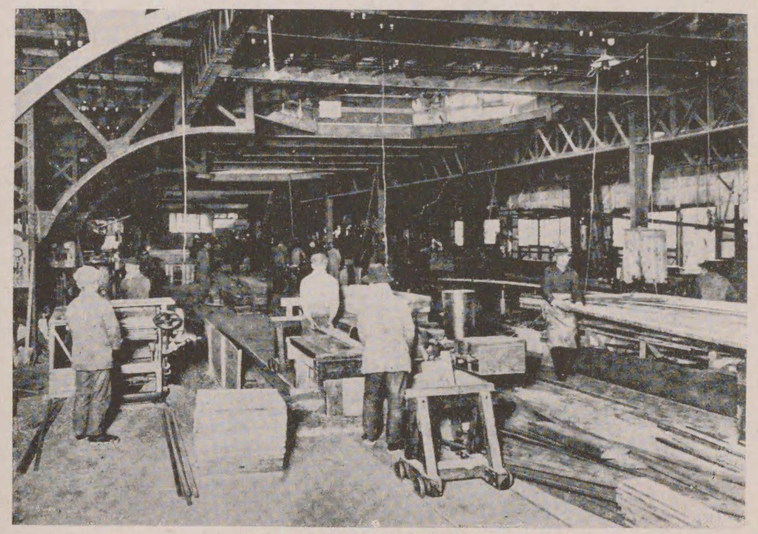




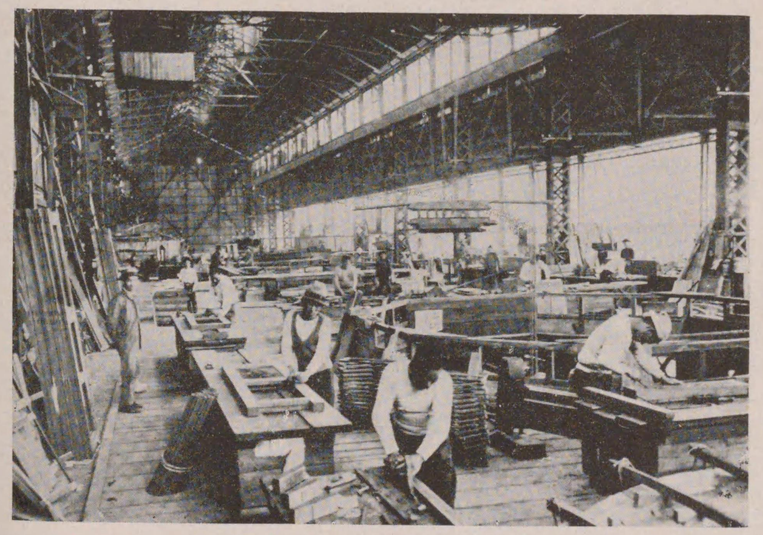
鐵道省四輪ボギー三等客車

主　要　寸　法

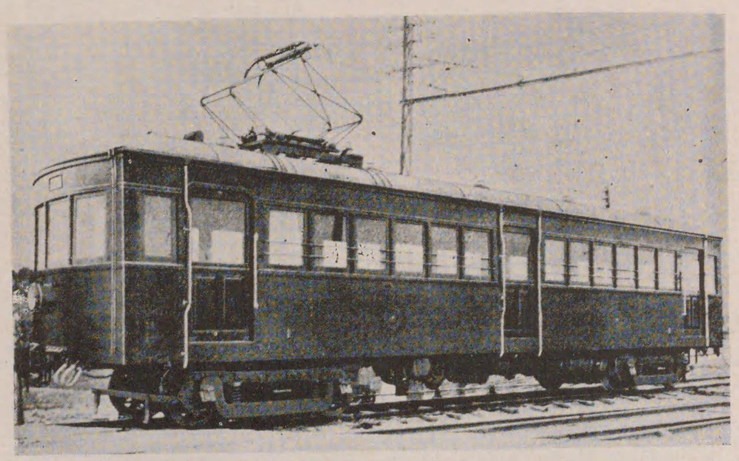
		Fts.	m.m.
員長	… … … … … … … … … …	3′- 6 〃	1067
幅全	全の連結器外面より外面迄 … … …	55′- 9¼〃	17000
長の	妻外板の外面より外面迄 … … …	54′- 1⁹⁄₁₆〃	16590
幅	側窓柱の外面より外面迄 … … …	9′- 2¼〃	2800
高	軌條より屋根迄 … … … …	12′-10½〃	3925
自重	… … … … … … … … … … … …		80 人
定員	… … … … … … … … … … … …		26.43瓲

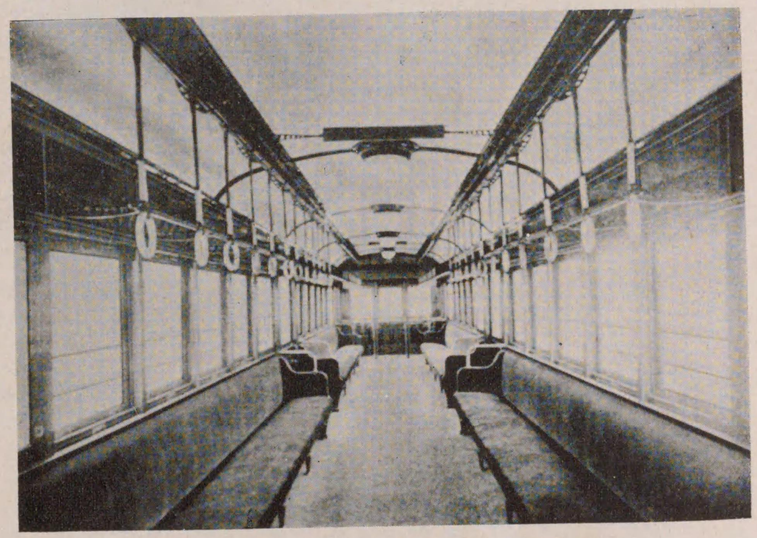


部一の場工械機工木所船造田永藤



同上　木工切組工場の一部

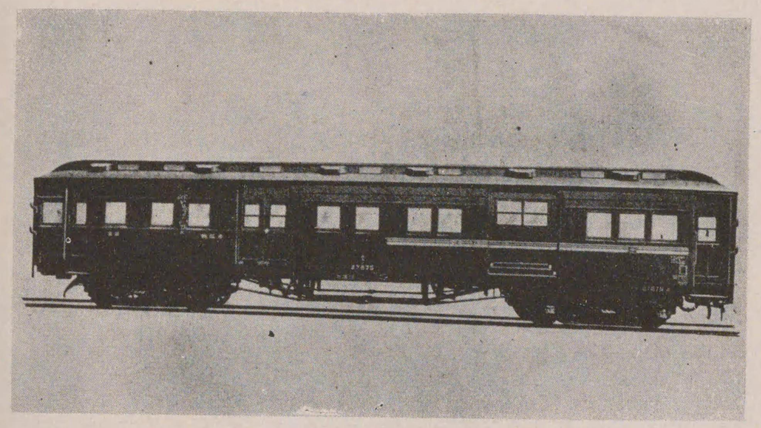


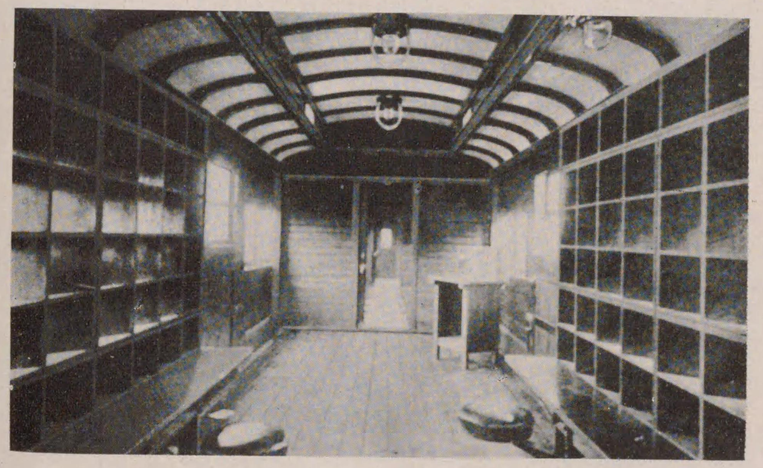


信貴生駒電鐵株式會社半鋼製ボギー電車

主　要　寸　法

			Fts.	m.m.
軌條幅員		… … … … … … … … … …	4′- 8½″	1435
車輛全長		連結器外面より外面迄 … … …	49′- 0 ″	14935
車体全長		裾外板の外面より外面迄 … … …	46′- 6 ″	14173
車体の幅		側窓柱の外面より外面迄 … … …	8′- 7 ″	2616
車輛の高		軌條より屋根迄 … … … … …	12′- 0 ″	3658
定員		… … … … … … … … … …	92人	立席 48 人 / 坐席 44 人
自重		… … … … … … … … … … …		

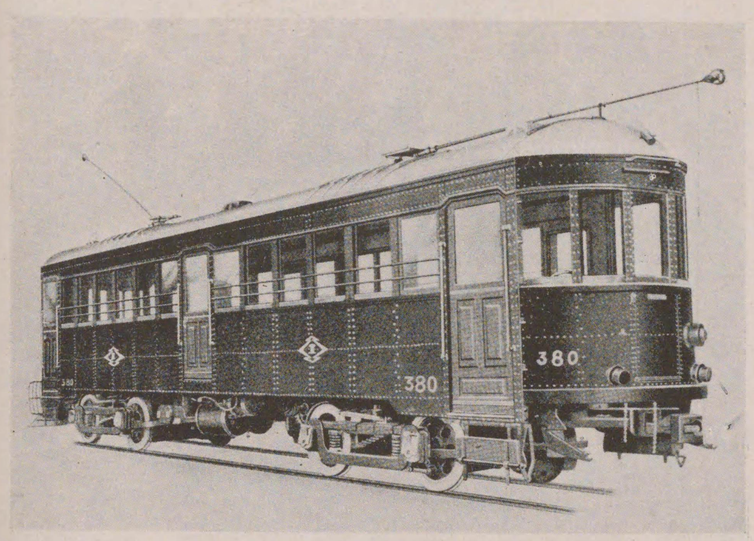




鐵道省四輪ボギー郵便手荷物緩急車

主　要　寸　法

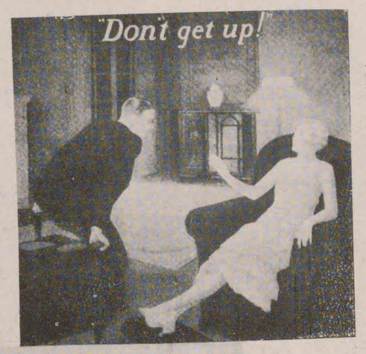
			Fts.	m.m.
軌條幅員		… … … … … … … … … …	3′- 6″	1067
車輛全長		連結器外面より外面迄 … … …	55′- 3⅜″	17000
車体全長		腰外板の外面より外面迄 … … …	53′- 9¾″	16400
車体の幅		側窓柱の外面より外面迄 … … …	9′- 2¼″	2800
車輛の高		軌條より屋根迄 … … … … …	12′-10½″	3925
			郵便室	手荷物室
容積	荷重	… … … … …	4 噸	5 噸
	容積	… … … … …	122) 立方呎	1074 立方呎
自重		… … … … … … … … … … …		25.92瓲



阪神電氣鐵道株式會社半鋼製ボギー電車

主　要　寸　法

			Fts.	m.m.
軌條			4′- 8½″	1435
車輛	員長	連結器外面より外面迄 ……		
車體	全長	褄外板の外面より外面迄 ……	44′- 6 ″	13564
車體	幅	側窓柱の外面より外面迄 ……	7′- 5⅝″	2277
車輛	高	軌條より屋根迄 …… ……	11′-11⅝″	3343
定員		…… …… …… …… ……	96人	立席 48人 / 坐席 48人
自重		…… …… …… …… …… ……		



高四十九吋半
幅四十七吋
奥行二十二吋

自動式

No.10—50型

¥2.150.00

本器は自働式オーソフォニツク、ビクトロラにして、十吋或は十二吋ものゝ如何を問はず一打のレコードを連續的にかける事が出來ます。先づ最初に自分の好む曲譜を選み、之等をマガジン、アームに取付けスウヰツチを轉ずるのです。電流が通ずると廻轉盤は廻轉を始めます、然うするとメカニカル、ハンドは先きに取付けある一打のレコードの第一のレコードを受け、これを廻轉盤の上に乘せると、トーンアームは自働的にレコードの表面に近づき、サウンド、ボツクスは下垂し茲に音樂が始ります。一曲終りますとメカニカル、ハンドは廻轉盤からレコードを取除き、下方に取付けあるフエルト裏付の受箱の内に徐かにそれを滑べり落します、而して再びマガジン、アームから第二のレコードが終ると、機械は自働的に其運動を受取ります。この順序で最後のレコードを停止いたします。若し唯一枚のレコードをかける時には、一般の蓄音機の場合と同樣にレバーを所定の場所に廻轉してかけます本器自働式オーソフォニツク、ビクトラの最も顯著なる特徴は、凡べてオーソフォニツク式樂器特有の音樂を奏することであります。タングストン針は一枚毎に取換ふるの必要なく、唯一本にて百枚以上のレコードに使用することが出來ます。又器内に取付けある無音響の電氣モーターは器内に在る一切の機械を運轉しスプリングを廻轉するの必要はありません。

斯く驚くべき本器は、一時間も更らに手を煩はすことなくして、宴會、ダンス或は歌劇、シンフオニー、ピアノ、ヴアイオリン其他のものと己が好みに應じて聞くことが出來ます。自働式の特種設備は、大に音樂の美を發揮するに與つて力あるので、他に殆んどこれに比して優るものはありません。

本器の外觀を美しからしめんがために、ビクター專屬の熟練せる職工は、此の自働式オーソフオニツクビクトロラの爲め、特に壯麗なるカビネツトを考案し、佛蘭西ルネイサンス式にてウオルナツト材張付茶褐色濃淡の仕上げを施してあります。又器内の附屬具は一切金泥を施し、其の美觀は目を惹く計りです。

日本ビクター蓄音器株式會社

日本電力株式會社及其事業概畧

會社設立　大正八年十二月十五日

資本金　金壹億圓（設立當時金五千萬圓）

目的　一、電力及電燈供給事業

二、電力及電燈供給事業に關聯する他の事業

三、電力及電燈供給竝電力及電燈供給に關する他の事業に對する出資

四、化學工業

計畫の大綱　當會社は當初關西電力株式會社發起人の名義により出願なしたる飛彈川筋に於ける約六萬「キロ」の水利を開發し之れを大阪に送電する計畫であつたが其後富山縣下に於ける豐富低廉なる電源を獲得なしたると他方技術上の發達に伴ひ長距離送電が可能となつた爲に最初の計畫を擴大し北陸及中部日本の彭大なる電源を中心として北陸、關西、關東及名古屋方面を包含する電力需要地に之を供給すべく左記計畫を確立するに至れり。

水力地點

飛彈川筋	瀨戸發電所外四ヶ地點　六〇、〇〇〇キロ
神通川筋	蟹寺發電所外四ヶ地點　一一〇、〇〇〇
常願寺川筋	龜ヶ谷發電所　一〇、〇〇〇
黑部川筋	柳河原發電所外七ヶ地點　三〇〇、〇〇〇
庄川筋	小牧發電所外壹ヶ地點　八〇、〇〇〇
合計	五六〇、〇〇〇

完成設備（昭和二年九月末現在）

發電所

飛彈川筋瀨戸	二萬七千キロ
竹原川	一千キロ
常願寺川筋龜ヶ谷	一萬〇〇キロ
神通川筋　蟹寺	五萬〇〇キロ
合計	八萬八千キロ

右建設費參千六百參拾六萬圓壹キロ當り四百拾參圓尼崎火力發電所
右建設費九百五拾壹萬壹千圓壹キロ當り百九拾圓水火力合計
建設費合計四千五百八拾七萬圓壹キロ當り參百參拾貳圓變電所及開閉所
大阪、岐阜、名古屋、笹津、等變電所八ヶ所
安土、關、古川、等開閉所六ヶ所

送電線

大阪笹津間	一九四哩
大阪大垣間	八七哩
大阪尼崎間	八哩
大阪京都間	貳〇哩

右の外大阪名古屋各配電設備を有す

建設工事		完成期	總工費豫算
柳河原發電所	出力　五萬四千「キロ」	二年十一月	一七、五〇〇、〇〇〇圓
尼崎火力發電所擴張	出力　九萬「キロ」（內五萬キロ內四萬キロ）	二年十一月 三年夏	一二、三〇〇、〇〇〇圓

右完成の上は水力發電所總出力壹四〇、〇〇〇「キロ」にして總工費五三、八六〇、〇〇〇圓、一キロ當り參七九圓、火力發電所總出力壹四〇、〇〇〇「キロ」にして總工費七五、六六〇、〇〇〇圓、壹キロ當り平均貳八八圓となる。

東京黑部間送電線　十五萬四千ヴオルト亘長一八七哩　二年末

東京變電所　第一期五萬「キロ」　二年末　一五、〇〇〇、〇〇〇圓

大阪、堺、尼崎、木津方面及北陸方面配電工事今後電力供給增加に伴ひ漸次擴張　二、三〇〇、〇〇〇圓

投資會社關係

關西電力株式會社　創立大正九年九月十一日（拂込金七百五十萬圓）

資本　金壹千貳百五十萬圓（殆んど全部日本電力に於て保有）

庄川水力電氣株式會社　創立大正八年九月十日（拂込金壹千萬圓）

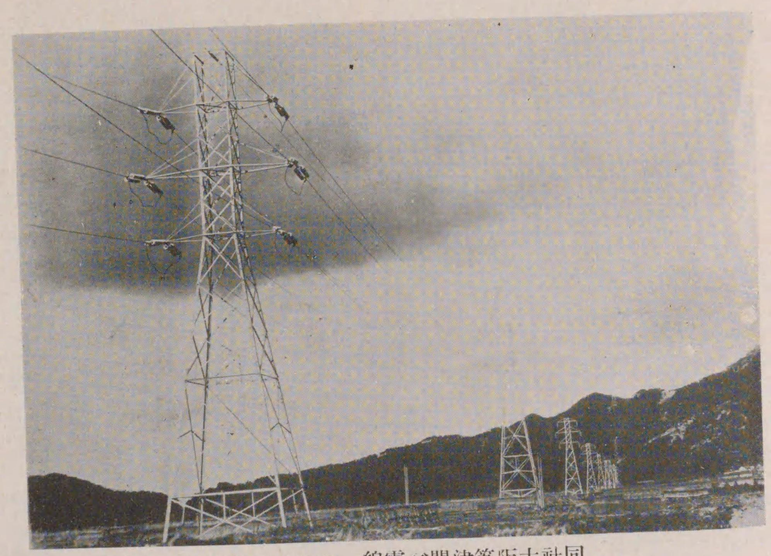
資本　金壹千萬圓（日本電力に於て約半數保有）

東洋アルミナム株式會社　創立大正八年十二月八日　拂込金九百萬圓）

資本　金壹千萬圓（殆んど全部日本電力に於て保有）

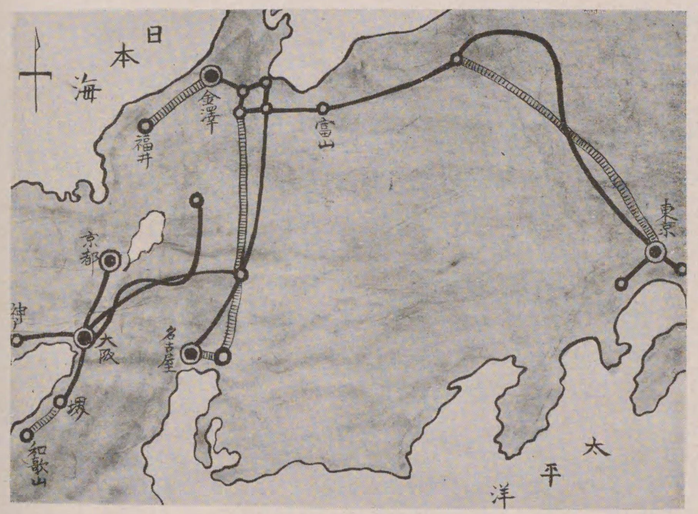
日本電力柳河原發電所　（富山縣宇奈月黑部鐵道終点より一哩半）

尺二一四差落効有個千二量水用使　トツソロキ〇〇〇・〇五力出



同社大阪筆津間送電線　（岐阜縣安土附近）

トツソロキ千五萬二十量容電送　トルオヴ千四萬五十壓電　哩四十九百長亘



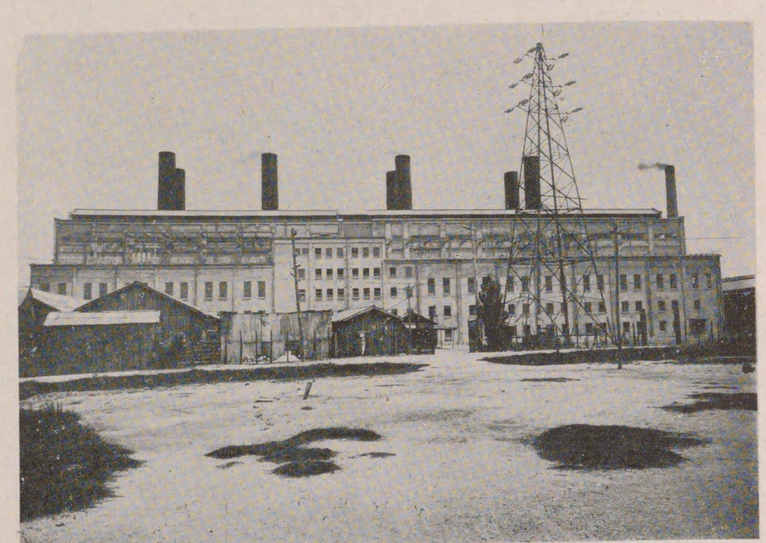
日本電力配電地圖

日本電力株式會社　營業區域

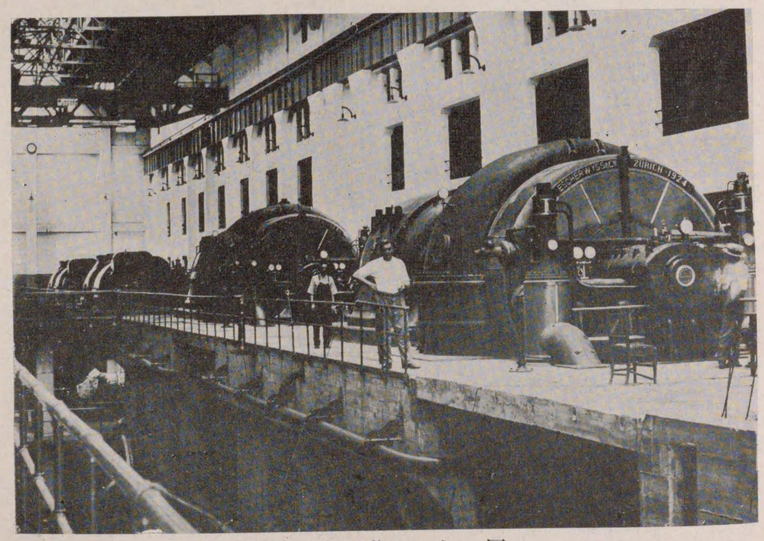
當社の營業區域は東に於ては東京方面西に於ては大阪、神戸、京都、名古屋方面、北に於ては富山方面等本邦に於ける工業地を汎く包有し既に大阪、京都、名古屋、北陸方面に於て直接間接に大量の電力を供給し東京方面に對しては昭和貳年より供給を開始し之等の方面に於ける電力の需用は言ふ迄もなく年々著しく增加し止む處なし斯の如き有利にして廣汎なる供給區域を有するものは本社を措いて他に見る事を得ず。

役員

取締役社長	山岡順太郎氏
取締役副社長	池尾芳藏氏
專務取締役	下村耕次郎氏
專務取締役	福中佐太郎氏
取締役	石原正太郎氏
取締役	肥後八次氏
取締役	境田賢吉氏
取締役	竹原友三郎氏
監査役	矢野慶太郎氏
監査役	武藤嘉門氏
監査役	白莊司芳之助氏
監査役	熊澤一衛氏



日本電力尼崎發電所

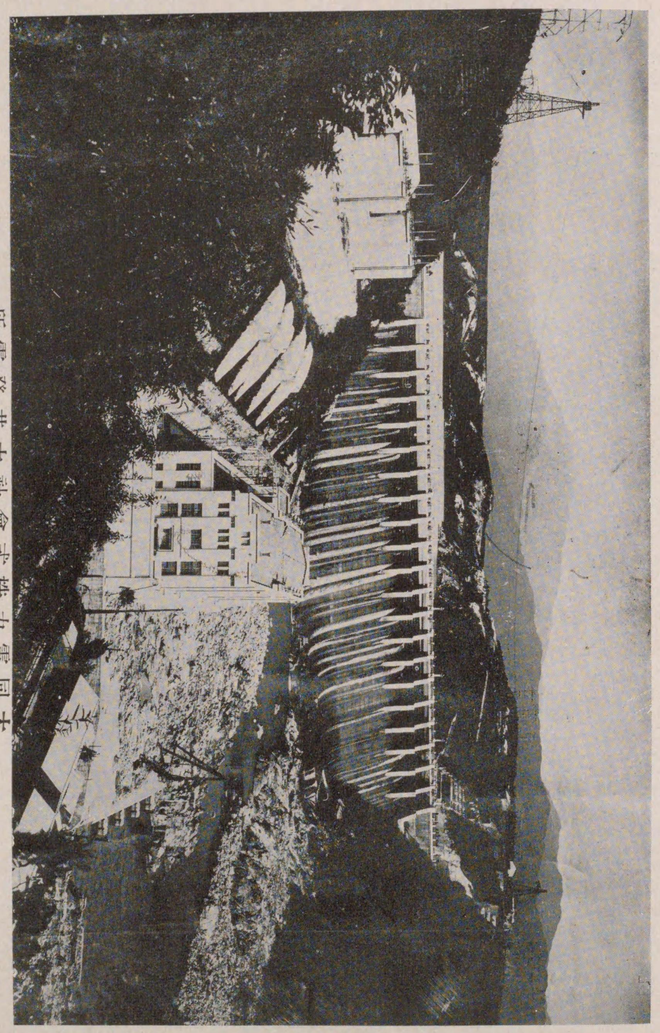


同上　發電室

日本電力
株式會社　尼崎火力發電所

——所在地　兵庫縣尼崎市——

出力　一〇〇、〇〇〇「キロワット」(二五、〇〇〇「キロワット」四臺)此の内二五、〇〇〇「キロワット」二臺は今秋完成し渇水時其他の場合に於ける補給設備は之れによりて殆んど完璧の域に達せり寫眞(上)は同社尼崎火力發電所全景にして同(下)は同發電所内機關室なり。



所電發井大社會式株力電同大

大同電力株式會社

本　社　東京市麹町區永樂町一丁目一番地
支　店　大阪市東區高麗橋三丁目一番地
仝　名古屋市東區七間町一丁目一番地

一、資本金　壹億七千參百萬圓
一、發電力　貳拾七萬「キロワット」
　水　力　拾六萬九千五百キロワット
　火　力　拾萬〇五百キロワット
一、供給區域　東京、大阪、京都、名古屋、北陸の各都市及其附近

役員

社長	福澤桃介
副社長	增田次郎
仝	宮崎敬介
常務取締役	太田光熙
仝	近藤茂
仝	村瀨末一

宇治川電氣株式會社

事業概況

本　店　大阪市北區宗是町壹番地
近江支店　滋賀縣犬上郡彦根町
大和支店　奈良縣大淀町下淵
電鐵部　神戸市御屋敷通三丁目二番地
熊野出張所　和歌山縣東牟婁郡新宮町

本會社創立當初の目的は琵琶湖より流出する水を利用して電氣を發生し、近畿地方に供給するのでありました。抑も琵琶湖は日本第一の大湖であることは何人も知悉する所でありまして、古來灌漑漁業、舟運の便に供せられて、今日に至つたのであります、更に之を水力電氣に利用するに至つて、國家產業に寄與することの甚大であることは言を俟たざる次第であります。

此の琵琶湖は風光明媚、四季を通し、文人墨客の詩囊を肥し、殊に近江八景に至つては、古來人口に膾炙する所であります、其位置は近江の國の中央にあつて、廣さ東西五里二十七町、南北十六里十町、水面積四十六方里餘殆んど近江一圓の諸流を集め其の受水區域二百八方里餘の廣きに亙り、總水量一兆立方尺、全湖面の一寸の水量七億八千萬立方尺と稱せらるるのであります、而して旱魃打續きたる場合でも受水區域の廣大なるため、水位は容易に低下せず、殊に明治三十七年內務省に於て、瀨田川筋南鄕の地先に洗堰を設けられてより、琵琶湖一帶は宛然たる一個の貯水池となり、水力發電の源泉として、本邦稀に見る好地點となつたのであります。

本會社の發生する電氣は主として水力電氣によるものでありますが、特に主要なるは宇治川筋及大和方面にある各發電所であります。

宇治川筋に建設しました各發電所は前述の通り、本邦最大の琵琶湖を自然の貯水池とするので、四季渴水の憂なく流量均一でありまして、發電減少の虞がないことは本會社の最も誇りとする所であります。

又、大和地方は千古斧鉞を加へない森林地帶でありまして、殊に雨量の多い土地であるため、水量は豊富で、且地勢上高落差を得られ、水電事業上無二の天惠を有するものと云はねばならぬのであります。

而して本會社が電力販賣權を有する區域は、電氣の需用の最も旺盛なる、本邦商工業の中心と稱せらるる京阪神地方でありまして、前記の各發電所との距離が極めて近いのであります、從つて送電線路に要する建設費を節減し、且線路の故障も自ら除くことが出來て、需用家には最も喜ばるるのであります、之は本會社事業の特長と看るべきものであります。

現在資本金　九千貳百五拾萬圓也

拂込資本金　五千九百七拾七萬四千九百八拾七圓五拾錢也

現在株式數　壹百八拾九萬株內　舊株　九拾七萬七千參百參拾參株　新株　八拾七萬貳千六百六拾七株

一株當拂込　舊株　五拾圓　新株　拾貳圓五拾錢

資本增加の狀況

一、明治卅九年十月廿五日	會社創立當時	三、五〇〇、〇〇〇圓	一、大正十一年十月一日 大正水力電氣株式會社合併 四一、三六六、六五〇圓
一、大正五年五月二十五日	倍額增資	二五、〇〇〇、〇〇〇圓	一、大正十一年十月一日 增資 八五、〇〇〇、〇〇〇圓
一、大正十年九月一日	近江水力電氣株式會社合併	三一、四〇〇、〇〇〇圓	一、昭和二年一月一日 兵庫電氣軌道株式會社合併 九〇、〇〇〇、〇〇〇圓
一、大正十年十月一日	大和電氣株式會社合併	三七、六五〇、〇〇〇圓	一、昭和二年四月一日 神戸姬路電氣鐵道株式會社合併 二、五〇〇、〇〇〇圓
一、大正十一年五月卅一日	熊野電氣株式會社合併	三八、七〇〇、〇〇〇圓	

發電所出力之部

發電所名	出力基	發電所名	出力基
宇治發電所	三二、〇〇〇	樫尾〃	二、三六五
志津川〃	二八、〇〇〇	吉野〃	一、六六一
大峰〃	一六、〇〇〇	天川〃	六四〇
黃和田〃	一、四六九	白川〃	二、四一四
萱尾〃	六四〇	瀧本〃	二四〇
相谷〃	七四七	高田〃	一三六
姉川〃	六一五	那智〃	一二〇
高時川〃	一、〇三九	大里〃	一〇〇
迫〃	五〇〇	鮒田〃	五〇

火力之部

發電所名	出力基
木津川發電所	六〇、〇〇〇
福崎〃	四〇、〇〇〇
明石〃	一、二〇〇
壚屋〃	一、二〇〇

增設計畫中

發電所名	出力	備考
大平發電所	五、四二〇	水力
蓼畑〃	二、〇五二	〃
木津川〃	八、三一五	〃
川迫川〃	二、二六七	〃
中音枝〃	二、七七三	〃

發電所名	出力	備考
下尾井—電所	五、〇六七	〃
瀞〃	九、七九六	〃
神川〃	二、九九一	〃
前鬼〃	二、一七六	〃

二千基以下のものは略す

供給電力並電燈個數（自昭和二年四月一日至仝九月卅日）本店、支店、出張所、電鐵部を含む

供給動力用電力	三五二、五九二馬力〇六	仝 上需用家數	一八、九一一口
電燈個數	三九八、五三四個	仝 上需用家數	一六七、四五九口

購入電力

大同電力株式會社、今津發電株式會社、揖斐川電氣株式會社等より八八、三〇〇基を購入す。

電鐵部事業概況

兵庫—明石間　營業哩　一一哩三八　軌間　四咫八五　複線

明石—姫路間　營業哩　二四哩四〇　軌間　四呎八五　複線

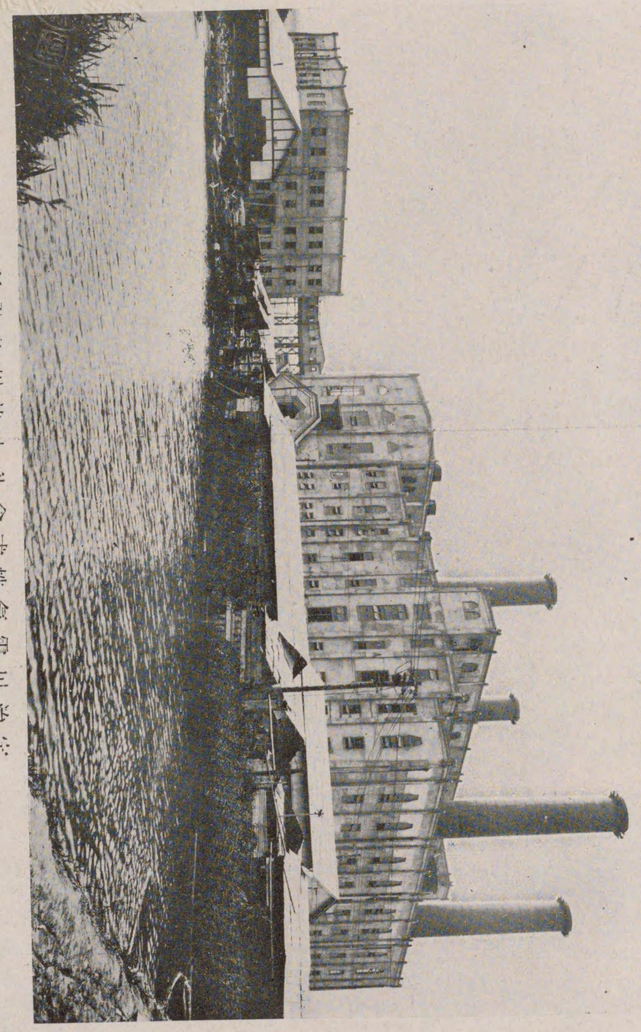
車輛數

客車　五五輛　内　ボギー車　一五輛　貨車　原動貨車　六輛　附隨貨車　一六輛

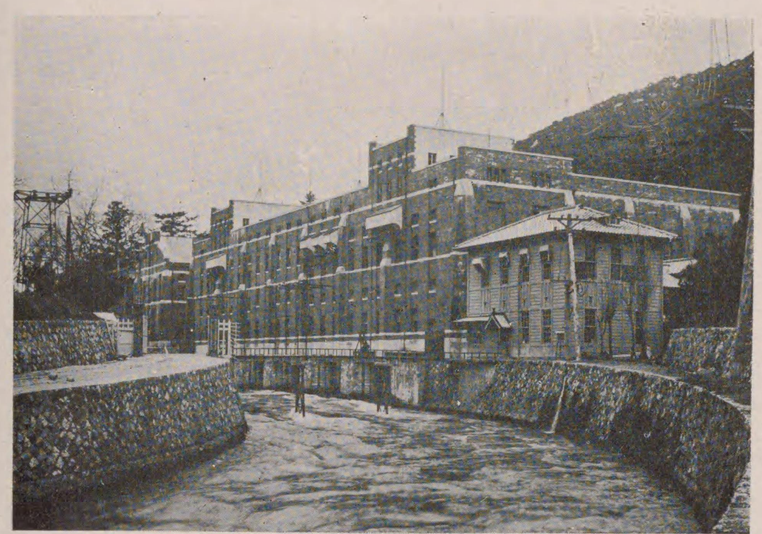
營業成績一覽表

本店（營業開始大正二年八月）

年月日	取付馬力數	同需用家數
大正三年三月末日	四〇、二七六	一、四七六
同　四年三月末日	五四、六一三	二、一五一
同　五年三月末日	六三、八五九	三、〇一一
同　六年三月末日	七七、一八三	三、七九四
同　七年三月末日	八七、一六〇	四、七八四
同　八年三月末日	一〇五、一四七	五、六九三
同　九年三月末日	一一一、三八九	五、八七九
同　十年三月末日	一二七、五九三	六、六二七
同十一年三月末日	一四四、八五一	八、三一八
同十二年三月末日	一六四、一九六	九、七五三
同十三年三月末日	二〇〇、五五〇	一〇、九九三
同十四年三月末日	二四〇、二九七	一二、四四四
同十五年三月末日	二七二、一一七	一三、六九一
昭和二年三月末日	三二〇、九八六	一四、八九五
同　二年九月末日	三三一、九八一	一五、八〇三

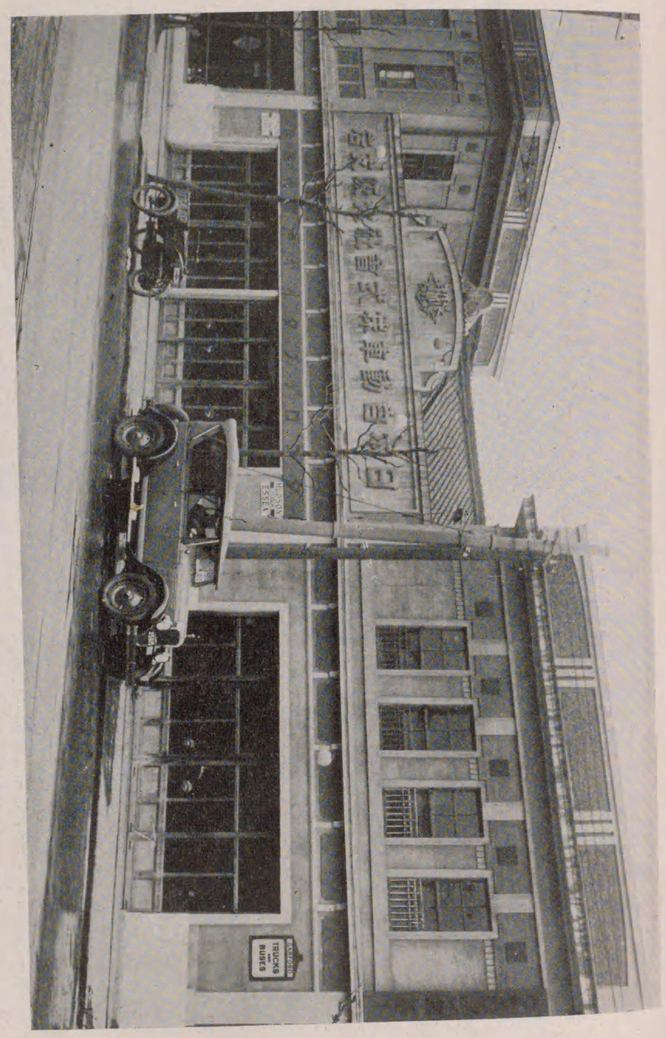


所電發川津木社會式株氣電川治宇



宇治發電所
（京都府久世郡宇治町）

志津川發電所
（京都府宇治郡宇治村）



用御聽官各・用御者軍海・用御者軍陸・用御者信遞

店支阪大社會式株車動自本日

側北入西道新田梅目丁三上崎根曾區北市阪大

番一二〇二北番七一九一北話七五七一北最特話電

番一二一〇四阪大座口替口

地番〇三町池淵區坂赤市京東　店本

山松・潟新・幌札・戸神・濱橫・蓬仙・盛宮・城宮・岡福・都宮・屋古名　所張出

⊙營業課目

自動車、自動飛行機、附屬品及器具、輸入製造販賣、中古保管

自動車、自動車、自動車、自動車、自動車、自動車、自動車、自動車

修繕、材料及消耗品、機械及器具、塗料、諸油、輸入製造販賣、中古保管

運送請負、代理引受、

消防自動車總代理店

米國ガレーフ　米國ヒルデ

米國ハーセド　米國ピユニ

乘用自動車總代理店

米國ヒルデ　米國ヒルデ

米國ハーセド　米國ピユニ

乘用自動車總代理店

米國ガレーフ　米國ガレーフ

米國ハーセド　米國ピユニ

貨物自動車總代理店

米國ガレーフ　米國ガレーフ

米國ハーセド　米國ピユニ

乘合自動車總代理店

米國ガレーフ　米國ガレーフ

米國ハーセド　米國ピユニ

同社大阪支店全景

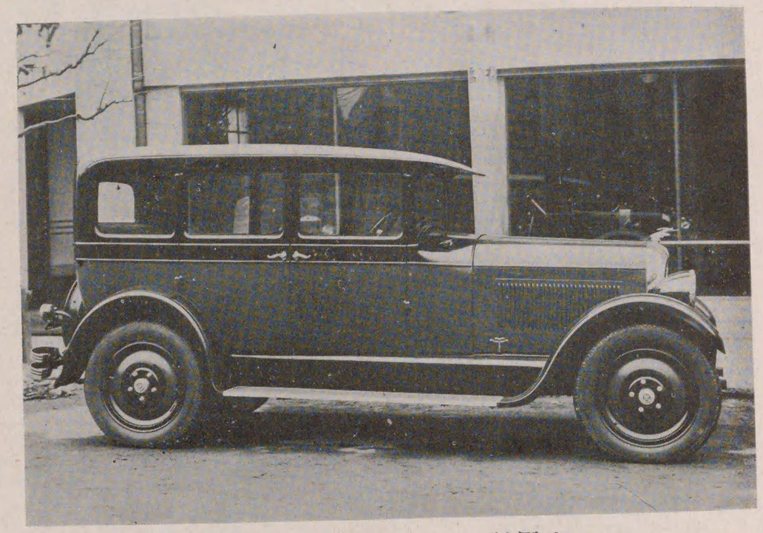
梁瀬自動車株式會社沿革

社長梁瀬長太郎氏は元三井物産株式會社に勤務せられ大正四年五月獨立して梁瀬商會を起し三井物産株式會社にて代理權を有する自動車及機械油の一手販賣を引受け業績逐年進展して大正九年一月全商會を梁瀬自動車株式會社(資本金五百万圓)及梁瀬商事株式會社(資本金壹百万圓)に組織變更をなしたるものにて當社は本店を東京市麹町區錺町二番地に置き支店出張所を大阪、名古屋、博多、横濱、仙臺、京都廣島、松山、京城、紐育の各地に設け專ら自動車並に附屬品の輸入販賣に努め業態眞に見るべきものあり、蓋し本邦全業者の覇者たり。

スチユードベーカー號

スチユードベーカー會社は米國に於て最も古き歴史を有する第一流の自動車製造業者にして其製品は過去七十五年間連綿として「滿足及正しき價値」を以て世に知られ販賣數は目下同級車中第一位を占む。

其特長とする所は他の同業者と異り組立に要する部分品は悉く自家工場に於て製作したものを使用する事にて其爲中間手數料が省ける關係上製品の價格は自然其れ丈低廉となるは勿論最も進歩せる獨特の設計に據つて各機能は全体に極め正確なる均衡が保たれる結果輕快堅牢



米國製スチユードベーカー號

にして乘心地よく能率の高き優美なる製品が出來る次第なり。

今回弊社發賣の最新式スチユードベーカーは其全設計を現代自動車製作の標準に應じて變更し第一に維持費の節約を旨とし製作せられたるものにて車架寸法に比し機關馬力強大にて機關廻轉數比較的少なき故壽命長く然もガソリンの消費量極めて少なく日つ出足の敏速なる新工夫が加へられたり。

ボデーは構造堅牢にて型良く巧に配合された二色のセルローズ塗と光り輝くニツケル調度とは輕快な對照を爲し到る處衆人注目の的たり其他微細の點に到る迄凡てが最新式裝置で調節器具の如きも極めて便利な樣に手近に取附あり何の型にも附屬品は頗る豊富に完備しあり。

本車にはディレクター型、コンマンダー型、プレシデント型と二階級あり、何れも覇型、箱型あり尚デユープレツクス型と稱する特殊のものあり、之れは覇型で箱型同樣の行屈ける保護裝置を具へたる理想車にして格好良き固定覇に四枚の横覇が備附けられローラーに依り僅か三十秒間で箱型ともなり又覇型ともなる至極便利た仕掛に製作され居り實にスチユードベーカーの有する專賣特許なり。

フイアット號

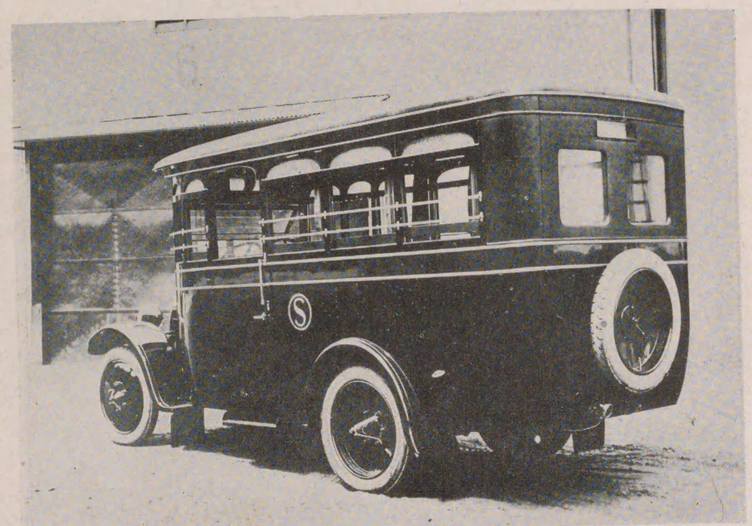
伊太利フイアット會社に於ては綿密なる設計、卓越せる技巧により製作せられたるものにて歐洲自動車界の白眉と稱せらるゝものたり、歐洲車の特長としてエンヂンの靜肅なることは勿論構造頗る堅牢にして殊に材料としてカーボン含有量約十二パーセントのハイカーボンスチールを使用したるが如きは他に其の比を見ざる處なり又馬力と車の重量との均衡を保ち運轉具品は米國流の容易さを加味され、出脚早く登坂力に富み常人の歩行速度より樂々と疾風速度に急變し得。

亦有名なるサーボ式四輪制動機は運轉の安全を保證し舵の働きの輕きも快くボデーは歐洲式の堅實なる創案に米國流の近代味を加へたる優美なる最新式舟型にて其廣々として車室、柔きクツションハフィアット特有の發條、衝動輕減機と相俟つて乘心地よき事は何人も賞讃を惜まざる處にて又其經濟的特長に就きてはガソリン一ガロンにて優に二十五哩以上を走行し其他の消耗費も極めて少數實に經濟車なり。

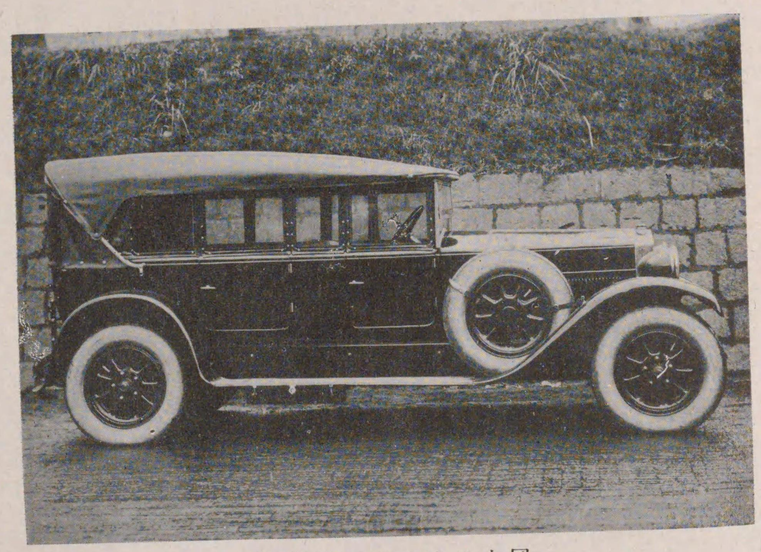
元來伊太利は地勢、風土、嗜好等に於て我日本と頗る相似る處あり全國に於て好評嘖々たる本車は新輸入以來絶大の好評を博したり。

本車には少なるはホヰールベース百吋半の小型より大なるは百四十一吋半に至る各種のものでありて五〇九、五〇三、五〇七、五一二、五一九と稱し最も少なるを五〇九型と稱し最も大なるを五一九型と稱す。

又本車には壹噸積壹噸半積貳噸積の貨物自動車も有り目下本邦に於て活躍しつゝあり。



伊國製フィアット號乘合自動車



同上フイアット號幌型